

履修の手引

女子美術大学芸術学部

2023

目 次

建学の精神	3	学部共通科目 (A～E群)	31
芸術学部 教育目標	3	履修上の注意	36
芸術学部 カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)	3	美術学科	37
芸術学部 ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)	3	「美術選択実技A・B」「美術選択演習A・B」	39
主要日程	4	洋画専攻	40
学籍コード	6	日本画専攻	46
出席番号	6	立体アート専攻	53
本学ポータルサイト「Active Academy」	6	美術教育専攻	58
授 業	7	芸術文化専攻	65
気象警報等による授業の休講	9	デザイン・工芸学科	70
出欠席	10	「デザイン・工芸選択実技A・B」	71
単位の基準	11	ヴィジュアルデザイン専攻	72
単位修得の流れ	11	プロダクトデザイン専攻	78
履修科目の登録	12	環境デザイン専攻	84
試 験	12	建築士受験資格 (環境デザイン専攻対象)	90
学習の評価と GPA 制度	16	工芸専攻	92
単位の授与	17	アート・デザイン表現学科	98
成績通知	18	メディア表現領域	99
履修登録	19	ヒーリング表現領域	104
単位の認定	22	ファッションテキスタイル表現領域	110
科目等履修生	25	アートプロデュース表現領域	116
転学科／転専攻・領域	25	共創デザイン学科	122
2023 年度入学生 卒業条件	26	学芸員養成課程	128
学部共通科目	27	ダブルコース (副専攻)	134
履修上の注意	29	本学ポータルサイト「Active Academy」 Web 履修登録の手順について	138
2022 年度以前入学生 卒業条件	30	Web レポート提出の手順について	153
		Web 出欠登録の手順について	156
		Q & A	158

本書に記載されたスケジュールは変更になる場合があります。(2023年3月10日時点)

表紙デザイン：DESIGN ROOM 所属

田谷 初音

〈CONCEPT〉

「女子美生が伸び伸び個性を発揮しながら、素敵な実りがありますように」という思いを込めてデザインしました。女子美生が成長する姿を「女性」や冬の寒さに耐え花を咲かすことから来ている「忍耐、辛抱」などの意味がある桃の実で表しています。人によって吸収することも、表現することも様々だと思います。1年後にどんな実りがあるだろう?想像すると新学期の授業も楽しみです。

建学の精神

「女子美」の名で知られる本学園は、女性に対して高等教育機関における美術教育への門戸が開かれていなかった明治33（1900）年に、「[芸術による女性の自立](#)」、「[女性の社会的地位の向上](#)」、「[専門の技術家・美術教師の養成](#)」を目指して、美術教育をおこなう学校として創立しました。

以後、今日までの120年にわたる長い歴史の間に、画壇・デザイン界をはじめ、教育界などあらゆる分野に優れた人材を輩出するとともに、社会で自立できる女性たちを送り出してきました。

現代においても、知性と感性と技能を併せもち、美術の専門を活かして社会的、経済的に自立できる人材の育成を、下記の教育理念のもとにおこなっています。

芸術学部 教育目標

芸術との感動的出会いを積み重ね、創造の喜びを培い、社会の流れを先取りする芸術的感性と、広い視野、柔軟な思考力、確かな技術を持ち、時代を超えた美を追求する、個性豊かな人材や専門家の育成を教育目標とします。

芸術学部 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

芸術学部の教育目標を基に、美術・芸術を学ぶ上で、その基盤となる知識と教養、各分野・領域の基礎力・発展力を身につけ、一人ひとりの個性を伸ばせる制作や研究を展開できる教育課程とします。

芸術学部 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

以下を身に付けたものに対して、学位を授与します。

- ・芸術をはじめ、広く、人文、社会、自然科学に関する知識を習得している。[「知識・理解」](#)
- ・課題やテーマに対して主体的、計画的に取り組む姿勢、生涯を通じて学び、創作や研究に取り組む素養を身に付けている。[「関心・意欲・態度」](#)
- ・課題やテーマに対して、的確な情報収集や分析、論理的思考ができる。[「思考・判断」](#)
- ・芸術分野において必要とされる技術、表現力を身に付けている。[「技能・表現」](#)
- ・自らの創作や考えを伝えるコミュニケーション・スキルやプレゼンテーション能力を身に付けている。[「技能・表現」](#)

主要日程

4月	
1	土
2	日
3	月
4	火
5	水 入学式
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月 前期授業開始
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月
18	火
19	水
20	木
21	金
22	土
23	日
24	月
25	火
26	水
27	木
28	金
29	土 ※ (昭和の日)
30	日

オリエンテーション

5月	
1	月
2	火
3	水 ※ (憲法記念日)
4	木 ※ (みどりの日)
5	金 ※ (こどもの日)
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土
28	日
29	月
30	火
31	水

6月	
1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水
8	木
9	金
10	土
11	日
12	月
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日
19	月
20	火
21	水
22	木
23	金
24	土
25	日
26	月
27	火
28	水 学生総会
29	木
30	金

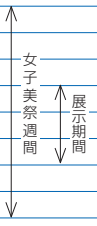
7月	
1	土
2	日
3	月
4	火
5	水
6	木
7	金
8	土
9	日
10	月
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月 (海の日)
18	火
19	水
20	木
21	金
22	土
23	日
24	月
25	火 試験・集中補講日
26	水 試験・集中補講日
27	木 試験・集中補講日
28	金 夏期休業 (~9月10日)
29	土
30	日
31	月

8月	
1	火
2	水
3	木
4	金
5	土
6	日
7	月
8	火
9	水
10	木
11	金 (山の日)
12	土
13	日
14	月
15	火
16	水
17	木
18	金
19	土
20	日
21	月
22	火
23	水
24	木
25	金
26	土
27	日
28	月
29	火
30	水
31	木

9月	
1	金
2	土
3	日
4	月
5	火
6	水
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月 後期授業開始
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月 (敬老の日)
19	火
20	水
21	木
22	金
23	土 (秋分の日)
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土

※ 4月29日(土)、5月3日(水)~5月5日(金)の祝日について、講義時間帯開設科目は通常授業日とします。実技時間帯開設科目は所属研究室に確認してください。

10月	
1	日
2	月
3	火
4	水
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月 (スポーツの日)
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金
21	土
22	日
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土
29	日
30	月 創立記念日 ※通常授業日
31	火



11月	
1	水
2	木
3	金 (文化の日)
4	土
5	日
6	月
7	火
8	水
9	木
10	金
11	土
12	日
13	月
14	火
15	水
16	木
17	金
18	土
19	日
20	月
21	火
22	水
23	木 (勤労感謝の日)
24	金
25	土
26	日
27	月
28	火
29	水
30	木

12月	
1	金
2	土
3	日
4	月
5	火
6	水
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月
19	火
20	水
21	木
22	金
23	土
24	日
25	月
26	火 冬期休業 (~1月7日)
27	水
28	木
29	金
30	土
31	日

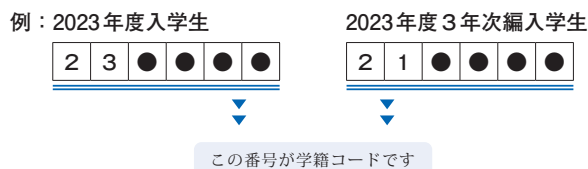
1月	
1	月 (元日)
2	火
3	水
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月 (成人の日)
9	火 授業再開
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水 試験・集中補講日
18	木
19	金
20	土
21	日
22	月 後期授業終了
23	火 試験・集中補講日
24	水 試験・集中補講日
25	木 試験・集中補講日
26	金 春期休業開始
27	土
28	日
29	月
30	火
31	水

2月	
1	木
2	金
3	土
4	日
5	月
6	火
7	水
8	木
9	金
10	土
11	日 (建国記念の日)
12	月 (振替休日)
13	火
14	水
15	木
16	金
17	土
18	日
19	月
20	火
21	水
22	木
23	金 (天皇誕生日)
24	土
25	日
26	月
27	火
28	水
29	木

3月	
1	金
2	土
3	日
4	月
5	火
6	水
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火 学位・修了証書授与式(予定)
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月
19	火
20	水 (春分の日)
21	木
22	金
23	土
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土
31	日

学籍コード

入学から卒業に至るまでシステム処理上の不変コードとして使用されるもので、頭2ケタが西暦下2ケタの入学年度となっています（3年次編入学は、3年次在學生と同じ西暦となります）。学生証は身分証明書であり、試験や履修登録等で使用するのので、常時携帯してください。



出席番号

出席番号については入学時に配付されたアカウント通知書で確認してください。出席番号は試験答案やレポート、聴講票、その他諸届に所属、年次とともに記入することになりますので間違いのないようにしてください。



本学ポータルサイト「Active Academy」

本学は履修登録やシラバス閲覧、休講連絡、レポート提出、出欠、大学・研究室・授業担当教員から皆さんへの諸連絡のため、本学ポータルサイト「Active Academy」（以後、「ポータルサイト」と記載）を用意しています。ポータルサイトは学内外を問わず、アクセス・利用することが可能です。

利用方法については、P.138以降に記載しています。

授 業

1. 授業時間

第1時限	9:20～10:50	2・4年次専門科目時間帯 (実技時間帯)
第2時限	11:00～12:30	
第3時限	13:20～14:50	1・3年次専門科目時間帯 (実技時間帯)
第4時限	15:00～16:30	
第5時限	16:40～18:10	

※立体アート専攻3年次は、1・2時限を専門科目時間帯とする。

- 専門科目時間帯（実技時間帯）は各専攻・領域の専門科目を行います。
- 専門科目時間帯（実技時間帯）は月～金曜日です（4年次は土曜日も含む）。

2. オンライン授業

一部の授業では、インターネットを利用した遠隔授業（オンライン授業）の形式で実施する場合があります。

遠隔授業の実施にあたっては、通信環境等の整備が不可欠になります。学生の皆さまには受講環境の整備（通信および端末）をお願いいたします。

オンライン授業に際してのマニュアル等は、随時「学生用オンライン授業サポートページ」(ガイダンス時に案内)にて公開致します。

3. 休 講

授業担当教員の都合等により休講する場合は、休講掲示板に掲示するとともに、履修者にポータルサイト等にて告知します。

※休講掲示・告知がなく30分経過しても授業担当教員が来ない場合は、休講措置をとることがありますので教育支援センターに問合わせてください。

4. 補 講

補講は、突然の休講などで延期されていた授業を、後に実施する授業のことで、その授業を履修している学生は出席する必要があります。

原則、休講分の授業については、補講期間に補講を実施します。補講の日程についてはポータルサイトにて告知します。

補講日程はポータルサイトのトップ画面のMy Scheduleには反映されません。(通常の授業日のスケジュールが表示されています。)

集中補講日の時間割については、必ず別途配信を確認してください。

5. 欠席の扱い

欠席理由により、公欠扱いとなる場合、公欠扱いとならない場合があります。以下の表を参照し、手続きを行ってください。なお、表に記載された以外の理由については全て「欠席」となります。

<p>公欠…該当する授業の回数と欠席回数を公欠回数分減らす措置です。 欠席を出席扱いにするものではありません。</p> <p>例：半期 15 回の授業で教育実習で 3 回欠席し、それ以外は全て出席した場合、12/12 回（出席回数 / 出席すべき授業回数）となります。</p>

欠席理由	公欠扱い	手続き方法
①教育実習	○	掲示や事前指導の指示に従ってください。
②介護等体験	○	
③博物館実習	○	
④古美術研究 (芸術文化専攻のみ)	○注1	
⑤裁判員制度に伴う裁判参加	○	「裁判員等選任手続期日のお知らせ(呼出状)」の発行日から14日以内に、コピーを持参の上、教育支援センターに申し出てください。また、事後手続きとして、公判終了日から7日以内に、裁判所が発行する証明書を教育支援センターに提出してください。
⑥インターンシップ	△注2	
⑦学校保健安全法 感染症の 予防に関する規則 第19条 により出席停止	○注3	※下記【「学校保健安全法施行規則(感染症の種類)第18条」第一・二・三種疾患について】参照の上、手続きを行ってください。

(その他)

- ・忌引は公欠対象外です。
- ・大規模な自然災害で欠席が5日間以上に及ぶ場合は、交通機関の証明書等を持って教育支援センターに申し出てください。

注1) 授業期間に実施した場合のみ。

注2) 教務部長が特別に認めたもの(大学が認めた海外インターンシップ等)のみ公欠の対象とします。

注3) 【「学校保健安全法施行規則(感染症の種類)第18条」第一・二・三種疾患について】

以下の疾患に該当するとの医師の診断を受けた場合は、手続きが必要になります。

対象疾患：

第一種	治癒するまで入院治療が必要。 エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウィルス)、中東呼吸器症候群(MERSコロナウィルス)、特定鳥インフルエンザ
第二種	飛沫感染する感染症で、罹患が多く、学校で流行しやすい。 インフルエンザ、麻疹(はしか)、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、百日咳、咽頭結膜熱(プール熱)、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	経口感染症とその他学校で流行しやすい感染症。 コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症(O157等)、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症[溶連菌感染症、手足口病、伝染性紅斑、マイコプラズマ異型肺炎、流行性嘔吐下痢症(ウイルス性胃腸炎)、ウイルス性肝炎、伝染性眼疾患、伝染性皮膚疾患]

注4) 当面の間新型コロナウイルス感染症についても注3)の各種疾患と同様の取扱いとします。

(手続き方法)

1. 医務室に連絡

相模原キャンパス医務室：電話 042-778-6734

杉並キャンパス 医務室：電話 03-5340-4571

※登校支障期間中に試験やレポート提出がある場合、追試験、追レポート対象となる科目もありますので、教育支援センターにお問い合わせください。

教育支援センター相模原グループ：電話 042-778-6613

教育支援センター杉並グループ：電話 03-5340-4508

2. 「登校許可書」提出

治癒して登校する場合には、本学所定書式「登校許可書」を担当医に記入いただき、医務室へ提出してください。受診先の文書書式（感染症が治癒し感染の可能性の無い事、及び登校支障期間を明示した文書）でもかまいません。

「登校許可書」は本学ホームページからダウンロードしてください。

※欠席の証明についてはこの登校許可書で行いますので、それ以外の診断書等は不要です。

3. 「公欠願」提出

対象疾患に該当の場合は公欠となります。「公欠願」は教育支援センターにて手続きしてください。用紙は本学ホームページからダウンロードできます。

※ただし新型コロナウイルス感染症の場合、濃厚接触者として特定されるなど罹患していなくても隔離されるような状況が生じた際は受講が困難であることを証する書類をもって公欠と認めます。

6. 授業内容の録音・撮影について

本学では著作権保護等の観点より、あらかじめ許可されている場合を除いては、授業内容の録音・撮影を原則禁止しております。

7. 特別な配慮・支援を希望する学生へ

入学後、障がいや疾病で授業に関する特別な配慮・支援の必要が新たに発生した場合は、教育支援センター、学生相談室、医務室に申し出てください。

関係部署との事前相談や面談を経て、正式な申請を行うことで、配慮・支援が可能となる場合があります。なお、正式な申請の際には障がい者であることを証する書類や医師による診断書が必要になります。

ただし、本人の希望する配慮・支援内容全てには対応できない場合があることや、出席回数、成績評価基準の考慮は一切行わないことは、あらかじめご了承ください。

気象警報等による授業の休講

【相模原キャンパス】

気象庁より、神奈川県西部相模原に「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」の気象警報が発表された場合は以下のように取扱います（注意報は該当しません）。

- ・午前6時の時点で発表されている場合は、午前の授業を休講とする。
- ・午前10時の時点で発表されている場合は、午後の授業を休講とする。

【杉並キャンパス】

気象庁より、23区西部に「暴風警報」「大雪警報」「暴風雪警報」の気象警報が発表された場合は以下のように取り扱います（注意報は該当しません）。

- ・午前6時の時点で発表されている場合は、午前の授業を休講とする。
- ・午前10時の時点で発表されている場合は、午後の授業を休講とする。

【休講の確認方法】

上記やその他の事由により授業を休講する場合は、以下にて告知しますので確認してください。

- ・学内掲示板
- ・本学ホームページ
- ・ポータルサイト
- ・本学代表電話 <相模原キャンパス> 042-778-6111 <杉並キャンパス> 03-5340-4500

出欠席

各授業では出欠席の確認を行います。

確認の方法は主に、パソコン・タブレットまたはスマートフォン端末を利用した出席確認（Web出欠登録）と、この他に聴講票を配布する方法があります。

注）教員によっては、上記以外での出欠席の確認があります。その場合は担当教員の指示に従ってください。

Web出欠登録の流れ

授業科目毎の出欠情報がActive Academyの「出席簿」へ自動で登録されるため、出欠状況をリアルタイムに確認・把握する事が可能となります。

出欠登録専用サイト
QRコード

①出欠登録専用サイトに接続します。

<https://aa.joshihi.net/attend/>

②出席する授業のパスワードを入力し、登録を完了します。

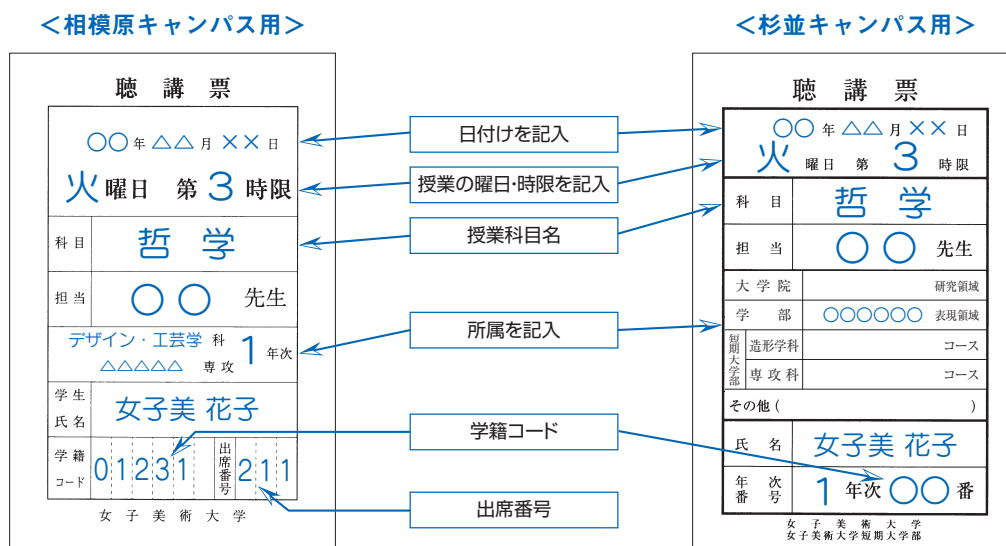
パスワードは授業時に指示があります。



※出欠登録専用サイトへのログインは、Active Academyに接続する際に使用するID・パスワードと同一です。

※詳細は、130ページの「Web出欠登録の手順について」を参照してください。

聴講票の記入例



単位の基準

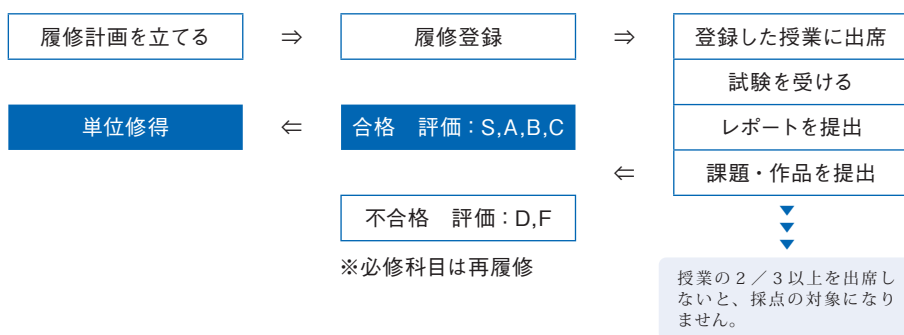
各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、次の基準により計算されます。なお、授業は前期15週、後期15週の通年30週とし、時間割の1時限は正味90分ですが単位計算上は2時間として計算しています。

講義	15時間の授業をもって1単位とする
演習	15～30時間の授業をもって1単位とする
実技・実習	30～45時間の授業をもって1単位とする

<単位のしくみ>

単位 (1単位=45時間の学修)	=	授業	+	自学自習 (予習・復習・課題等)
(例) 4単位の講義 (180時間)	=	30コマの授業 (60時間)	+	60コマ分の自学自習 (120時間)
2単位の講義 (90時間)	=	15コマの授業 (30時間)	+	30コマ分の自学自習 (60時間)
2単位の演習 (90時間)	=	15～30コマの授業 (30～60時間)	+	15～30コマ分の自学自習 (30～60時間)
2単位の実技 (90時間)	=	30～45コマの授業 (60～90時間)	+	0～15コマ分の自学自習 (0～30時間)

単位修得の流れ



履修科目の登録

1. 年度始めに配付された「時間割表」にもとづき、その年度に履修する授業科目すべて（一部の科目を除く）を、定められた期日までにポータルサイトで履修登録してください。（P.19参照）
2. 履修する授業科目を選ぶ場合は、自分の所属する学科または専攻・領域に担当された授業科目の中から選んでください。一部の科目を除き、他の学科や専攻・領域の授業を受講することはできません。
3. 履修希望者が多い科目は、人数を制限することがあります。また必修科目等一部の科目を除き、履修希望者数が5人未満の場合は、不開講となることがあります。
4. 1年間に履修登録できる単位の上限は1年次42単位、2年次以降49単位です。ただし下記科目は除きます。

資格科目

2023年度以降の入学生 アートを社会と生活に生かす「プロジェクト・スタディーズ」「インターンシップ1～4」「国際芸術プログラム」「卒業制作」「卒業研究」

2022年度以前の入学生 共通科目E群「サービス・ラーニング」「インターンシップA～D」「国際留学プログラム」

試験

1. 試験の方法

試験には筆記試験、レポート（Web提出含む）・作品の提出などがあります。

2. 試験の時期

筆記試験は担当教員の指示に基づいて実施します。

レポートの提出による試験は、授業担当教員の指示で各授業内に提出する場合と、各学期末に指定された日時・場所に提出する場合があります。

作品の提出による試験はレポートの提出による試験に準じて実施します。

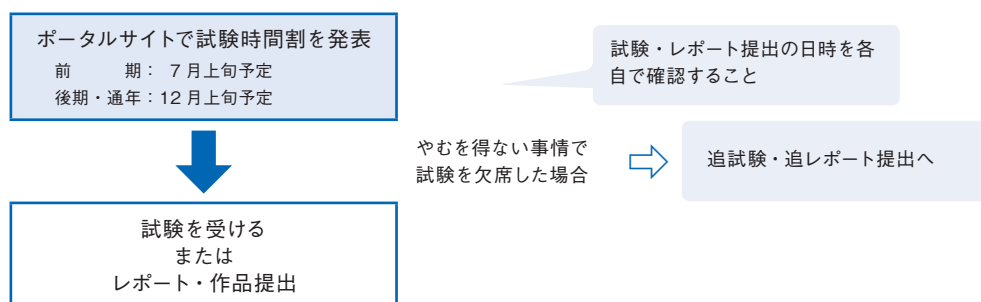
試験（筆記試験、レポート・作品提出）、補講、教室変更、その他試験に関する必要事項はポータルサイトにて告知します。

3. 受験の資格

次に該当する学生は原則として受験資格がありません。

- ・無登録者（授業科目の履修登録をしなかった者）
- ・出席が授業回数の3分の2に満たない者
- ・授業料を無断で滞納している者

4. 試験の流れ



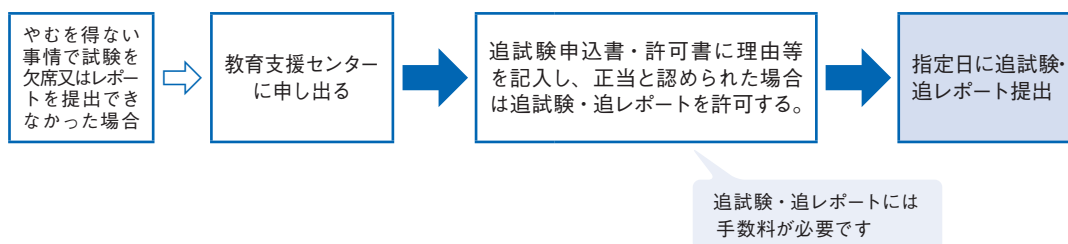
5. 追試験・追レポート

- ・ 次の①～⑦の理由またはその他のやむを得ない事情により、筆記試験を欠席した場合やレポート・作品提出日に提出できなかった場合、教育支援センターに追試験・追レポートを願い出ることができます。願い出が承認された場合、追試験を受験すること、レポート・作品を追レポートとして提出することができます。

追試験・追レポート受験のための理由
① 病気（診断書・医療機関の領収書を要する）
② 交通事故・遅延（相当証明書を要する）
③ 冠婚葬祭（該当する催しの招待状等を要する）
④ 就職試験（企業の証明を要する）
⑤ 教員採用試験（教職課程の承認を要する）
⑥ 公欠扱いとなるもの（教育実習・介護等体験・博物館実習など） P.8 参照
⑦ 天災

追試験受験・追レポート提出が認められるか否かは、前もって教育支援センターで確認してください。試験日時の勘違い、寝坊等の本人の不注意や、アルバイト、旅行等の試験放棄は対象になりません。

- ・ 追試験・追レポートの申込み期間は掲示にて告知します。願い出時は、試験を欠席した理由、レポート・作品を提出できなかった理由を確認できる証明書（上記の①～⑦参照）が必要です。期間終了後は、一切受け付けません。
- ・ 追試験・追レポートの願い出が承認された場合は、所定の手続きと定められた手数料（1,000円）を納入しなければなりません。公欠扱いとなる理由の場合、手数料は不要です。
- ・ 追試験の日時と試験場、追レポートの提出期限・提出場所についてはポータルサイトにて告知します。
- ・ Web提出でのレポートの場合は時間を問わず提出が可能なおことから、追試験・追レポートの実施はいたしません。



6. 再試験

- ・ 卒業年次の試験で、卒業に必要な科目・資格関連科目が不合格（D）の場合は、再試験を受けることができます。ただし、評価が採点不可（F）の場合は受験資格がありません。
- ・ 再試験の願い出は、前期8月初旬・後期2月初旬の一定期間に行うとともに、所定の手続きと定められた手数料（1,000円）を納入しなければなりません。期間終了後は一切受け付けません。
- ・ 再試験の日時と試験場はポータルサイトにて告知します。

7. 試験（筆記試験、レポート・作品提出）に関する注意事項

〔筆記試験〕

- ・試験開始前に、「学生証」を机の上に提示してください。紛失したり忘れた場合は教育支援センターで「受験許可証」の発行を受け、受験してください。
- ・試験場では、筆記用具、許可された物品以外を机の上に置いてはいけません。ノートや参考書の使用を許可された場合も各自持参のものを使用し、互いの貸借は禁じます。
- ・遅刻者の扱いは、授業担当教員（試験監督者）の指示に従ってください。
- ・試験中に不正行為が認められた時は、教授会にはかり厳重に処分します。当該科目は採点不可（F）とし、保証人に通知します。また教員免許状取得のための大学からの一括申請は行いません。悪質と判断された場合、さらに懲戒処分を下す場合があります。

〔レポート・作品提出〕

- ・ポータルサイトで提出するレポート・作品の提出方法については、P.153の「Webレポート提出の手順について」や、ポータルサイトのトップ画面に掲載されている「Webレポート提出マニュアル」を参照してください。
- ・教育支援センターにて受け付けるレポート・作品については、「レポート提出票」を貼付し、定められた日時・場所に提出してください。
- ・レポート提出時に「レポート提出票の控」を受け取って成績が出るまで保管してください。
- ・レポートや作品を許可なく直接授業担当教員に郵送することは禁止です。
- ・教育支援センターではレポート・作品は所定の日時以外は受け付けません。提出期限に遅れた場合は「5. 追試験・追レポート」を参照し、手続きをしてください。
- ・レポートの提出方法は15ページの見本を参照してください。

他人の文章や作品（Webページを含む）を全部または一部でも出典を明示せずそのまま無断で借用することは剽窃（盗用）にあたります。Webページの文章を単にコピー・アンド・ペーストしてレポート作成しないよう注意してください。剽窃は、カンニング同様の不正行為とみなし、厳重に処分の上、当該科目は採点不可（F）になる場合があります。作品の剽窃（盗用）に関しても同様です。

レポート提出票の記入見本

<相模原キャンパス用>

1枚目「レポート提出票」

3箇所ホチキス

レポート提出票 【相模原キャンパス】

2023年度

科目名 新美術論	曜日・時間 月 1	教員名 麻溝太郎
(学部生) 美術 洋画	学種コード 2 3 0 2 2 0	学年 1
(大学院生) 専攻・領域 専攻 研究領域	出席番号 2 2 0	年次
学生氏名 相模 好子	成績	受付印

※枠内を墨のボールペンで、すべて記入してください。
記入に不備がある場合、成績をつけられないことがあります。

<教育支援センター控> ※切り取らずに教育支援センターに提出してください。

2023年度

科目名 新美術論	曜日・時間 月 1	教員名 麻溝太郎
(学部生) 美術 洋画	学種コード 1 2 2 0	学年 1
(大学院生) 専攻・領域 専攻 研究領域	出席番号 2 2 0	年次
学生氏名 相模 好子	成績	受付印

<学生控> ※切り取らずに教育支援センターに提出してください。

2023年度

科目名 新美術論	曜日・時間 月 1	教員名 麻溝太郎
(学部生) 美術 洋画	学種コード 1 2 2 0	学年 1
(大学院生) 専攻・領域 専攻 研究領域	出席番号 2 2 0	年次
学生氏名 相模 好子	成績	受付印

※本票は成績発表まで必ず各自保管してください。紛失した場合、再発行できません。

2枚目
「レポートの表紙」又は「レポート本文」

「レポート提出票」
「レポートの表紙」
「レポートの本文」
全てまとめて
3箇所ホチキス

※レポートの表紙又は、レポート本文の右下白に
(レポート提出票の学生控を切り取った時に見える場所に) 科目名・教員名・本人の学科・専攻・学年・出席番号・氏名を記入すること!



「新美術論」 (月曜日1時限)
麻溝 太郎 先生
美術学科 洋画専攻
1年 220番 相模 好子

<杉並キャンパス・学部生用>

1枚目「レポート提出票」

3箇所ホチキス

レポート提出票 杉並校舎・学部生用

2023年度 (前期) 後期・通年・集中

科目名 生物学 (月曜日 1時限)	教員名 杉並 花子 先生
(学部生) アート・デザイン表現学科 メディア 表現領域	成績
(大学院生) 専攻 専攻 研究領域	1
(その他)	年次
学籍番号 2 3 1 5 9 0	出席番号 0 9 0
氏名 和田 好美	受付印

※枠内を墨のボールペンですべて記入してください。
記入に不備がある場合、成績をつけられないことがあります。

<教育支援センター控> ※切り取らずに教育支援センターに提出してください。

2023年度 (前期) 後期・通年・集中

科目名 生物学	教員名 杉並 花子 先生
(学部生) メディア 表現領域	学籍番号 2 3 1 5 9 0
(大学院生) 専攻 専攻 研究領域	学年 1
(その他)	氏名 和田 好美

<学生控> ※切り取らずに教育支援センターに提出してください。

2023年度 (前期) 後期・通年・集中

科目名 生物学	教員名 杉並 花子 先生
(学部生) メディア 表現領域	学籍番号 2 3 1 5 9 0
(大学院生) 専攻 専攻 研究領域	学年 1
(その他)	氏名 和田 好美

※本票は成績発表まで必ず各自保管してください。紛失した場合再発行出来ません。

2枚目
「レポートの表紙」又は「レポート本文」

「レポート提出票」
「レポートの表紙」
「レポートの本文」
全てまとめて
3箇所ホチキス

紫の用紙を使用してください。

※レポートの表紙又は、レポート本文の右下白に
(レポート提出票の学生控を切り取った時に見える場所に) 科目名・教員名・本人の学科・専攻・学年・出席番号・氏名を記入すること!



「生物学」 (月曜日1時限)
杉並 花子 先生
アート・デザイン学科メディア表現領域
1年 90番 和田 好美

学習の評価と GPA 制度

履修登録した科目の成績を5段階で評価し、それぞれに対して4～0のグレード・ポイント（以下、GPと表記）が付きます。GPA(Grade Point Average)とは、これらのポイントの1単位あたりの平均値になります。

評価	評価基準	合否	GP
S	100～90点	合格	4
A	89～80点		3
B	79～70点		2
C	69～60点		1
D	59点以下	不合格	0
F	採点対象外(出席不良等)	採点不可	0

評価の基準・方法は試験の点数だけでなく、課題・レポート内容や受講態度等を含めた評価によります。評価基準は各授業科目ごとに異なるので、ポータルサイトの「シラバス」に掲載されている「評価方法」欄を十分確認してください。

※不合格(D)、採点不可(F)は、「成績通知」には表示されますが、「成績証明書」には表示されません。

GPAの種類は以下の通りになります。

学期 GPA

- ・当該学期に成績評価された単位を対象として計算した GPA
- ・通年科目は後期に算出されます

通算 GPA

- ・入学時から当該学期までに成績評価された単位を対象として計算した GPA

GPA 計算方法 (D・F 評価も含めて計算します。)

学期 GPA	=	$\frac{\text{学期毎で履修登録した科目の(単位数} \times \text{GP)の合計}}{\text{当該学期履修登録単位数}}$
通算 GPA	=	$\frac{[\text{学期毎で履修登録した科目の(単位数} \times \text{GP)の合計}] \text{の総計}}{\text{総履修登録単位数}}$ ※入学時から当該学期まで計算

前期 (前期開設科目のみで計算)					後期 (後期・通年開設科目のみで計算)					
科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP	科目名	単位数	評価	GP	単位数×GP	
●●ゼミ	2	S	4	2単位×4= 8	●●語I	2	B	2	2単位×2= 4	
○○論	2	A	3	2単位×3= 6	○○学	4	C	1	4単位×1= 4	
□□概論	2	D	0	2単位×0= 0	□□論	2	D	0	2単位×0= 0	
△△演習	1	F	0	1単位×0= 0	△△実技	1	F	0	1単位×0= 0	
①前期履修登録単位数→	7			②単位数×GPの合計→	14	③後期履修登録単位数→	9		④単位数×GPの合計→	8
前期 GPA	$\frac{\text{②(前期履修登録単位数)} \times \text{GPの合計} = 14}{\text{①前期履修登録単位数} = 7} = 2.00$				後期 GPA	$\frac{\text{④(後期履修登録単位数)} \times \text{GPの合計} = 8}{\text{③後期履修登録単位数} = 9} = 0.89$				
通算 GPA (入学時から当該学期まで計算)										
通算 GPA =	$\frac{\text{入学時から当該学期までに履修登録した科目の(単位数} \times \text{GP)の合計} \quad \text{②} 14 + \text{④} 8}{\text{総履修登録単位数} \quad \text{①} 7 + \text{③} 9} = 1.38$									
成績通知書 例										
	前期	後期	通算							
	2.00	0.89	1.38							

GPA対象外科目

- ・ 認定科目（編入学、転学科、転専攻・領域、外国語検定資格、既修得単位認定、単位互換制度協定校提供科目等）
- ・ 卒業要件に含まれない科目（教職に関する科目、博物館に関する科目）

一部の科目を除き、単位修得した科目を再履修する事はできません。

不合格・採点不可科目を再履修し単位修得した場合、当該科目の不合格、採点不可の際の単位については、総履修登録単位数から減算します。

単位の授与

授業回数の3分の2以上出席し、試験等の評価がC以上だった科目は合格とし、所定の単位を与えます。一部の科目を除き、単位修得した科目を再度履修することはできません（P.20〔複数履修できる科目〕参照）。

不合格（D）・採点不可（F）だった場合は、次期以降に再履修することができます。

成績通知

1. 成績通知

今年度履修科目の成績通知（成績・修得単位）は以下の時期に通知します。

	成績通知（前期科目）	成績通知（通年・後期科目）
1～3年次	9月後期授業開始日に配付	春期休業中（3月中旬）にポータルサイトにて通知
4年次	9月後期授業開始日に配付	2月中旬に配付
保証人	保証人に年1回（5月頃を予定）、「成績通知」を送付します。	

2. 成績照会

成績はポータルサイトで確認できます。（P.139【メニューの機能】参照）

3. 採点調査願

「成績通知」に疑問がある場合は、成績評価が「D」または「F」の科目に限り、所定の期間に「採点調査願」を教育支援センターで受け付けます。（期間を過ぎたものは受け付けません）申請方法はポータルサイトにて告知します。

履修登録

1. 履修計画

どの科目を履修するかについては、卒業までのプロセスを自分なりに考え、授業科目を体系づけて計画することが必要です。また、教員免許状・学芸員免許状などの免許や資格を取得する場合は、あわせて履修計画を立てなければなりません。

卒業に必要な単位数は124単位です。それを4年間で修得するために各自しっかり履修計画を立ててください。

各自の履修計画を立てるには、「履修の手引」、シラバス、「時間割表」及びカリキュラムマップ・カリキュラムツリー（本学ウェブサイト掲載）を参考にするとよいでしょう。

履修や学修について相談したいことがあるときは、教育支援センターまでご相談ください。

2. 履修科目の登録方法

授業科目を履修するためには、その年度に履修する授業科目の全てについて、履修登録をしなければなりません。履修登録が完了しないと、授業を受講できないとともに単位が修得できません。

履修登録はポータルサイトでの手続きとなります。必ずWeb履修登録締切までに完了してください。

※Web履修登録の詳細については、P.138以降で使用方法を確認してください。ポータルサイトのログインページは「<https://aa.joshibi.net/>」です。

I 履修関係書類の交付

- ① 1～4年次とも4月の専攻・領域別オリエンテーションに「履修の手引」「時間割表」を配布します。
- ② 「時間割表」の訂正、教室の変更等はポータルサイトにて告知します。ポータルサイトからの配信には十分注意してください。

II 履修計画の立案、決定

- ① 「履修の手引」「時間割表」およびポータルサイト「シラバス」、2～4年次生は「前年度の成績通知書」の単位修得状況を確認しながら、今年度の履修計画を立ててください。授業科目の授業内容については、ポータルサイトの「シラバス」を参照し、また各科目区分の「履修上の注意」もよく読み、間違いのないようにしてください。
- ② 専門科目時間帯（実技時間帯 P.7参照）は各専攻・領域の専門科目を履修するものとして履修登録し、その他の時限に「時間割表」を参照して、卒業必要科目から順に各自が希望する講義系科目を決定（履修登録）していきます。
- ③ 年次指定のある科目については必ず指定年次に履修してください。
学部共通科目および学科共通科目等の年次指定のない科目については遅くとも3年次終了までには卒業要件を充足するように履修計画を立ててください。
- ④ 1年間に履修登録できる単位の上限は1年次42単位（資格科目は除く）、2～4年次49単位です（資格科目は除く）。
下記科目については別途履修登録を行うので、この時点で登録はしないでください。（履修登録上限単位に含みません）
2023年度以降の入学生 アートを社会と生活に生かす「プロジェクト・スタディーズ」「インターンシップ1～4」「国際芸術プログラム」
2022年度以前の入学生 共通科目E群「サービス・ラーニング」「インターンシップA～D」「国際留学プログラム」
- ⑤ 時間割上で専攻・領域のクラス指定がされている授業科目は、自専攻・領域のクラスを履修してください。再履修で認められた場合を除き、原則として他専攻・領域のクラスは履修できません。
- ⑥ 原則として専門科目時間帯（実技時間帯）に講義系科目を履修することはできません。ただし下級年次で修得すべきであった卒業必要科目や資格必修科目が、未

修得だった場合、専門科目時間帯（実技時間帯）の重複履修を一部認めることがありますので、所属する研究室及び教育支援センターに事前に申し出てください。

〔複数履修できる科目〕

同一科目名の授業科目が複数開講されていますが、1コマしか履修できません。また、年度が変わり、担当教員・内容が変更されても、過去に単位修得した科目である場合、再度履修することはできません。ただし、以下の科目区分、授業科目は複数履修することが可能です。

- 外国語コミュニケーションは同一科目名でも複数履修することが可能です。ただし、内容・教科書が同一の授業科目を2コマ以上履修することはできません。また、年度が変わっても、過去に単位修得した科目と内容・教科書が同一の授業科目である場合、再度履修することはできません。
- 「スポーツ演習A～D」合計4単位までを修得の上限とし、種目が異なればそれぞれ最大2単位修得することができます。
- 2023年以降入学生「プロジェクト・スタディーズ」「インターンシップA～D」「国際芸術プログラム」2022年以前入学生は「サービス・ラーニング」「インターンシップA～D」「国際留学プログラム」同一科目名でも複数履修することが可能です。また過去に単位修得した科目でも、年度が変わって再度履修することが可能です。

〔教職に関する科目〕

専攻・領域・出席番号をもとにクラスが指定されています。自分が指定されたクラスを「時間割表」で確認し、履修してください。

なお、指定された「教職に関する科目」のクラスと、他の履修したい科目が時間割上重複する場合は、「教職に関する科目」を他のクラスに変更して履修することができます（1年次生は除く）。

〔博物館に関する科目〕

専攻・領域ごとに履修上の注意事項がありますので、P.128～P.133の「学芸員養成課程について」を参照してください。

〔他学科の専門科目の履修について〕

他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、学科共通科目の選択科目に卒業所要単位として算入できます。各専攻・領域で卒業所要単位に算入できる単位数が違います。各専攻・領域のカリキュラム表の注欄で確認してください。また、履修できる他学科の学科共通科目は時間割に掲載しています。反対校地の科目を履修希望する場合は、自学科・専攻の学習に支障をきたさないよう、よく検討してください。

Ⅲ 抽選科目の登録（Web）※抽選科目の履修を希望される方のみ。

履修人数に上限がある授業科目はWeb抽選を行います。下記の抽選科目Web登録締切までにポータルサイトの「抽選授業希望登録」にて抽選授業の希望順位を登録してください（P.148参照）。抽選科目は「時間割表」で確認してください。希望順位の登録は指定された順位まで、または指定された順位以内の登録が必要ですので、ポータルサイトの「シラバス」にて、履修したいグループの授業科目のシラバスをよく読み、あらかじめ登録する抽選授業を決めた上で登録してください。

抽選科目 Web 登録締切 4月7日（金） 10：00

※当選授業と同じ曜日・時限に履修登録した授業はエラーとなります。抽選科目を登録する場合は、抽選結果発表があるまで、ポータルサイトの「履修登録」にて曜日・時限の授業科目を登録しないでください。

抽選結果発表 4月8日（土） 10：30～

※抽選結果は、ポータルサイトの「授業抽選結果」にて発表されます。当選授業の一部

は履修登録済となっており、ポータルサイト上での取り消し、履修訂正はできません。
※残席のある抽選科目は、ポータルサイトの「履修登録」から、登録することになり、履修登録を完了した方から、先着順で授業の定員まで登録されます。また、残席は他の学生の履修取消により変動します。

※抽選結果発表前にポータルサイトの「履修登録」にて登録した授業が、当選授業と曜日・時限が重複した場合、その授業はエラーとなりますので取り消してください。

IV Web履修登録

- ① ポータルサイトの「履修登録」にて今年度に履修する全授業科目（後期科目も含む）を登録してください。（P.138以降参照）
- ② 必修科目等の登録漏れがないかを各自で十分に確認の上、登録してください。特に、4年次生はその際に科目区分ごとの卒業所要単位も必ず確認してください。

Web履修登録締切4月8日(土) 17:00

※Web履修登録締切を過ぎると、作業途中であっても、履修登録ができなくなりますのでご注意ください。

- ③ 1年次生のみ
Joshibi Foundation Englishの授業クラスについては授業開始までにポータルサイトで発表しますので確認してください。

V 履修登録完了後

〔履修訂正〕

- ① Web履修登録締切後、4月17日（月）に履修登録確認表を所属の研究室より受け取り、必修科目や卒業必要科目等の確認とともに、今年度履修する全授業科目を各自で再確認してください。訂正の必要がある場合は、履修訂正期間に所定の手続きを行ってください。
- ② 履修訂正の確認が終了した時点で今年度の履修科目が確定します。その後の履修科目の変更は、原則として受け付けません。

〔履修科目の中止〕

授業科目の履修にあたっては、十分検討のうえ決定するとともに途中で放棄するようなことがないように努めてください。授業科目の履修を中止する場合は「履修変更申請書」を教育支援センターに提出してください。「履修変更申請書」の提出がなく一方的に授業科目の履修を放棄した場合には、成績通知書に「F」（採点不可）と表示されます。D・F評価も含めて、GPAを計算するため、履修中止科目がある場合は、必ず所定の期間内に履修中止手続きをしてください。

提出締切日：前期5月31日(水) 後期10月31日(火)

〔後期履修変更〕

下記の条件内で後期に履修科目の追加・変更を受け付けます。希望する学生は9月11日（月）～16日（土）にポータルサイトで所定の手続きを行ってください。（ただし、抽選科目、履修者数により変更できない科目があります）

1～3年次：年間上限単位から前期修得単位を除いた単位数内

4年次：卒業要件に必要な単位数

単位の認定

1. 入学時、既修得単位の認定・大学以外の教育施設等における学修の認定

本学入学以前に在学した大学、短期大学、高等専門学校専攻科および文部科学大臣が別に定める学修において修得した授業科目および単位の認定を希望する者は、前在大学等が発行した「成績ならびに単位修得証明書」または、外国語検定資格の技能審査等における学修成果の証明書を添付して「既修得単位認定願」を教育支援センターに提出してください。この手続きは入学前の定められた期間に限ります。

既修得単位の認定は、本学における学部共通科目と学科共通科目の選択科目とし、60単位を超えないものとします（ただし、3年次編入学の場合を除く）。

入学時に単位認定する学習の成果	必要書類
本学入学以前に他大学又は短期大学で修得した授業科目	「既修得単位認定願」と前在大学等が発行した「成績ならびに単位修得証明書」及び授業概要（シラバス） ※前在大学が本学の場合は上記書類は必要ありません。
外国語検定資格の技能審査等における学修成果（認定基準は下表参照）	「検定試験等による単位認定申請書」と「合格証書」または「スコアレコード」の原本

2. 「外国語検定資格の技能審査」による単位認定

本学への入学前または入学後在学中に、以下の外国語検定資格技能審査を受験した場合、その結果により、本学の学部共通科目B群の単位として認定します。「検定試験等による単位認定申請書」と「合格証書」または「スコアレコード」の原本を教育支援センターに提出してください。日程については掲示をご確認ください。

<外国語検定資格技能審査の認定表>

○英語

認定科目名	認定単位数	実用英語技能検定	TOEIC ※	TOEFL (ITP)	TOEFL (iBT)	※学内実施の模擬試験TOEIC (IP) はTOEICのスコアとして扱い認定します。
Joshihi Foundation English A・B	計2単位	2級	470～	460～	42～	
Joshihi Foundation English A・B + Joshihi Global English A・B	計4単位	準1級以上	730～	543～	72～	

○フランス語

認定科目名	認定単位数	実用フランス語技能検定
フランス語I A・I B	計2単位	3級
フランス語I A・I B + フランス語II A・II B	計4単位	2級以上

○ドイツ語

認定科目名	認定単位数	ドイツ語技能検定
ドイツ語I A・I B	計2単位	3級
ドイツ語I A・I B + ドイツ語II A・II B	計4単位	2級以上

○イタリア語

認定科目名	認定単位数	実用イタリア語技能検定
イタリア語I A・I B	計2単位	3級
イタリア語I A・I B + イタリア語II A・II B	計4単位	2級以上

○日本語

認定科目名	認定単位数	日本語能力検定
日本語A・B	計2単位	N1

○中国語

認定科目名	認定単位数	中国語検定	中国語コミュニケーション能力検定 (TECC)	実用中国語技能検定	漢語水平考試 (HSK)
中国語I A・I B	計2単位	3級	400～	4級	3級
中国語I A・I B + 中国語II A・II B	計4単位	2級以上	550～	3級以上	4級以上

●注意事項 <「外国語検定資格の技能審査」による単位認定>

- ・同一語学において、複数の試験で基準を満たしていても、認められる単位数は表のとおりとします。例えば、英検2級とTOEIC470点を満たしていても「Joshibi Foundation English A・B」を2つ（計4単位分）認定することはしません。また、英検準1級とTOEIC470点を満たしている場合は、より上位の基準である英検準1級のみを適用し「Joshibi Foundation English A・B+Joshibi Global English A・B」（計4単位）のみ認定します。
- ・取得時期は、入学前・入学後のどちらも認めます。ただし、検定試験日より2年以内のものに限ります。
- ・学内で行われるTOEIC（IP）、TOEFL（ITP）の模擬試験（国際センター主催）のスコアも認めます。
- ・認定する単位数の上限は4単位（芸術文化は6単位）とします。
- ・単位認定された科目と同一の科目を履修することはできません。
- ・単位認定時に同一の科目を履修中である場合は、所定の期間内に必ず履修中止の手続きを行ってください。手続きを行わない場合、成績評価やGPAなどに影響が出る場合があります。
- ・母国語以外の検定資格のみを認定します。

願い出た授業科目および単位については、教授会にはかり教育上有益と認めたものについては、本学における学部共通科目および学科共通科目の範囲で行うものとし、本学で修得したものとして認定します。

入学前の既修得単位および本学で修得したものとみなす単位の認定は、60単位以内とします（ただし、3年次編入学を除く）。

※2022年度以前の入学生は科目名が異なりますので、別途お知らせします。

3. インターンシップ

インターンシップとは学生が一定期間企業等の中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行う制度のことを言います。インターンシップ先が決まりましたら**キャリア支援センター**に報告してください。

[単位認定するインターンシップ]（芸術学部3・4年次対象）

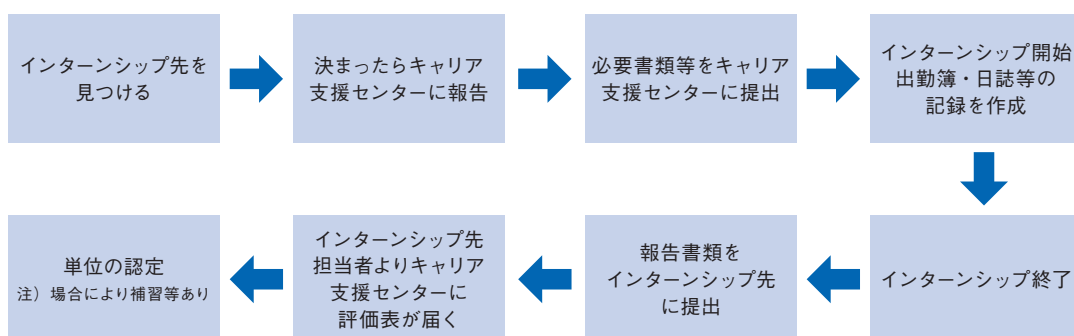
本学では主に夏期・春期休業期間を利用し、自分の専門分野に関連する企業の現場（或いはこれに類する場所）において、一定期間の実習（事前・事後指導を含む）を行うことで単位の修得が可能です（4年次春期休業中の実習は除く）。なお、修得する科目名称・単位数は実習期間に応じて異なります。

<単位認定の目安>

期 間	名 称	単 位
1週間の実習の場合	インターンシップA	1
2週間の実習の場合	インターンシップB	2
3週間の実習の場合	インターンシップC	3
4週間の実習の場合	インターンシップD	4

※認定単位は、インターンシップ期間の実働時間によって、付与する単位数が変わります。

<単位認定するインターンシップの流れ>



4. 留学中の本学開設科目学修について

遠隔授業による履修が可能となる場合でも、学籍「留学」中は認定できません。

5. 単位互換制度（対女子美術大学短期大学部単位互換）

平成13年4月から女子美術大学芸術学部と女子美術大学短期大学部（専攻科を除く）の単位互換制度を行っています。これにより、女子美術大学短期大学部の開設科目を履修することが可能です。

この単位互換制度は、教育課程の充実を図るとともに、学生皆さんの教育機会の拡大、特に幅広い視野の育成と学習意欲の向上を図ることを目的として実施されるものです。

○応募資格

芸術学部全学生が対象。

○履修可能単位数

単年度では最大8単位まで履修可能です。

○単位認定

修得した単位は学部共通科目の卒業所要単位として認定します。

○履修できる科目

単位互換の趣旨に鑑み、短期大学部の共通科目の内、芸術学部のカリキュラムに開設されていない科目が単位互換の対象となります。資格科目など一部の科目は除きます。履修の際は必修科目、実技科目等、芸術学部の勉学に支障のない範囲で、履修計画を立ててください。

○履修料

無料です。

○申込方法

芸術学部の開設科目と同様に、Web履修登録が必要となります。

※Web履修登録の画面上、単位互換科目には識別のため科目名称の頭に「※」の印をつけています

なお、抽選科目については短期大学部優先となります。短期大学部の履修人数によっては履修を許可できない場合があります。

対女子美術大学短期大学部単位互換開設科目一覧

2023年度入学生（23●●●●）

		科目名	単位数	形態	備考
短 大 共 通 科 目	グローバルな多様性社会に必要な知識を身につける	※保育原理	2	講義	
		※児童家庭福祉学	2		
		※保育の心理学	2		
		※子どもの保健・食・栄養	2		
	美大生としての基礎力・創造力を養う	※造形材料学	2	講義	※デザイン・工芸学科は除く
		※広告論	2		
		※写真概論	2		
		※デザイン法令論	2		
		※記号論	2		

2020年度入学生（20●●●●）～2022年度入学生（22●●●●）

		科目名	単位	形態	備考
短 大 共 通 科 目	A群	※保育原理	2	講義	
		※保育の心理学	2		
	C群	※子どもの保健・食・栄養	2	講義	
	D群	※造形材料学	2	講義	
		※写真概論	2		
		※インテリア概論	2		
		※広告論	2		※デザイン・工芸学科は除く
		※デザイン法令論	2		
		※記号論	2		
	E群	※児童家庭福祉学	2	講義	

科目等履修生

卒業後、本学の授業科目の履修を希望する者は、本学学生の修学に支障のない限りにおいて選考の上、科目等履修生となることができます。教職課程履修者等で所定の単位を在学中に修得できなかった場合、不足単位の履修も可能です。履修可能科目については教育支援センターに確認してください。申込期間は前期・通年科目は3月上旬、後期科目は6月下旬になります。

転学科／転専攻・領域

2～4年次への進級時に、転学科／転専攻・領域を認める場合があります。申請の資格、時期、詳細について教育支援センターに確認してください。

卒業条件

芸術学部を卒業するために必要な最低修得単位は次の表の通りです。
卒業を認定された者には、学士（芸術）の学位が授与されます。

卒業所要単位（芸術学部）

科目区分 学科 専攻・領域	学部共通科目					学科専門科目			卒業 所要 単位 合計
	①フアン クション	②グローバル	③基礎力 創造力	④アートを生かす	⑤語学力	学科共通 科目		専攻・ 領域 専門 科目	
	4単位	6単位 以上 (注2)	10単位 以上	2単位 以上	4単位 以上 英語系から 2単位以上 必修(注3)	必修 ・ 選択 必修	選択 (注1)		
美術学科 洋画			30			14	18	62	94
美術学科 日本画			30			14	20	60	94
美術学科 立体アート			30			14	20	60	94
美術学科 美術教育			30			16	17	61	94
美術学科 芸術文化			30			20	24	50	94
デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン			30			12	18	64	94
デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン			30			12	18	64	94
デザイン・工芸学科 環境デザイン			30			12	18	64	94
デザイン・工芸学科 工芸			30			10	20	64	94
アート・デザイン表現学科 メディア表現			30			32	8	54	94
アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現			30			32	8	54	94
アート・デザイン表現学科 ファッションテキスタイル表現			30			32	6	56	94
アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現			30			28	14	52	94
共創デザイン学科			30			80	14	—	94

(注1) 他学科の「学科共通科目」を履修することができる。修得した単位は、「学科共通科目・選択科目」に含むことができ、卒業所要単位に算入できる単位数は各専攻によって異なる。

(注2) 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。

(注3) 美術学科芸術文化専攻は「⑤語学力」の英語系科目から4単位を選択必修とし、合計6単位以上を習得すること。

学部共通科目

本学重点科目となるファンデーション科目を土台として、幅広い知識を共通教養で学び、学習意欲の高い学生は美術教養へ進む積み上げ式のカリキュラムとしています。

ファンデーション科目

「女子美基礎講座」「女子美の教養」を柱として開設しています。「女子美基礎講座」では、大学での学びに必要なスキルを身に付けると同時に、本学が輩出してきた卒業生（および在学学生）の足跡を確認し、学生の未来へと繋げていくことで、本学の理念、女子美スピリッツを浸透、継承できる内容です。「女子美の教養」では、社会人、アーティストとして将来を歩んでいく際に、教養教育の学びが自身の専攻分野、興味・関心とどのように結びついて社会に活かされるのかを学びます。

共通教養

・グローバルな多様性社会に必要な知識を身につける【多様性の理解】

的確な情報収集や分析、理論的思考・判断能力を養い、現代社会において必要な知識を得て、理解を深めるカリキュラムとなっています。次の3つの科目群から成り立っています。

- ジェンダー研究 ●国際社会と日本・文化 ●自然環境と人間

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

多様性が尊重される社会において、ジェンダー、国際社会と日本、自然環境と人間、芸術について広く学び自己理解をすることで、その知識・理解を実地に関連付けることのできる幅広い教養を養う科目を配置する。

・美大生としての基礎力・創造力を養う【創造的思考力】

制作や研究に主体的、計画的に取り組む関心・意欲・態度を養います。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

美学、美術史、色彩や図学など、芸術分野における基礎力、芸術的感性を培い、学術・創作研究へ発展・応用させることのできる創造的思考力・判断力を養う科目を配置する。

・アートを社会と生活に生かす【実践力・マネジメント力】

生涯を通して学ぶ創作、研究（持続可能なアートスキル）への関心・意欲・態度を養い、地域社会への理解を深めるカリキュラムです。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

芸術的理論と技法を活用し、自分の未来像（キャリア）をデザインし、生涯にわたり地域社会の持続的発展に貢献できる主体的な実践力、マネジメント力、協働する力を養う科目を配置する。

・語学力を高め世界で活躍する【表現・コミュニケーション力】

創作や考えを伝える技能・表現・コミュニケーションスキルを身につけます。女子美らしいアートに関連した英語教育の充実・実践のため、Joshibi Foundation → Joshibi Global → Joshibi Art Englishと、美術英語を学びます。その他、English Conversationとしてコミュニケーション能力を身につけ、English in the Film and Performing Artsとして、美大生が必要とする美術や映像などの芸術全般に関する英語やプレゼンテーションを学びます。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

グローバル社会において多様な他者の文化的背景を理解し、傾聴の姿勢と共に自身の考えを的確に伝えるコミュニケーションスキルを用いて世界で活躍できる能力を養う科目を配置する。

美術教養

教養とアートを結び付けた演習形式の科目です。

芸術学部（2023年度入学生～） 学部共通科目一覧

科目区分	授業科目	単位数	年次	形態	授業科目	単位数	年次	形態	単位計				
グローバルな多様性社会に必要な知識を身につける	ファンデーション	必	女子美基礎講座	2	1	講義	必	女子美の教養	2	1	講義	4単位	
	ジェンダー研究	◆	美術教養科目					女性と法	2	1～4			講義
			ジェンダーとアート研究	2	2～4	演習		ジェンダー論	2	1～4			
		◆	共通教養科目					ジェンダーとアート概論	2	1～4			
	国際社会と日本・文化	◆	美術教養科目					言語学	2	1～4			講義
			情報とアート	2	2～4	演習		伝統文化論	2	1～4			
			人権・ダイバーシティとアート	2	2～4			法学（日本国憲法）	2	1～4			
		◆	共通教養科目					社会福祉学	2	1～4			
			哲学	2	1～4			国際関係論	2	1～4			
			歴史	2	1～4			経済学	2	1～4			
			文学	2	1～4			観光学	2	1～4			
			文化人類学	2	1～4	講義		教育原論	2	1			
			思想史	2	1～4			アートと法入門	2	1～4			
			コミュニケーション論	2	1～4			芸術文化政策論	2	1～4			
		比較文化論	2	1～4			※1 日本語 A	1	1		演習		
		異文化理解	2	1～4			※1 日本語 B	1	1		演習		
	自然環境と人間	◆	美術教養科目					デ工 環境論	2	1～4		講義	6単位以上
			環境とアート	2	2～4	演習		スポーツ演習 A	1	1～4			
			身体とアート	2	2～4			スポーツ演習 B	1	1～4		演習	
◆		共通教養科目					健康科学 A	1	1～4				
		数理科学	2	1～4			健康科学 B	1	1～4				
		生命科学	2	1～4			精神保健	2	1～4				
		心理学	2	1～4	講義		行動心理学	2	1～4		講義		
		教育心理学	2	2			身体機能論	2	1～4				
	教青年心理学	2	1～4										
美大生としての基礎力・創造力を養う	◆	美術教養科目					芸術学 B	2	1～4		講義	10単位以上	
		音楽とアート	2	2～4	演習		芸術学 C	2	1～4				
	芸必	古典美術研究	2	3			現代美術論	2	1～4				
	◆	共通教養科目					デザイン史 A	2	1～4				
		美西洋美術史概説	2	1～4			デザイン史 B	2	1～4				
		西洋美術史特論 A	2	1～4			デ工 印刷概論	2	1～4		講義		
		西洋美術史特論 B	2	1～4			美術解剖学 A	2	1～4				
		西洋美術史特論 C	2	1～4			美術解剖学 B	2	1～4				
		美日本美術史概説	2	1～4			図学 A	2	1～4				
		日本美術史特論 A	2	1～4	講義		図学 B	2	1～4				
		日本美術史特論 B	2	1～4			書道 A	1	1～4		演習		
		日本美術史特論 C	2	1～4			書道 B	1	1～4				
		美東洋美術史概説	2	1～4			文化遺産学	2	1～4				
		東洋美術史特論 A	2	1～4			デ工 写真真史	2	1～4		講義		
		東洋美術史特論 B	2	1～4			色彩学 A	2	1～4				
		美色彩学	2	1～4			色彩学 B	2	1～4				
		現代美学	2	1～4			造形心理学	2	1～4				
	芸美術学 A	2	1～4										
実践するアート	◆	美術教養科目					アーティスト・イン・レジデンス概論	2	1～4		講義	2単位以上	
		プロジェクト・スタディーズ	2	1～4	演習		カラーコーディネート基礎	2	1～4				
		アーティスト・イン・レジデンス	2	1～4			表現と癒しの営み	2	1～4				
		国際芸術プログラム	2	1～4			子ども発達論	2	1～4				
	◆	共通教養科目					デ工 インテリアデザイン史	2	1～4				
キャリアリテラシー	◆	美術教養科目					キャリア形成 A	2	1～4		講義	2単位以上	
		インターンシップ 1	1	3～4			キャリア形成 B	2	1～4				
		インターンシップ 2	1	3～4			キャリア形成 C	2	2～4				
		インターンシップ 3	3	3～4	実技		キャリア形成 D	2	2～4				
		インターンシップ 4	4	3～4			芸必 情報メディア基礎演習	2	1～4		演習		
語学力を高め世界で活躍する	◆	美術教養科目					イタリア語 I A	1	1～4		演習	4単位以上（英語科目から2単位以上必修）	
		Joshihi Art English A	1	2～4	演習		イタリア語 I B	1	1～4				
		Joshihi Art English B	1	2～4			ドイツ語 I A	1	1～4				
		English in Film and the Performing Arts A	1	2～4			ドイツ語 I B	1	1～4				
		English in Film and the Performing Arts B	1	2～4			中国語 I A	1	1～4				
	◆	共通教養科目					中国語 I B	1	1～4				
		Joshihi Foundation English A	1	1			フランス語 II A	1	2～4				
		Joshihi Foundation English B	1	1			フランス語 II B	1	2～4				
		Joshihi Global English A	1	1～4			イタリア語 II A	1	2～4				
		Joshihi Global English B	1	1～4	演習		イタリア語 II B	1	2～4				
		English Conversation A	1	1～4			ドイツ語 II A	1	2～4				
		English Conversation B	1	1～4			ドイツ語 II B	1	2～4				
		フランス語 I A	1	1～4			中国語 II A	1	2～4				
		フランス語 I B	1	1～4			中国語 II B	1	2～4				

必 ……必修科目。
 美 ……美術学科の必修科目。
 芸必 ……美術学科芸術文化専攻の必修科目。
 デ・工……デザイン・工芸学科学科共通科目の選択科目。
 教 ……教職課程指定科目。
 学 ……学芸員課程科目。(学芸員養成課程履修の条件を満たす場合のみ履修可。P128～133参照。)
 ※1 ……「日本語 A」「日本語 B」は外国人留学生のみ履修可能。外国人留学生は「日本語 A」1単位、「日本語 B」1単位の計2単位必修。
 ※2 ……美術学科芸術文化専攻は「語学力を高める」の英語科目から4単位以上を必修とし、合計6単位以上を修得すること。

<履修上の注意>

●ファンデーション

「女子美基礎講座」「女子美の教養」は1年次必修科目です。

●国際社会と日本・文化

外国人留学生は「日本語A」1単位「日本語B」1単位 計2単位は必修です。原則同一年度に履修してください。「日本語A・B」は外国人留学生のみ履修が可能です。

●自然環境と人間

「健康科学A」「健康科学B」「スポーツ演習A」「スポーツ演習B」履修人数に制限がありますので、Web抽選を行います。ポータルサイトで抽選希望の登録をしてください。抽選に漏れた場合は、空きのある科目にのみ再申請することができます。

●キャリアリテラシー

「博物館概論」は学芸員養成課程履修者のみ履修できます。

●語学力を高める

英語科目から2単位以上必修です。合計で4単位以上の修得が必要です。同一科目のA・Bは原則同一年度に履修してください。

(注) 芸術文化専攻は英語科目から4単位以上必修、合計で6単位以上の修得が必要です。

卒業条件

芸術学部を卒業するために必要な最低修得単位は次の表の通りです。
卒業を認定された者には、学士（芸術）の学位が授与されます。

卒業所要単位（芸術学部）

科目区分 学科 専攻・領域	学部共通科目					学科専門科目			卒業所要 単位合計	
	A 群 知性と感 性を高め る科目群	B 群 コミュニ ケーション 能力を高 める科目 群	C 群 こころと 身体の健 康を高め る科目群	D 群 文化・芸 術の科目 群	E 群 自己を見 つめ社会 への視野 を開く科 目群	学科共通科目		専 攻・ 領 域 専 門 科 目		小 計
	6以上	4以上 外国語コミュ ニケーション 2単位選択 必修含む(注2) 美術学科 芸術文化 6以上(注3)	2以上	12以上	4以上 基礎学習 ゼミ2単 位必修含 む	必修 ・ 選 択 必 修	選択 (注1)			
美術学科 洋画			30			14	18	62	94	
美術学科 日本画			30			14	20	60	94	
美術学科 立体アート			30			14	20	60	94	
美術学科 美術教育			30			16	17	61	94	
美術学科 芸術文化			30			20	24	50	94	
デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン			30			12	18	64	94	
デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン			30			12	18	64	94	
デザイン・工芸学科 環境デザイン			30			12	18	64	94	
デザイン・工芸学科 工芸			30			10	20	64	94	
アート・デザイン表現学科 メディア表現			30			32	8	54	94	
アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現			30			32	8	54	94	
アート・デザイン表現学科 ファッションテキスタイル表現			30			32	6	56	94	
アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現			30			28	14	52	94	

(注1) 他学科の「学科共通科目」を履修することができる。修得した単位は、「学科共通科目・選択科目」に含むことができ、卒業所要単位に算入できる単位数は各専攻によって異なる。

(注2) 外国人留学生は「日本語Ⅰ」2単位、「日本語Ⅱ」2単位の計4単位必修。

(注3) 美術学科芸術文化専攻はB群の「外国語コミュニケーション」の英語科目から4単位を選択必修とし、6単位以上を修得すること。

学部共通科目（A群～E群）

学部共通科目は、大学生としてだけでなく、社会人としても不可欠な、広く一般常識をもってしっかりと思考する能力を身につけるための講義・演習科目群と、芸術・デザインを専門とする学生が身につけるべき美術芸術科目群によって構成されています。知性と感性を含めた心的能力を高める科目群（A群）、コミュニケーション能力を高める科目群（B群）、こころと身体を健康を高める科目群（C群）、文化・芸術の科目群（D群）、自己を見つめ社会への視野を開く科目群（E群）の5つの群から構成されています。

学生の皆さんは、いったん自分の専門分野から離れ、各群の多彩な科目の中から、自分の興味関心にしたがって主体的に科目を選択し、それらの科目の背後に広がる多様な学問的視点や知見を学び取ることによって、学生としての基礎的教養力を自分のものにすることができるようでしょう。また、そうした能力を、努力し身につけることによって、自分の専門分野をさらに究め、飛躍していくための土台を築くことにもなるでしょう。

A群 知性と感性を高める科目群

A群の科目は、学生がゆるぎない知的教養と鋭敏な感性を身につけ、さらにそれを磨くことができるよう、さまざまな分野のものの考え方や見方を提供することを目的としています。したがって、この群は、現代の文化・社会・自然科学にかかわる基本的学問によって構成されています。

A群は、選択の講義科目ですから、必要単位を上回る単位数をとることが可能ですし、自由に選択できる単位数の範囲内で履修することができます。したがって、学生の皆さんが、自分の関心に基づいて自主的に科目を選択し、積極的に授業に参加することが期待されます。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

人間と文化、社会のしくみ、科学と自然について幅広く学び、知性と感性を高める科目で構成する。

B群 コミュニケーション能力を高める科目群

外国語を含めた言語、コンピュータ、異文化等の学習はコミュニケーションを成立させるのに役立ちます。外国語は、外国人とコミュニケーションするための、また、異文化を知るための主要な手段ですが、直接外国人との接触に役立つものであり、外国語の独特の論理を知ること、異質な論理、すなわち、異文化を知ることができます。

また、コンピュータはもはや言うまでもなく生活、仕事に欠かすことのできない必須のツールです。コンピュータ・リテラシーを身につけることで、生活、仕事におけるコミュニケーション能力を向上させることができます。

異文化学習は、自民族文化中心の視野狭窄から解放し、異文化共生のための視点をもたらし、異文化とのコミュニケーションに役立ちます。

これらのコミュニケーション関連の科目によってもたらさせる知識は、美大生が社会に出てから、また海外で活動するときに、きっと役立つものであると確信しています。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

基礎的、教養的、実用的な外国語、異文化理解、コンピュータ能力の習熟によって、美大生にとって今日社会的に要求されているコミュニケーション能力を高める科目で構成する。

C群 ころと身体健康を高める科目群

C群は、ころと身体に関する知識を深めることで、生涯を通して健やかで充実した生活を送り、QOL（生活の質）の高い日々を実現していくための基礎的な能力を養うことを目的としている科目群です。丈夫でしなやかなころと身体があればこそ、創作意欲も湧き、エネルギーな制作活動も可能です。また、人生100年時代を豊かに生きていくためには健康であることはもちろん、困難に直面した際にはそれに対応する心身の余力が必要となるでしょう。自身のからだを自身で育むために必要な知識と実践方法を身につけていきましょう。

開講科目と履修について

C群には、演習系科目の「健康科学」「スポーツ演習A～D」と、講義系科目の「精神保健」「心身医学」があります。

※演習系科目

「健康科学」は、実技（運動）だけでなく講義も交えた演習で、心身の健康に関する理論と具体的な実践方法を併せて学習することができます。

「スポーツ演習」は、実技（運動）を中心に、健康づくりのための具体的な実践方法を学ぶ演習です。取り組むスポーツや内容によってA～Dの4つに分けられていますので、詳細はシラバスを参照してください（A：各種スポーツ、B：競技性の低いレクリエーションスポーツ、C：フィットネス系、D：集中授業）。なお、スポーツ演習はアルファベットが同じでも科目名が異なれば（例えば、「スポーツ演習C ストレッチ&ヨガ」と「スポーツ演習C ストレッチ&コンディショニング」、2単位の修得が可能です。詳しくは本冊子の「履修上の注意」を参照してください。（P.36参照）

抽選科目について

※演習系科目

「健康科学」「スポーツ演習」共に、履修申請した科目の希望者が定員を超えた場合は抽選が行われます。抽選に漏れた場合は空きのある科目にのみ再申請をすることができます。

※講義系科目

「精神保健」「心身医学」は講義系科目のため定員はありません。

評価について

※演習系科目

「健康科学」「スポーツ演習」は、実技の技術レベル（運動能力）や上達度は全く関係ありません。全時間出席を前提とし、学習内容の理解度や授業への参加態度（学習意欲・積極性など）を重視します。やむを得ない理由での欠席は、「健康科学」は8回まで、「スポーツ演習」は4回までを限度とし（集中授業を除く）、この回数を超えて欠席をした場合は評価の対象となりません。

※講義系科目

「精神保健」「心身医学」は、授業回数の3分の2以上の出席回数者を評価の対象とします。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

身体活動（運動）を通して基礎体力を育み、身体の機能やころと身体に関連性を学び、生涯を通じて健やかな生活を送るための健康管理能力を高める科目で構成する。

D群 文化・芸術の科目群

全学科・専攻・領域の学生を対象に、それぞれの専門分野で応用可能な知識と能力を修得することを第一の目的に、文化・芸術に関わる以下のような性格をもった多彩な講義科目を配置しています。

1. 美術やデザイン、アートを学ぶ上でもっとも基本となる科目
2. 各学科・専攻・領域の専門分野に共通するテーマ性を備えた科目
3. 各分野の専門性を深めるとともに視野を広げる科目
4. これからの社会と文化・芸術のあり方を見据えた先端的テーマを扱う科目
5. 創作活動のバックグラウンドとなる理論構築をサポートする科目

以上の枠組みを背景として構成されたこれらの科目の履修については、学生が自由に選択することで美大生にふさわしい幅広い“美術教養”を学修することはもちろんのこと、組み合わせによって専門性を高めることもでき、大学院での理論研究に展開させることも可能です。

女子美生として自らをデザインするように、学生一人ひとりがその個性に合わせてカリキュラム作りを行ってください。

(なお各学科・専攻・領域では、一部の科目を必修・選択必修として指定していますので注意してください。)

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

美学・美術史、色彩や素材、図学など、それぞれが専攻する専門分野で応用可能な基礎的知識と能力を習得する科目で構成する。

E群 自己を見つめ社会への視野を開く科目群

本学は1900年に「芸術による女性の自立」、「女性の社会的地位の向上」、「専門の技術家・美術教師の養成」を建学の精神として創立されて以来、これらの建学の精神に基づく教育を行ってきました。学部共通科目の中でこれを特に意識した科目群が、「自己を見つめ社会への視野を開く科目群」(E群)です。

この科目群には、現代社会において女性が家庭人、社会人、そして地球市民として今日の社会にどのような貢献をなすことが可能なのかを考える科目、社会や企業が求める環境・共生・文化を基盤とした地域社会貢献に関する科目、国際的感覚を持った美術の専門家あるいは美術科教員に必要な素養を養う科目などが準備されています。

今日、社会は基礎的・専門的な教養はもちろん、環境や共生などをキーワードに地域社会に貢献できる素養を求め始めています。そのような素養を身に着けるためには、美術に関する専門的な教養をもとに、自らが主体的に活動することが必要となってきます。このことを視野において、学生自らが参画する授業、共生社会と美術との学際的視点の涵養を目指します。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

社会の中での女性のあり方、異文化の中で芸術を表現する国際的感覚、自分の未来像（キャリア）をデザインする能力を習得する科目で構成する。

		科目名	単位	年次	形態	科目名	単位	年次	形態	単位計	
学部 共通科目	A群	◆人間と文化				◆社会のしくみ				6	
		哲学	2	1~4	講義	法	2	1~4	講義		
		歴史	2			日本国憲法	2				
		文学	2			政治学	2				
		音楽	2			社会福祉学	2				
		文化人類学	2	現代社会概説	2	学生涯学習概論	2	1			
		教育原論	2	1		◆科学と自然					
	教育心理学	2	2		数理学	2	1~4	講義			
	青年心理学	2	1~4		生命科学	2					
					心理学	2					
	B群	◆外国語コミュニケーション				中国語Ⅰ	2	1~4	演習	4 ◆外国語コミュニケーション2単位選択必修含む	
		英語Ⅰ	2	1~4		中国語Ⅱ	2	2~4			
		英語Ⅱ	2	2~4		※1日本語Ⅰ	2	1~4			
		英会話A	2	1~4		※1日本語Ⅱ	2	2~4			
		英会話B	2	2~4		◆情報リテラシー					
		フランス語Ⅰ	2	1~4	演習	芸選 コンピュータ入門A	2	1~4	演習		
		フランス語Ⅱ	2	2~4		芸選 コンピュータ入門B	2				
		フランス語Ⅲ	2	3・4			◆異文化理解				
		イタリア語Ⅰ	2	1~4		コミュニケーション論	2	1~4	講義		
		イタリア語Ⅱ	2	2~4		比較文化論	2				
		イタリア語Ⅲ	2	3・4		言語学	2				
		ドイツ語Ⅰ	2	1~4		異文化理解	2				
		ドイツ語Ⅱ	2	2~4							
	C群	ヴィ健康科学	2	1~4		演習	精神保健	2	1~4	講義	2
		ヴィスポーツ演習A	1				心身医学	2			
		ヴィスポーツ演習B	1								
		ヴィスポーツ演習C	1								
ヴィスポーツ演習D		1									
D群	美西洋美術全史	4	1~4	講義	デザイン史	2	1~4	講義	12		
	西洋美術史特論A	2			デ工環境論	2					
	西洋美術史特論B	2			造形心理学	2					
	美日本美術全史	4			色彩学	4					
	日本美術史特論A	2			美術解剖学A	2					
	日本美術史特論B	2			美術解剖学B	2					
	東洋美術史概論	2	立/美教 図学A	2							
	東洋美術史特論	2	立/美教 図学B	2							
	芸必 古美術研究	2	3	演習	書道	2					演習
	美	2	1~4	講義	文化遺産学	2					講義
	現代美学	2			ユニバーサルアート研究	2					
芸術学	2	学博物館概論			2	1					
日本近代美術論	2	学博物館展示論			2	2					
現代美術論	2			学博物館教育論	2						
E群	◆初年次教育科目				サービス・ラーニング	2	1~4	演習	4 (基礎学習ゼミ2単位必修含む)		
	必基礎学習ゼミ	2	1	講義	◆キャリア教育科目						
	◆女性としての視座				キャリア形成A	2	1~4	講義			
	ジェンダー論	2	1~4	講義	キャリア形成B	2					
	ジェンダーアート入門	2			キャリア形成C	2	2~4				
	歴史の中の女性	2			キャリア形成D	2					
	女性と法	2			インターンシップA	1	3・4	実技			
	◆				インターンシップB	2					
	芸術文化政策論	2	インターンシップC	3							
	芸術と知的財産権	2	1~4	講義	インターンシップD	4					
国際留学プログラム	2		演習								
国際芸術演習A	1										
国際芸術演習B	1										

必…E群「基礎学習ゼミ」は1年次必修科目。

美…美術学科の必修科目。

立…美術学科立休アート専攻はいずれか2単位選択必修。

美教…美術学科美術教育専攻の必修科目。

芸選…美術学科芸術文化専攻はいずれか2単位選択必修。

芸必…美術学科芸術文化専攻の必修科目。

デ工…デザイン・工芸学科は学科共通科目の選択科目になります。

ヴィ…デザイン・工芸学科ヴィジュアルデザイン専攻はいずれか2単位選択必修。

(詳細は該当専攻・領域の「カリキュラム表」参照。)

教…教職課程指定科目。

学…学芸員課程指定科目。(学芸員養成課程履修の条件を満たす場合のみ履修可。P.128～133参照。)

※1…B群「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」は外国人留学生のみ履修可能。

外国人留学生は「日本語Ⅰ」2単位、「日本語Ⅱ」2単位の計4単位必修。

※2…美術学科芸術文化専攻はB群の「外国語コミュニケーション」の英語科目から4単位を選択必修とし、6単位以上を修得すること。

<履修上の注意>

A群

「生涯学習概論」は学芸員養成課程履修者のみ履修できます。

B群

<外国語コミュニケーション>

外国語科目の授業は、原則、1クラス、定員30名（英会話は定員20名）で行います。「英語I」を履修する1年次の学生は、通常の履修登録画面から登録を行ってください。

「英語I」以外の外国語については、Web抽選にて履修者を決定します。指定の期日までに、ポータルサイトで抽選希望登録をしてください。

(1) 卒業に必要な単位について

外国語科目を**最低2単位修得**することが必要です。外国語は英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、中国語から選ぶことができます。日本語は、留学生のみ履修可能です。

(注) 芸術文化専攻は英語科目から4単位選択必修です。

(2) 卒業に必要な単位以上の履修について

卒業に必要な単位は2単位ですが、4単位以上履修することが可能です。例えば、卒業に必要な単位として英語I(2単位)を履修する他に、(2つ目の)英語I(2単位)、英会話(2単位)、あるいは、他の外国語(フランス語、ドイツ語、イタリア語、中国語)から選び、履修することが可能です。(ただし、2科目目は定員に余裕のあるクラスの場合に限ります。)

(3) どの授業を履修するか決める

○「英語」

- ・英語I：初回授業で実施する英語テストの受験結果ごとに指定されます。
- ・英会話：ネイティブの先生や日本人の専門家による英会話の授業です。

○「フランス語」、「イタリア語」、「ドイツ語」、「中国語」

これらの科目は1年次に、フランス語I、ドイツ語I、イタリア語I、中国語Iを開設します。

○「日本語」

外国人留学生は「日本語I」2単位、「日本語II」2単位の計4単位は必修です。

C群

・開設されている科目の中から卒業までに合計2単位以上になるように選択して履修してください。修得単位の合計が2単位を超える場合は、超えた単位数を学部共通科目の卒業所要単位に算入できます。

※演習系科目

- ・「健康科学」は2単位、「スポーツ演習」は4単位までを修得の上限とします。また、アルファベット(A～D)が同じでも、科目名が異なれば(例えば、「スポーツ演習C ストレッチ&ヨガ」と「スポーツ演習C ストレッチ&コンディショニング」)最大2単位まで修得できます。
- ・履修人数に制限がありますので、Web抽選を行います。ポータルサイトで抽選希望の登録をしてください。抽選に漏れた場合は、空きのある科目にのみ再申請することができます。
- ・「スポーツ演習D (ボディメイク)」は杉並キャンパスでの実施です。

※講義系科目

- ・履修人数の定員はありませんので申請はWeb履修登録(4月8日(土)17:00まで)のみでかまいません。

◇演習系科目の抽選方法

Web抽選(4月7日(金)10:00まで)で履修時限が決定しますので、ポータルサイトで抽選希望の登録をしてください。

D群

「博物館概論」「博物館展示論」「博物館教育論」は学芸員養成課程履修者のみ履修できます。

E群

「基礎学習ゼミ」は1年次必修科目です。

美術学科

1. 教育内容

美術学科では大学での4年間を通し、個人の発想を独自性のある表現の域にまで高め、主体的に美術に取り組むことを目指します。

洋画専攻、日本画専攻、立体アート専攻、芸術表象専攻、美術教育専攻、芸術文化専攻の各専攻で制作技術の鍛錬、作品コンセプトの熟成、表象的意味の理解につとめながら、専門の周辺領域の技術と理論を横断的に学び、美術に関する幅広い認識をもつことで、美術活動を持続的に行うことのできる人材を育成します。また、各自の志向する美術表現が社会で展開されている現状の安易な模倣に終始せず、個人の感性や考えに基づく実感の伴う新たな表現を追及するために、実技や理論研究による実践的経験にもとづく自信、知識を自己の表現と結びつける洞察力、客観的な視野で美術活動全体から専門領域を認識する論理性、それらを基にして自分の目指す表現と方法を確立します。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次は専攻における基礎的な技術と知識の修得、2年次は専攻（コース）の基礎および専門技術の修得を中心に、美術の基礎として美術史、美術理論、美術選択実技A・B、素材・技法の美術選択演習A・Bを学びます。

美術史は、「日本美術全史」および「西洋美術全史」を必修科目とします。美術理論は2年次から選択必修で履修します。「芸術文化オープンゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ」・「美術教育論A・B」を選択科目とします（芸術文化専攻は芸術文化オープンゼミⅡ必修）。美術学科基礎技術は、1年次「美術選択実技A」、2年次「美術選択実技B」を選択科目とします。平面・立体に関わる素材・技法は、1年次「美術選択演習A」、2年次「美術選択演習B」を選択科目とします。

3年次は、1年次での専攻と美術の基礎、2年次での専門（コース・ゼミ）の基礎の上に、各自の発想を表現に結びつけるためにコンセプトの熟成をおこない、表現に適した専門技術の修練に努めます。芸術文化専攻は理論的に芸術と人間・社会との関わりを研究する専攻ですが、理論に必要な実践も行います。洋画専攻、日本画専攻、立体アート専攻、美術教育専攻の学生が理論研究を目指す場合、選択科目の「芸術文化オープンゼミ」に参加することになります。芸術文化専攻は美術学科全ての専攻にまたがる理論のプラットフォームの役割を担います。

4年次は、4年間の集大成として、各自の主題の明確化につとめ、その表現に必要な専門の技術を錬磨し独創性のある作品制作または理論研究を目指します。

1・2年次美術学科の基礎科目

洋画専攻	美術史・美術理論 美術選択演習学科内の 技法・素材 美術選択実技学科内の 実技	芸術文化専攻
日本画専攻		
立体アート専攻		
美術教育専攻		

3・4年次実技と理論の連携

洋画専攻	芸術文化オープンゼミに よる理論指導 実技作品のクリティック	芸術文化専攻
日本画専攻		
立体アート専攻		
美術教育専攻		

教育目標

美術学科は、過去、現在、未来にわたる、広範な芸術的制作、芸術的理論の探求に基づき、芸術表現およびその研究を練磨すること、平面表現、立体表現の制作技術の鍛錬、作品コンセプトの熟成、芸術理論による表象的意味の理解を通して、社会に対する深い洞察に基づいた創造的活動を持続的に行える人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、各専攻のカリキュラムと学科共通科目を通して、美術史や芸術理論を学び、他ジャンルにおける芸術の表現方法や素材に触れ、感性を養い、専門領域での表現に反映できるカリキュラムを編成する。

「美術選択実技 A・B」「美術選択演習 A・B」

「美術選択実技 A・B」「美術選択演習 A・B」は、美術学科の選択科目です。

以下の年次ごとに履修できる科目を確認して選択してください。

なお、「美術選択実技 A・B」「美術選択演習 A・B」は抽選科目になりますので、必ず抽選申込締切日までにポータルサイトで抽選の希望登録をしてください。

年次	科目・コース名	当該科目・コースが教員免許状(美術)取得に必要もしくは選択必修の専攻	教免法上の区分 注1	抽選申込締切
1	美術選択実技 A (油彩画)	日本画・立体アート・芸術文化	絵画(映像メディア表現を含む)	4/7 10:00 まで
	美術選択実技 A (リトグラフ)	注2	絵画	
	美術選択実技 A (日本画)	注2	絵画	
	美術選択実技 A (彫塑)	洋画・日本画・芸術文化	彫刻	
	美術選択実技 A (立体)	洋画・日本画・芸術文化	彫刻	
	美術選択演習 A (素描/描写)	注2	絵画	
	美術選択演習 A (パネル作製)	洋画・日本画・美術教育・芸術文化	工芸	
	美術選択演習 A (紙)	洋画・日本画・美術教育・芸術文化	工芸	
	美術選択演習 A (日本画)	注2	絵画	
	美術選択演習 A (金工/ジュエリー)	洋画・日本画・美術教育・芸術文化	工芸	
	美術選択演習 A (繊維/フェルト)	洋画・日本画・美術教育・芸術文化	工芸	
	美術選択演習 A (CG)	洋画・日本画・立体アート・芸術文化	デザイン(映像メディア表現を含む)	
	美術選択演習 A (写真)	洋画・日本画・立体アート・芸術文化	デザイン(映像メディア表現を含む)	
	美術選択演習 A (メディア)	洋画・日本画・立体アート・芸術文化	デザイン(映像メディア表現を含む)	
2	美術選択実技 B (油彩画) ※洋画専攻のみ		絵画	
	美術選択実技 B (古典技法)	注2	絵画	
	美術選択実技 B (銅版画)	注2	絵画	
	美術選択実技 B (日本画) ※日本画専攻のみ		絵画	
	美術選択実技 B (彫塑)	洋画・日本画・芸術文化	彫刻	
	美術選択実技 B (立体) ※立体アート専攻のみ		彫刻	
	美術選択演習 B (素描/描写)	注2	絵画	
	美術選択演習 B (パネル作製)	洋画・日本画・美術教育・芸術文化	工芸	
	美術選択演習 B (紙)	洋画・日本画・美術教育・芸術文化	工芸	
	美術選択演習 B (日本画)	注2	絵画	
	美術選択演習 B (金工/ジュエリー)	洋画・日本画・美術教育・芸術文化	工芸	
	美術選択演習 B (繊維/フェルト)	洋画・日本画・美術教育・芸術文化	工芸	
	美術選択演習 B (写真)	洋画・日本画・立体アート・芸術文化	デザイン(映像メディア表現を含む)	
	美術選択演習 B (メディア)	洋画・日本画・立体アート・芸術文化	デザイン(映像メディア表現を含む)	
	美術選択演習 B (製本)			
	美術選択演習 B (3D・CG 初級)	洋画・日本画・立体アート・芸術文化	デザイン(映像メディア表現を含む)	
	美術選択演習 B (3D・CG 中級)	洋画・日本画・立体アート・芸術文化	デザイン(映像メディア表現を含む)	
石彫	洋画・日本画・芸術文化	彫刻		

注1：教職課程履修者は、教免法上の各区分に指定された科目のうちいずれか1科目(区分によっては計2単位)を履修すること(詳細は「教職課程履修の手引」を参照すること)。

注2：芸術文化専攻で、「美術選択実技 A (油彩画)」を履修しない場合は、これらの科目のうち1科目と「コンピュータ入門 B」をあわせて履修すること。

1. 教育内容

平面絵画を中心に、油彩画、版画、ミクストメディア、映像表現、インスタレーションなど幅広い表現を学びます。

美術活動全体から専門領域を認識するために、美術の基礎としての美術史、美術全般の基礎となる平面・立体の技術、技法・素材、さらに実践に即した美術理論を横断的に学び、美術に対する視野を広げ、制作・研究を通して自己のテーマに沿った表現方法を練磨する事で、個人の発想による制作に社会性を見い出せる表現者を育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

[1年次]

「絵画A」では油彩画を中心に、対象を観察して描く絵画の基本を学びます。「絵画B」は発想を作品に展開する方法や技術の基礎を学びます。また、作品のベースとなる考えや制作過程を記録しポートフォリオを作成します。

[2年次]

絵画コースと版画コースに分かれます。絵画コースは、「絵画A」で描くことの基本を、「絵画B」で油彩画にとどまらずさまざまな表現方法を追究します。版画コースは、木版、銅版、石版、シルクスクリーンの基礎的技術を学びます。ポートフォリオの作成を継続します。

[3年次]

絵画コース、版画コースにおいて、創造的発想を表現につなげるための専門的な技術を習得します。講評会で自作品について批評・解説を行えるようにプレゼンテーション能力を高めます。

[4年次]

これまでに養った創造的表現力や表現方法を土台に、テーマを明確化することで独自の作品制作を目指します。ゼミ形式で各自の発想を総合的に展開し、社会的な創作活動の出発点となる卒業制作を行います。

【洋画専攻・ヴィジュアルデザイン専攻間の相互履修について】

洋画・ヴィジュアルデザイン専攻間において、相互の専攻・領域専門科目を履修することができます

(対象学生) 1年次及び3年次 若干名

(履修科目) ※現行カリキュラムに沿って記載しているため、一部変更の可能性があります。

1年次 前期7月頃 3週間 「デザイン・工芸選択実技A」2単位

→ 読替「絵画IB」(人体・静物・写真・版画手法いずれか) 5単位の内の2単位分次の①～④のうち1科目選択。

①デザイン・工芸選択実技A (シルクスクリーン)

②デザイン・工芸選択実技A (写真)

③デザイン・工芸選択実技A (タイポグラフィ)

④デザイン・工芸選択実技A (グラフィックデザイン)

3年次 前期 (詳細日程未定) 3週間程度

「VD演習I-D」(専門的なデザイン領域) 2単位

→ 読替「絵画ⅢB」(コンペティション) 7単位の内の2単位分、「版画Ⅱ」(銅版画・リトグラフ) 11単位の内の2単位分

教育目標

洋画専攻では、「個性の尊重」「オリジナリティの追究」「制作におけるプロセスの重視」を教育方針とし、現代社会に対応した多様な美術表現の知識と技術を兼ね備え、芸術活動をもって社会活動・創造活動のできる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1・2年次は、絵画における絵画表現を「素材」「テーマ」「手法」の観点から作品制作に取り組み、基礎的知識と技術を学ぶ。また、ファインアートの歴史と現代社会の関わりを幅広く理解し、専門的知識と技術を学ぶ基礎を築く。
- ・ 2年次では絵画コース、版画コースに分かれ、専門基礎に取り組み、表現と専門性を探求し学ぶ。
- ・ 3・4年次は、表現の展開と専門性の探究を通して、各自のテーマと表現方法の確立を目標とする。
- ・ 3年次では専門的知識と技術を学びながら、絵画コースでは、実践的社会活動としての美術を探究し、コース別での作品展示やワークショップなどを通して、ファイル制作技術、プレゼンテーション能力と作品鑑賞能力を高めていく。版画コースでは、4版種から各自の表現に適した版種を選択し、絵画的発想と版を作る技術との融合を図り、資質にあった方向を確立する。
- ・ 4年次は、専門的知識と技術を習熟し、習得した幅広い教養と知識、技術の総まとめとして、各自のテーマと表現方法で卒業制作作品を制作し、展示発表する。

芸術学部 美術学科 洋画専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次				2 年 次				
		科目名		単位	形態	科目名		単位	形態	
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座	2	講義						
		必 女子美の教養	2	講義						
	グローバル									
	基礎力創造力									
	アートを生かす									
	語学力									
学科 専門科目	必修	必 西洋美術史概説	2	講義						
		必 日本美術史概説	2	講義						
		必 東洋美術史概説	2	講義						
		6								
	選択必修					アート・プラクティスⅠ	2	演習	8 (注3)	演習
						アート・プラクティスⅡ	2	演習		演習
						アート・アクティヴィティA	2	講義		講義
						アート・アクティヴィティB	2	講義		講義
						色彩文化概論	2	講義		講義
						配色調和論	2	講義		講義
						視覚心理学	2	講義		講義
						カラーキャリアⅠ	2	講義		講義
						カラーキャリアⅡ	2	講義		講義
						技法史	2	講義		講義
						文化資源学	2	講義		講義
						ヴィジュアルスタディーズA	2	講義		講義
						ヴィジュアルスタディーズB	2	講義		講義
						デザイン批評A	2	講義		講義
						デザイン批評B	2	講義		講義
						芸術人類学	2	講義		講義
						芸術民俗学	2	講義		講義
						芸術政策と法	2	講義		講義
					創作活動と法	2	講義	講義		
		8								
	選択	学科共通科目	* 美術選択実技A (油彩画)	2	実技	* 美術選択実技B (油彩画)	2	実技	実技	
* 美術選択実技A (リトグラフ)			2	実技	* 美術選択実技B (古典技法)	2	実技	実技		
* 美術選択実技A (日本画)			2	実技	* 美術選択実技B (銅版画)	2	実技	実技		
* 美術選択実技A (彫塑)			2	実技	* 美術選択実技B (彫塑)	2	実技	実技		
* 美術選択実技A (立体)			2	実技						
					美術選択演習B (素描/描写)	2	演習	演習		
					美術選択演習B (パネル作製)	1	演習	演習		
					美術選択演習B (紙)	1	演習	演習		
					美術選択演習B (日本画)	2	演習	演習		
					美術選択演習B (金工/ジュエリー)	2	演習	演習		
					美術選択演習B (繊維/フェルト)	2	演習	演習		
					美術選択演習B (写真)	2	演習	演習		
					美術選択演習A (CG)	2	演習	演習		
					美術選択演習A (写真)	2	演習	演習		
					美術選択演習A (メディア)	2	演習	演習		
					美術選択演習B (3D・CG初級)	1	演習	演習		
					美術選択演習B (3D・CG中級)	1	演習	演習		
				石彫	1	演習	演習			
				絵画素材論A	1	講義	(1~4年次)			
				絵画素材論B	1	講義				
							芸術文化オープンゼミⅠ	2	演習	
専攻・領域 専門科目	必修	* 絵画ⅠA	6	実技	▼絵画コース					
		* 絵画ⅠB	5	実技	* 絵画ⅡA	4	実技	実技		
		* デッサンⅠ	2	実技	* 絵画ⅡB	8	実技	実技		
		基礎構成演習	2	演習	* デッサンⅡ	2	実技	実技		
			2			14				
				▼版画コース						
				* 版画Ⅰ	10	実技	実技			
				* デッサンⅡ	2	実技	実技			
				版画表現演習Ⅰ	2	演習	演習			
				15			14			

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 8単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超過して修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、5単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 教免「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。(詳細はP.39)
 *印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						6	32
(2~4年次)						8 (注3)	
							94
						18 (注4)	
			芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
(2~4年次)							
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3~4年次)				62
美術教育論A	2	講義					
美術教育論B	2	講義					
▼絵画コース * 絵画ⅢA * 絵画ⅢB	8 7	実技 実技	▼絵画コース * 絵画Ⅳ * 卒業制作	8 10	実技 実技	18	
▼版画コース * 版画Ⅱ * 素材実験Ⅰ 版画表現演習Ⅱ	11 2 2	実技 実技 演習	▼版画コース * 版画Ⅲ * 素材実験Ⅱ * 卒業制作	7 1 10	実技 実技 実技	18	
						合計	124

芸術学部 美術学科 洋画専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部 共通科目	A群							
	B群							
	C群							
	D群							
	E群	必 基礎学習ゼミ	2	講義				
学科 専門科目	必修	必 西洋美術全史	4	講義				
		必 日本美術全史	4	講義				
			8					
	選択 必修				アート・プラクティスⅠ	2	演習	6 (注2)
					アート・プラクティスⅡ	2	演習	
					アート・アクティビティA	2	講義	
					アート・アクティビティB	2	講義	
					色彩文化概論	2	講義	
					配色調和論	2	講義	
					視覚心理学	2	講義	
					カラーキャリアⅠ	2	講義	
					カラーキャリアⅡ	2	講義	
					技法史	2	講義	
					文化資源学	2	講義	
					ヴィジュアルスタディーズA	2	講義	
					ヴィジュアルスタディーズB	2	講義	
					デザイン批評A	2	講義	
					デザイン批評B	2	講義	
					芸術人類学	2	講義	
					芸術民俗学	2	講義	
				芸術政策と法	2	講義		
			創作活動と法	2	講義			
学科 共通科目	*	*美術選択実技A (油彩画)	2	実技	*美術選択実技B (油彩画)	2	実技	
		*美術選択実技A (リトグラフ)	2	実技	*美術選択実技B (古典技法)	2	実技	
		*美術選択実技A (日本画)	2	実技	*美術選択実技B (銅版画)	2	実技	
		*美術選択実技A (彫塑)	2	実技	*美術選択実技B (彫塑)	2	実技	
		*美術選択実技A (立体)	2	実技				
	美術 演習	美術選択演習A (素描/描写)	2	演習	美術選択演習B (素描/描写)	2	演習	
		美術選択演習A (パネル作製)	1	演習	美術選択演習B (パネル作製)	1	演習	
		美術選択演習A (紙)	1	演習	美術選択演習B (紙)	1	演習	
		美術選択演習A (日本画)	2	演習	美術選択演習B (日本画)	2	演習	
		美術選択演習A (金工/ジュエリー)	2	演習	美術選択演習B (金工/ジュエリー)	2	演習	
		美術選択演習A (繊維/フェルト)	2	演習	美術選択演習B (繊維/フェルト)	2	演習	
		美術選択演習A (CG)	2	演習	美術選択演習B (写真)	2	演習	
美術選択演習A (写真)	2	演習	美術選択演習B (メイア)	2	演習			
美術選択演習A (メイア)	2	演習	美術選択演習B (製本)	2	演習			
			美術選択演習B (3D・CG初級)	1	演習			
			美術選択演習B (3D・CG中級)	1	演習			
			石彫	1	演習			
			絵画素材論A	1	講義	(1～4年次)		
			絵画素材論B	1	講義			
					芸術文化オープンゼミⅠ	2	演習	
専攻・領域 専門科目	必修	* 絵画ⅠA	6	実技	▼絵画コース			
		* 絵画ⅠB	5	実技	* 絵画ⅡA	4	実技	
		* デッサンⅠ	2	実技	* 絵画ⅡB	8	実技	
		基礎構成演習	2	演習	* デッサンⅡ	2	実技	
						14		
					▼版画コース			
				* 版画Ⅰ	10	実技		
				* デッサンⅡ	2	実技		
				版画表現演習Ⅰ	2	演習		
					14			

注1. B群の「外国語コミュニケーション」から2単位を選択必修とし、4単位以上を修得すること。

外国人留学生は「日本語Ⅰ」2単位、「日本語Ⅱ」2単位の計4単位必修。

注2. 6単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、5単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

教免一「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。(詳細はP.39)

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						6	30
						4 (注1)	
						2	
						12	
						4	
						8	32
(2~4年次)						6 (注2)	
						18 (注3)	
			芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		94
(2~4年次)							
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3~4年次)				62
美術教育論A	2	講義					
美術教育論B	2	講義					
▼絵画コース * 絵画ⅢA * 絵画ⅢB	8 7	実技 実技	▼絵画コース * 絵画Ⅳ * 卒業制作	8 10	実技 実技		
	15			18			
▼版画コース * 版画Ⅱ * 素材実験Ⅰ 版画表現演習Ⅱ	11 2 2	実技 実技 演習	▼版画コース * 版画Ⅲ * 素材実験Ⅱ * 卒業制作	7 1 10	実技 実技 実技		
	15			18			
合 計						124	

1. 教育内容

日本画は長い伝統のもとに育ち今日に至りました。日本画専攻は、その精神・技法を土台に、現代そしてこれからの日本画の創造、発展に向かい、各々の感性および、それに沿った表現力を高め、個々の創造の喜びを確実なものとし、豊かな人間性を育むことを目的とします。全て競争になりつつある現代において、本来創造の喜びとは競争より生まれてくるものではなく、個々の研鑽により自ずと湧きでるものであり、のびのびとした個性ある表現力の発展は、真の創造の喜びを体得することから始まると考えます。その為の実技の時間を多くする一方、精神的な“ゆとり”に配慮しカリキュラムを編成しています。

2. カリキュラム編成の特徴

- (1) 日本画の制作研究を軸に、デッサン・写生・構成研究・古典研究・素材研究・学外研究、および他分野の実技制作が連動し、全体の一体感を計ります。
- (2) 1・2年次でしっかりとした基礎意識、造形力を養い、個々の感性に沿った表現までスムーズに移行できるようカリキュラムを編成しています。
- (3) 学生と教師間の討論、研究の場として話し合いをかさね、基本的な造形力・構成力を確実なものとしていきます。
- (4) 古典研究を深めその技法を習得する一方、現在の日本画材料・技法を研究し、その発展の可能性を追求する為、模本や素材研究設備を充実し時間を割きました。
- (5) 他専攻実技の体験、他分野との共同講義・演習により視野を広げ、より柔軟な思考と創造の基本を把握します。
- (6) 学外研究時間の充実により授業形態を多様化し、多くの視覚体験と写生研究を促進します。

・日本画制作

〔日本画基礎ⅠA〕〔日本画基礎ⅠB〕〔日本画基礎ⅡA〕〔日本画基礎ⅡB〕〔日本画研究ⅠA〕〔日本画研究ⅠB〕〔日本画研究Ⅱ〕〔卒業制作〕。

日本画の基礎から始まり、個性ある表現まで日本画材料による課題制作で、カリキュラムの軸となります。

〔1〕描写研究

写生旅行や動物園、水族館の写生、モデルのデッサン等により、対象を的確に観察把握し表現できる力を養います。

〔2〕構成研究

写生からのエスキース、下絵の研究により、基礎となる画面構成力、造形力を高めます。

〔3〕討論研究制作

講評会、ゲスト講師を交えての講評会により、学生と教師間または学生間で、新たな問題提起、討論研究、制作を行い、創造の原点を探ります。

〔4〕古典研究

模本を用いて模写を行い古典への考察を深め、現代日本画との関連性、およびその発展性を追求します。

〔5〕日本画素材研究

それぞれの分野の専門家を講師に、日本画の用具、用材を研究し、材料の特性をしっかりと把握するとともにその可能性を研究します。

〔6〕他分野実技、素材研究

〔美術選択実技A〕〔美術選択実技B〕で他専攻の実技を体験し、〔美術選択演習A〕〔美術選択演習B〕により、他分野の素材の知識と扱い方を習得し視野を広げ、新たな試みに挑戦します。

〔7〕 学外研究

美術館・ギャラリー等での作品鑑賞、日本画材料の製造工程の見学、写生旅行、動物写生などを学外研究として行います。

教育目標

日本画専攻では、日本画制作を軸に、日本画の材料・素材研究や古典絵画の研究を連動させ、幅広い視点から日本画を総合的に学び、日本画の伝統をふまえて、個々の豊かな資質・若い感性を活かした次代の新しい日本画の創造に主体的に取り組める人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1・2年次では、日本画制作を通して、伝統的画材や技法の知識などの基礎力を充実させ、作品サイズを次第に大きくしながら、柔軟な思考と創造力を培う。
- ・ 3年次では自己の表現の追求、より自由で個性的な創造的表現へ発展させ、古典研究では、精神・古典技法についてより深く学び、日本画制作の幅を広げる。
- ・ 4年次では、各自のテーマを探求し、習得した技術・技法をもとに、集大成として卒業作品を制作する。作品発表を通してプレゼンテーション力を高め、社会に発信していく力を養う。

芸術学部 美術学科 日本画専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次					
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態			
学部 共通 科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義						
	グローバル									
	基礎力創造力									
	アートを生かす									
	語学力									
学科 専門 科目	学科 共通 科目	必修	必 西洋美術史概説 必 日本美術史概説 必 東洋美術史概説	2 2 2	講義 講義 講義					
		選択必修				アート・プラクティス I アート・プラクティス II アート・アクティビティ A アート・アクティビティ B 色彩文化概論 配色調和論 視覚心理学 カラーキャリア I カラーキャリア II 技法史 文化資源学 ヴィジュアルスタディーズ A ヴィジュアルスタディーズ B デザイン批評 A デザイン批評 B 芸術人類学 芸術民俗学 芸術政策と法 創作活動と法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	8	
		選択	* 美術選択実技 A (油彩画) * 美術選択実技 A (リトグラフ) * 美術選択実技 A (日本画) * 美術選択実技 A (彫塑) * 美術選択実技 A (立体) 美術選択演習 A (素描/描写) 美術選択演習 A (パネル作製) 美術選択演習 A (紙) 美術選択演習 A (日本画) 美術選択演習 A (金工/ジュエリー) 美術選択演習 A (繊維/フェルト) 美術選択演習 A (CG) 美術選択演習 A (写真) 美術選択演習 A (メディア)	2 2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	* 美術選択実技 B (古典技法) * 美術選択実技 B (銅版画) * 美術選択実技 B (彫塑) * 美術選択実技 B (日本画) 美術選択演習 B (素描/描写) 美術選択演習 B (パネル作製) 美術選択演習 B (紙) 美術選択演習 B (日本画) 美術選択演習 B (金工/ジュエリー) 美術選択演習 B (繊維/フェルト) 美術選択演習 B (写真) 美術選択演習 B (メディア) 美術選択演習 B (製本) 美術選択演習 B (3D・CG初級) 美術選択演習 B (3D・CG中級) 石彫	2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 1 1 1	実技 実技 実技 実技 実技 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	8	
			絵画素材論 A 絵画素材論 B	1 1	講義 講義	(1~4年次)				
						芸術文化オープンゼミ I	2	演習		
		専攻・領域 専門科目	必修	* 日本画基礎 I A * 日本画基礎 I B	7 5	実技 実技	* 日本画基礎 II A * 日本画基礎 II B	7 7	実技 実技	
					12					14

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 8単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、6単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 教免一「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。(詳細はP.39)
 *印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						6	34
(2~4年次)						8 (注3)	
						20 (注4)	
			芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		94
(2~4年次)							
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3~4年次)				
美術教育論A	2	講義					
美術教育論B	2	講義					
* 日本画研究ⅠA	8	実技	* 日本画研究Ⅱ	8	実技	60	
* 日本画研究ⅠB	8	実技	* 卒業制作	10	実技		
	16			18			
合計						124	

芸術学部 美術学科 日本画専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部共通科目	A群							
	B群							
	C群							
	D群							
	E群	必 基礎学習ゼミ	2	講義				
学科専門科目	学科共通科目	必 修	必 西洋美術全史	4	講義			
		必 日本美術全史	4	講義				
			8					
	選 択 必 修					アート・プラクティスⅠ	2	演習
						アート・プラクティスⅡ	2	演習
						アート・アクティビティA	2	講義
						アート・アクティビティB	2	講義
						色彩文化概論	2	講義
						配色調和論	2	講義
						視覚心理学	2	講義
						カラーキャリアⅠ	2	講義
						カラーキャリアⅡ	2	講義
						技法史	2	講義
						文化資源学	2	講義
						ヴィジュアルスタディーズA	2	講義
						ヴィジュアルスタディーズB	2	講義
						デザイン批評A	2	講義
						デザイン批評B	2	講義
						芸術人類学	2	講義
						芸術民俗学	2	講義
						芸術政策と法	2	講義
					創作活動と法	2	講義	
						6		
選 択	* 美術選択実技A (油彩画)		2	実技	* 美術選択実技B (古典技法)	2	実技	
			2	実技	* 美術選択実技B (銅版画)	2	実技	
			2	実技	* 美術選択実技B (彫塑)	2	実技	
			2	実技	* 美術選択実技B (日本画)	2	実技	
			2	実技				
	美術選択演習A (素描/描写)		2	演習	美術選択演習B (素描/描写)	2	演習	
			1	演習	美術選択演習B (パネル作製)	1	演習	
			1	演習	美術選択演習B (紙)	1	演習	
			2	演習	美術選択演習B (日本画)	2	演習	
			2	演習	美術選択演習B (金工/シエロー)	2	演習	
			2	演習	美術選択演習B (繊維/フェルト)	2	演習	
			2	演習	美術選択演習B (写真)	2	演習	
			2	演習	美術選択演習B (メディア)	2	演習	
			2	演習	美術選択演習B (製本)	2	演習	
			2	演習	美術選択演習B (3D・CG初級)	1	演習	
	2	演習	美術選択演習B (3D・CG中級)	1	演習			
			石彫	1	演習			
	絵画素材論A	1	講義	(1～4年次)				
	絵画素材論B	1	講義					
				芸術文化オープンゼミⅠ	2	演習		
専攻・領域 専門科目	必 修	* 日本画基礎ⅠA	7	実技	* 日本画基礎ⅡA	7	実技	
		* 日本画基礎ⅠB	5	実技	* 日本画基礎ⅡB	7	実技	
			12			14		

注1. B群の「外国語コミュニケーション」から2単位を選択必修とし、4単位以上を修得すること。

外国人留学生は「日本語Ⅰ」2単位、「日本語Ⅱ」2単位の計4単位必修。

注2. 6単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、6単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

教免「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。(詳細はP.39)

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

美術学科 立体アート専攻

1. 教育内容

立体アート専攻では彫刻という枠を超え、多様な素材による立体造形の可能性を追求します。

それに伴い、素材に適した幅広い造形技術を身につけます。

また、複数の素材を組み合わせる等、独創性にあふれる表現を目指します。

芸術の本質と普遍性を探り、個々の感性を磨き、自由で豊かな発想による表現活動をする人を育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次 「素材演習」では粘土・紙・木・石・金属の素材に触れ、基礎となる技法を学びます。「彫塑基礎Ⅰ」及び「絵画」ではデッサンやトルソ・頭像制作を行い、立体造形の基礎を学びます。

「美術選択実技」では、自専攻又は他専攻の実技に取り組みます。

また、「美術共通実技」では他専攻の実技に取り組みます。

2年次 「素材実習」では各素材の技術を習得し、小作品を制作します。

「工芸」では機材を通して木工技術を学び、「立体基礎」では自ら選択した素材を使って作品を完成させます。

「美術選択実技」では、自専攻又は他専攻の実技に取り組みます。

「彫塑基礎Ⅱ」では塑造による全身像等を制作します。

3年次 「塑造」「紙」「木」「石」「金属」の中から自分の制作に合った素材を選択します。高度な技術を身につけ、表現の幅を広げ、独自の表現法を模索します。

4年次 3年次に選択した素材で、前期には卒業制作に繋がる作品を自由に制作し、後期は各自のテーマで4年間の集大成となる卒業制作を行います。

教育目標

立体アート専攻では、芸術の本質を見据え、彫刻という枠と従来の素材・様式などに捉われない独創的な造形表現を追求し、立体造形に関する専門的な知識や高度な技術の上に、豊かな感性と深い洞察力を有する人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1・2年次は立体造形で必要となる専門的な知識・技術における基礎的な理解を深める。
- ・ 3年次からは粘土・紙・木・石・金属等の中から各自が志望する素材を基に、専門性を高め、自己の表現を模索する。
- ・ 4年次はそれまでに習得した専門知識と技術をもって独自の造形性を探求し、集大成としての卒業作品を制作する。

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計			
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態				
						4	30		
						6 (注1)			
						10			
						2			
						4 (注2)			
						6	34		
(2~4年次)						8 (注3)			
						20 (注4)	94		
				芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習			
(2~4年次)									
芸術文化オープンゼミⅡ		4	演習				38		
美術教育論A		2	講義	(3~4年次)					
美術教育論B		2	講義						
造形表現演習		2	演習	* 卒業制作		10	実技		
		2				10			
* 塑造ⅠA	7	} 14	} 実技	* 塑造Ⅱ	8	} 8	} 実技		
* 塑造ⅠB	7			* 紙Ⅱ	8				
* 紙ⅠA	7			* 木Ⅱ	8				
* 紙ⅠB	7			* 石Ⅱ	8				
* 木ⅠA	7			* 金属Ⅱ	8				
* 木ⅠB	7								
* 石ⅠA	7								
* 石ⅠB	7								
* 金属ⅠA	7								
* 金属ⅠB	7								
				14				8	22
合 計						124			

教免一「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。(詳細はP.39)

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						6	30
						4 (注1)	
						2	
						12	
						4	
						8	34
(2～4年次)						6 (注2)	
(2～4年次)						20 (注3)	94
			芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
(2～4年次)							
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3～4年次)				38
美術教育論A	2	講義					
美術教育論B	2	講義					
造形表現演習	2	演習	* 卒業制作			10	実技
	2				10		
* 塑造ⅠA	7	} 14 実技	* 塑造Ⅱ	8	} 8 実技	22	
* 塑造ⅠB	7		* 紙Ⅱ	8			
* 紙ⅠA	7		* 木Ⅱ	8			
* 紙ⅠB	7		* 石Ⅱ	8			
* 木ⅠA	7		* 金属Ⅱ	8			
* 木ⅠB	7						
* 石ⅠA	7						
* 石ⅠB	7						
* 金属ⅠA	7						
* 金属ⅠB	7						
	14				8		
合計						124	

教免一「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。(詳細はP.39)
 *印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

1. 教育内容

美術科の教員あるいは美術に関する社会教育の専門家として社会に広く貢献できる人材を育成するために、絵画、彫刻、デザイン、工芸に関する幅広い知識と表現の方法、美術史・美術理論に関する全般的な知識、および美術教育に関する基礎的・実践的な知識と技能を学びます。

1年次から3年次の前半にかけて、絵画、彫刻、デザイン、工芸のそれぞれの領域における作品制作に取り組み、基礎的な知識と技術・手法を幅広く学びます。

1年次、2年次の主な実技の授業は「デッサン」「造形表現基礎A」「造形表現基礎B」の3つから構成されます。「デッサン」はデッサンの基礎から難しいものまで段階的に学びます。「造形表現基礎A」は美術教育専攻の基幹となる科目で、絵画、立体表現の基本を学びます。「造形表現基礎B」は美術学科内の他の専攻およびデザイン・工芸学科において、絵画、彫刻、デザイン、工芸に関する幅広い表現の方法を体験します。

また、美術学科の共通科目として、西洋美術史、日本美術史、絵画・立体表現の基礎実技、技法・素材に関わる演習などを学びます。

2年次、3年次からは実技の授業に加えて、「美術教育演習」というゼミ形式の授業において美術教育・美術理論について理解を深め、美術教育に関する専門性を高めていきます。美術教育に関する専門科目としては、「美術教育演習」のほかにも「美術教育論」「美術科教育内容指導論」などの授業が必修となっています。

また、3年次から4年次にかけての実技の授業は、絵画、立体表現などの中からより専門性の高い領域に分かれて制作を行い、4年次に自己の表現活動を卒業制作または卒業論文の形にして発表します。

2. カリキュラム編成の特徴

- (1) 実技を学ぶ造形表現A（1年次 造形表現基礎ⅠA、2年次 造形表現基礎ⅡA、3年次 造形表現研究ⅠA）は、絵画、立体表現、コンピュータ実習の3つの柱で構成されています。美術の多様な表現について、基礎から独自の表現による作品制作までをめざします。
- (2) 造形表現B（1年次 造形表現基礎ⅠB、2年次 造形表現基礎ⅡB、3年次 造形表現研究ⅠB）では、他専攻の実技体験を通して幅広い表現方法を学ぶだけでなく、独自の表現を追究する専門性を高めます。
- (3) 2・3年次の美術教育に関する専門科目には、美術教育の理論を学ぶ講義と教育現場で必要な実践的指導力を身に付ける演習があり、教師に求められる豊かな人間性、コミュニケーション能力など総合的な人間力を高めることをめざします。

教育目標

美術教育専攻では、絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史・美術理論に関する幅広い知識と技術を兼ね備え、美術教育で社会に広く貢献できる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次から3年次の前半にかけて、絵画、彫刻、デザイン、工芸のそれぞれの領域における作品制作に取り組み、基礎的な知識と技術・手法を幅広く学ぶ。その際、自専攻の課題のみならず、学科内他専攻および他学科の課題を体験することで、絵画、彫刻、デザイン、工芸のそれぞれの領域における表現方法や知識に触れ、技術・手法を深める。
- ・ 2年次からは、美術教育・美術理論のゼミに所属し、美術教育および美術による社会への貢献について理解を深め、美術教育に関する専門性を高めていく。
- ・ 3・4年次では、絵画、彫刻、デザイン、工芸の中から各自が志望する領域について、専門性を高め、自己の表現を模索する。
- ・ 4年次では、専門的知識と技術を習熟し、習得した幅広い教養と知識、技術の総まとめとして、自己の表現活動を卒業制作または卒業論文の形にまとめ上げる。

*…専門科目時間帯(実技時間帯) 必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
美術教育論A	2	講義				8	33
	2						
(2～4年次)						8 (注3)	94
						17 (注3)	
			芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
(2～4年次)							61
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3～4年次)				
美術教育論B	2	講義					
* 造形表現研究ⅠAa	4	実技	* 造形表現研究Ⅱ	8	演習	59	
* 造形表現研究ⅠAb	1	実技	* 卒業研究	10	演習		
* 造形表現研究ⅠAc	1	実技					
* 造形表現研究ⅠB	2	実技					
* デッサンⅢ	2	実技					
* デザイン・工芸選択実技A	2	実技					
美術教育演習B	2	演習					
美術科教育内容指導論B	2	講義					
	16			18			
							2
合計						124	

教免一「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。(詳細はP.39)

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。
 履修方法については研究室の指示に従うこと。

芸術学部 美術学科 美術教育専攻 カリキュラム表

科目区分	1 年 次			2 年 次						
	科目名	単位	形態	科目名	単位	形態				
学部 共通科目	A群									
	B群									
	C群									
	D群	必 図学A 必 図学B	2 2	講義 講義	(1～2年次)					
	E群	必 基礎学習ゼミ	2	講義						
学科 専門科目	学科 共通科目	必 西洋美術全史 必 日本美術全史	4 4	講義 講義						
		8								
	選 択	選 択 必 修				アート・プラクティスⅠ 2 アート・プラクティスⅡ 2 アート・アクティビティA 2 アート・アクティビティB 2 色彩文化概論 2 配色調和論 2 視覚心理学 2 カラーキャリアⅠ 2 カラーキャリアⅡ 2 技法史 2 文化資源学 2 ヴィジュアルスタディーズA 2 ヴィジュアルスタディーズB 2 デザイン批評A 2 デザイン批評B 2 芸術人類学 2 芸術民俗学 2 芸術政策と法 2 創作活動と法 2		演習 演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義		
			6	(注2)						
			* 美術選択実技A (油彩画) 2 * 美術選択実技A (リトグラフ) 2 * 美術選択実技A (日本画) 2 * 美術選択実技A (彫塑) 2 * 美術選択実技A (立体) 2	2 2 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技	* 美術選択実技B (古典技法) 2 * 美術選択実技B (銅版画) 2 * 美術選択実技B (彫塑) 2	2 2 2	実技 実技 実技		
			美術選択演習A (素描/描写) 2 美術選択演習A (パネル作製) 1 美術選択演習A (紙) 1 美術選択演習A (日本画) 2 美術選択演習A (金工/シユエリ-) 2 美術選択演習A (繊維/フェルト) 2 美術選択演習A (写真) 2 美術選択演習A (メテイト) 2	2 1 1 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	美術選択演習B (素描/描写) 2 美術選択演習B (パネル作製) 1 美術選択演習B (紙) 1 美術選択演習B (日本画) 2 美術選択演習B (金工/シユエリ-) 2 美術選択演習B (繊維/フェルト) 2 美術選択演習B (写真) 2 美術選択演習B (メテイト) 2 美術選択演習B (3D・CG初級) 1 美術選択演習B (3D・CG中級) 1 石彫 1	2 1 1 2 2 2 2 2 1 1 1	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習		
			絵画素材論A 1 絵画素材論B 1	1 1	講義 講義	(1～4年次)				
						芸術文化オープンゼミⅠ 2	2	演習		
			専攻・領域 専門科目	必 修	* 造形表現基礎ⅠAa * 造形表現基礎ⅠAb * 造形表現基礎ⅠAc * 造形表現基礎ⅠB * デッサンⅠ * デザイン・工芸選択実技B	3 1 1 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技 実技	* 造形表現基礎ⅡAa * 造形表現基礎ⅡAb * 造形表現基礎ⅡAc * 造形表現基礎ⅡB * デッサンⅡ 美術教育演習A 美術科教育内容指導論A	4 1 1 2 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技 演習 講義
					11					
選 択 必 修			選 択 必 修				デザイン・工芸論A 2 デザイン・工芸論B 2	2 2	講義	
				2						

注1. B群の「外国語コミュニケーション」から2単位を選択必修とし、4単位以上を修得すること。
外国人留学生は「日本語Ⅰ」2単位、「日本語Ⅱ」2単位の計4単位必修。
注2. 6単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、5単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
教免一「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。(詳細はP.39)
*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯) 必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						6	30
						4 (注1)	
						2	
						12	
						4	
美術教育論A	2	講義				10	33
	2						
(2~4年次)						6 (注2)	94
						17 (注3)	
				芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習	
(2~4年次)							61
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3~4年次)				
美術教育論B	2	講義					
* 造形表現研究 I Aa	4	実技	* 造形表現研究 II	8	演習		
* 造形表現研究 I Ab	1	実技	* 卒業研究	10	演習		
* 造形表現研究 I Ac	1	実技					
* 造形表現研究 I B	2	実技					
* デッサンⅢ	2	実技				59	
* デザイン・工芸選択実技A	2	実技					
美術教育演習B	2	演習					
美術科教育内容指導論B	2	講義					
	16			18			
						2	
合 計						124	

1. 教育内容

芸術文化専攻では3つの視点から芸術を学んでいきます。ひとつは芸術表象、芸術を理論から考え、ときに実際に体験しながら深めていきます。芸術の意味がわかるためには、そのもととなる社会や文化を理解することが絶対に必要です。どのような人が、何を感じ、何を考えて表現・デザインするのか、芸術の意味をていねいに深く掘り下げます。

次は色彩学・視覚科学で、美術の方法や表現効果を人間の心の働きや成り立ちをもとに考えていきます。人は視覚的な動物といわれていますが、人の存在と美術の成り立ちには深い関係があります。人間の脳が美術を生み出し、育ててきた理由とあり方を学んでいきます。

最後は美術史で、美術のあり方を古代から現在までの時間の流れの中で考えていきます。「見ること」と「知ること」、そして「作ること」にかかわる造形は、人間の可能性を考える際に重要な基本となります。長い歴史のなかでさまざまな展開してきた造形を通して、現在の私たちがどう存在し、どう進んでいくのかを考えていきます。

これら3つの視点を総合的に学んだのち、各視点に対応する3つのコースに分かれて専門性に磨きをかけてゆきます。また、ダブルコース制度により、各コースで学んでいる分野とは別にそれ以外の分野の学習成果を認証され、各所属の専門分野の枠をこえて、自分の興味・関心に基づいて自主的に学んでいくことが出来ます。ダブルコース制度で選択できる分野は上記3分野以外に、芸術人類学、芸術と法が加わります。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次では世界の芸術・文化を学ぶための基礎力を養います。1年次は芸術を通して「教養」を身につけてゆくための準備期間であり、世界各国の文化を広く学ぶことでこれまでの自分の視点から脱却し、客観的な視点で広く自らの文化を見る力を身に付けます。そして国内研修、東アジア研修を通して日本国内・アジアの芸術と文化に直接触れ、文化の流れとつながりを学びます。

2年次では芸術を通して世の中を知るための方法論を学びます。社会・思想・歴史・視覚などあらゆる角度から芸術を捉え、様々な事象と芸術との関連性を見出し研究するための手法を学びます。後期からはゼミで専門性を高め、また欧米研修によって西洋文化における芸術の在り方も直接体験します。

3年次は自らが芸術を探求するための方法を深めていきます。1・2年次で学んできた知識をもとに、芸術そのものを探求していきます。芸術の持つ意味を読み解くために作品の成り立ちや仕組みを学び、自分の専門性を活かした方法論に立脚して探求していきます。

4年次は芸術と社会との接点を見出し、芸術を生み出した人間を理解します。自らのテーマを定め、これまで学んできた方法論に基づいてオリジナリティの高い研究をまとめていきます。

教育目標

芸術文化専攻では文献研究、実験や研修などの体験を通して、芸術と人間・社会とのかかわりを理論的に研究し、またディスカッション等の方法論も学び、グローバル化に適応できる教養人、芸術を通して人間・社会に広く貢献できる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・1・2年次では基本的概念の理解と語学、研究法などの基礎知識を習得し、内外研修を通して文化と芸術との関係を学ぶ。
- ・3年次では自らの3コースから、自らの研究方法を選択し、コース毎にその具体的な方法論を学ぶ。同時に芸術と人間・社会とのかかわりに関する知見を深め、卒業研究の準備を整える。
- ・4年次ではこれまでに学んできた現象・方法論などの知識を活用し、自らの視点に基づいた独創的研究を進めると同時に、社会に出て活動する方向性を定める。

芸術学部 美術学科 芸術文化専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次				
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態		
学部 共通 科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義					
	グローバル								
	基礎力創造力								
	アートを生かす	必 情報メディア基礎演習	2	2	演習	(1～2年次)			
	語学力								
学科 専門 科目	学科 共通 科目	必 修	必 西洋美術史概説	2	講義				
			必 日本美術史概説	2	講義				
			必 東洋美術史概	2	講義				
		選 択 必 修			6				
							アート・プラクティス I	2	演習 (注3)
							アート・プラクティス II	2	
							アート・アクティビティ A	2	
							アート・アクティビティ B	2	講義
							色彩文化概論	2	
							配色調和論	2	講義
					視覚心理学	2			
					カラーキャリア I	2	講義 (注3)		
					カラーキャリア II	2			
					技法史	2	講義		
					文化資源学	2			
				ヴィジュアルスタディーズ A	2	講義 (注3)			
				ヴィジュアルスタディーズ B	2				
				デザイン批評 A	2	講義			
				デザイン批評 B	2				
				芸術人類学	2	講義 (注3)			
				芸術民俗学	2				
				芸術政策と法	2	講義			
				創作活動と法	2				
					8				
	選 択	*	美術選択実技 A (油彩画)	2	実技	* 美術選択実技 B (古典技法)	2	実技	
				美術選択実技 A (リトグラフ)	2	実技	* 美術選択実技 B (銅版画)	2	実技
				美術選択実技 A (日本画)	2	実技	* 美術選択実技 B (彫塑)	2	実技
				美術選択実技 A (彫塑)	2	実技	美術選択演習 B (素描/描写)	2	演習
				美術選択実技 A (立体)	2	実技	美術選択演習 B (パネル作製)	1	演習
				美術選択演習 A (素描/描写)	2	演習	美術選択演習 B (紙)	1	演習
				美術選択演習 A (パネル作製)	1	演習	美術選択演習 B (日本画)	2	演習
				美術選択演習 A (紙)	1	演習	美術選択演習 B (金工/ジュエリー)	2	演習
				美術選択演習 A (日本画)	2	演習	美術選択演習 B (繊維/フェルト)	2	演習
				美術選択演習 A (金工/ジュエリー)	2	演習	美術選択演習 B (写真)	2	演習
				美術選択演習 A (繊維/フェルト)	2	演習	美術選択演習 B (メイイ)	2	演習
				美術選択演習 A (CG)	2	演習	美術選択演習 B (製本)	2	演習
				美術選択演習 A (写真)	2	演習	美術選択演習 B (3D・CG初級)	1	演習
				美術選択演習 A (メイイ)	2	演習	美術選択演習 B (3D・CG中級)	1	演習
						石彫	1	演習	
			絵画素材論 A	1	講義	(1～4年次)			
			絵画素材論 B	1	講義				
						芸術文化オープンゼミ I	2	演習	
	専 攻・ 領 域 専 門 科 目	必 修	* 芸術文化基礎 I A	2	講義	* 芸術文化基礎 II A	2	講義	
				* 芸術文化基礎 I B	2	講義	* 芸術文化基礎 II B	2	講義
				* 芸術文化基礎 I C	2	講義	* 芸術文化基礎 II C	2	講義
				* グローバルコミュニケーション I	2	演習	* グローバルコミュニケーション II	2	演習
				* 海外芸術研修 I A	2	講義	* 海外芸術研修 II A	2	講義
				* 海外芸術研修 I B	2	演習	* 海外芸術研修 II B	6	演習
			* 日本文化研修 A	2	講義	* 日本文化研修 B	2	講義	
				14		* 芸術文化ゼミ I	2	演習	
		選 択 必 修						20	
							(1～4年次)		
						印刷概論	2	講義	
						工芸史 A (染織)	2	講義	
					工芸史 B (陶ガラス)	2	講義		

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から4単位以上必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注3. 各科目区分から2単位以上必修とし、合計10単位以上修得すること。また、10単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することがで

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
必 古美術研究	2	演習				10	
						2	
						4 (注2)	
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3～4年次)			10	44
	4						
(2～4年次)						10 (注3)	94
						24 (注4)	
				芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習	
(2～4年次)						40	50
美術教育論A	2	講義	(3～4年次)				
美術教育論B	2	講義					
* グローバルコミュニケーションⅢ	2	演習	* 卒業研究	4	演習		
	2			4			
芸術文化ゼミⅡ (芸術表象)	4	} 4 演習	芸術文化ゼミⅢ (芸術表象)	4	} 4 演習	8 (注5)	
芸術文化ゼミⅡ (美術史)	4		芸術文化ゼミⅢ (美術史)	4			
芸術文化ゼミⅡ (色彩)	4		芸術文化ゼミⅢ (色彩)	4			
	4			4		10	
(2～4年次)						2 (注5)	
合 計						124	

き、修得した単位は、8単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注5. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。

教免一「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。(詳細はP.39)

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						6	30
						6 (注1)	
						2	
必 古美術研究	2	演習				12	
						4	
芸術文化オープンゼミⅡ	4	演習	(3～4年次)			12	44
	4						
(2～4年次)						8 (注2)	94
						24 (注3)	
			芸術文化オープンゼミⅢ	4	演習		
(2～4年次)							50
美術教育論A	2	講義	(3～4年次)				
美術教育論B	2	講義					
* グローバルコミュニケーションⅢ	2	演習	* 卒業研究	4	演習	40	
	2			4			
芸術文化ゼミⅡ(芸術表象)	4	} 4 演習	芸術文化ゼミⅢ(芸術表象)	4	} 4 演習	8 (注4)	
芸術文化ゼミⅡ(美術史)	4		芸術文化ゼミⅢ(美術史)	4			
芸術文化ゼミⅡ(色彩)	4		芸術文化ゼミⅢ(色彩)	4			
	4			4		10	
(2～4年次)						2 (注4)	
合計						124	

教免－「美術選択実技A・B」、「美術選択演習A・B」は、指定科目を履修すること。(詳細はP.39)

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

デザイン・工芸学科

1. 教育内容

デザイン・工芸学科では、人と人とのコミュニケーション・人とモノの関わり・人と環境のあるべき姿の考察、および独創的な創作活動の実践を行います。そして幅広い視野・技術・感性を実体験から養い、柔軟な思考に基づき、時代に即応し活躍できる人材を養成します。そのために専攻する各デザイン分野と工芸分野に関する基礎的な知識と基本的な技能・技法を習得するとともに、豊かな感性や創造的な発想力、豊かな表現力の養成、柔軟な着想力、実践的な企画力を身につけることを教育目標としています。

2. カリキュラム編成の特徴

学科共通科目は、デザイン・工芸に関する幅広い基礎を学ぶ科目群です。デザイン・工芸選択実技A、デザイン・工芸選択実技Bは、各専攻における横断的に実技を学ぶ科目です。他に横断的な理論的知識を学ぶ科目としては、必修科目のデザイン・工芸論A、デザイン・工芸論Bのほか、デザイン図法、印刷概論、プロダクトデザイン概論、環境デザイン概論、素材演習A～F、工芸史A、工芸史Bなどのデザイン・工芸に関する基礎的な講義・演習科目があり、各自が学習計画をたてて選択履修します。

教育目標

デザイン・工芸学科は、人と人とのコミュニケーション・人とモノの関わり・人と環境のあるべき姿の考察、及び独創的な創作活動の実践を通して、幅広い視野・技術・感性を養い、柔軟な思考に基づき時代に即応し活躍できる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、各専攻のカリキュラムと学科共通科目を通して、デザインと工芸分野を中心とした幅広い知識やプレゼンテーション・スキルを身につけ、他専攻の横断の実技を経験することで自らの特性や個性、能力を見つめ直し、専門領域での表現に反映できるカリキュラムを編成する。

「デザイン・工芸選択実技A・B」

「デザイン・工芸選択実技A・B」は、デザイン・工芸学科の必修科目になります。以下の履修できる科目を確認して選択してください。

なお、「デザイン・工芸選択実技A・B」は抽選科目になりますので、必ず抽選申込締切日までにポータルサイトで抽選の希望登録をしてください。

年次	科目	コース名	当該科目・コースが教員免許状(美術)取得に必要な専攻	教免法上の区分 注	抽選申込締切
1	デザイン・工芸選択実技 A	平面シルクスクリーン	プロダクトデザイン、工芸	絵画	4/7 10:00 まで
		平面写真			
		平面タイポグラフィ			
		平面グラフィック			
		立体箱のデザイン			
		立体バターナイフ			
		空間			
		染			
		刺繍			
		ガラス			
	デザイン・工芸選択実技 B	平面シルクスクリーン	プロダクトデザイン、工芸	絵画	
		平面写真			
		平面タイポグラフィ			
		平面グラフィック			
		立体箱のデザイン			
		立体バターナイフ			
		空間			
		織			
		陶			

注：教職課程履修者は、教免法上の各区分に指定された科目のうちいずれか1科目を履修すること（詳細は「教職課程履修の手引」を参照すること）。

1. 教育内容

ヴィジュアルデザイン専攻では多様化する時代に応じ、的確で新しいヴィジュアルコミュニケーションの可能性を探求します。

具体的にはグラフィックデザインを中心に、タイポグラフィ、イラストレーション、写真、印刷、映像、Web、パッケージデザイン、TVCM、アニメーション、キャラクターデザイン、ブランディング、モーショングラフィック、編集、プレゼンテーション、広告におけるアートディレクション等、さらに新たな媒体における表現を見据えた多岐にわたる授業が用意されています。

それぞれの授業ではアナログやデジタルにかかわらず、表現の核心を追求します。社会でコミュニケーションが大きな意味を持つ中で、「ヴィジュアルデザイン」は非常に有効かつ豊かな手段です。社会の変化に対応しつつ時代の息づかいを敏感に吸収し、自らの創造力で新しいヴィジュアルデザインを提示できるクリエイターを育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

(1) 1、2年時を通しておこなわれるヴィジュアルデザイン基礎演習では、ヴィジュアルデザインに必要とされる基礎を習得します。単にスキルのみを習得するのではなく、観察、発見、発想、検証、表現といったプロセスを、実技体験をしながら理解しクリエイターとしての基盤を構築します。また、表現演習では多様な表現方法や情報を学び、基礎能力を広げていきます。

(2) 3年次からのヴィジュアルデザイン演習では、専門的なヴィジュアルデザインを学びます。前期は「グラフィックデザイン」と「アートディレクション」の2コースのどちらかを選択します。「グラフィックデザイン」ではグラフィックデザイナーとしての専門性と能力向上を目指し、「アートディレクション」ではグラフィックデザインのスキルを基にアートディレクターとしての幅広いコミュニケーション力、問題解決力を身につけます。後期はさらに細分化された専門性の高い授業が幅広く用意され、その中から選択することによって個々の目標を明確に実現し、卒業後の進路につながることでできるカリキュラムになっています。

4年次では、興味のあるデザイン分野をより深く体験することによって後期からの卒業制作につなげていきます。

【洋画専攻・ヴィジュアルデザイン専攻間の相互履修について】

洋画・ヴィジュアルデザイン専攻間において、相互の専攻・領域専門科目を履修することができます。

(対象学生) 1年次及び3年次 若干名

(履修科目) ※現行カリキュラムに沿って記載しているため、一部変更の可能性があります。

1年次 前期7月頃 3週間

「絵画ⅠB」(人体・静物・版画手法いずれか) 5単位の内の2単位分

→ 読替「デザイン・工芸選択実技A」2単位

3年次 後期(詳細日程未定) 3週間程度

「絵画ⅠB」(版画(リトグラフ・銅版画)) 5単位の内の2単位分

「絵画ⅢB」(コンペティション) 7単位の内の2単位分

→ 読替「VD演習Ⅰ-D」(専門的なデザイン領域) 2単位

教育目標

ヴィジュアルデザイン専攻では、デザインの基礎・造形理論・美の本質を理解し、グラフィックによるデザインを中心に関連分野の幅広いスキルを習得し、その過程で、客観的な視点や、デザインによる問題解決能力などを向上させ、社会の変化に対応し、的確で新鮮なヴィジュアルコミュニケーションができる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次はデザインの基礎を学ぶ。
- ・ 2年次はヴィジュアルデザインに必要なスキルを学び、より専門的な基礎を習得する。
- ・ 3年次はこれまでに習得したデザインの基礎知識を応用・展開してオリジナリティのある作品およびヴィジュアルデザインの可能性を追求する。
- ・ 4年次は各ゼミに分かれて、各自が専門表現の可能性を追求しながらテーマを設定し、4年間の集大成として卒業制作を制作する。

芸術学部 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次		
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義			
	グローバル						
	基礎力創造力						
	アートを生かす						
	語学力						
学科共通科目	必修	* デザイン・工芸選択実技A	2	実技	部 印刷概論	2	講義
		* デザイン・工芸選択実技B	2	実技	部 ヴィジュアルデザイン概論	2	講義
		デザイン・工芸論A	2	講義			
		デザイン・工芸論B	2	講義			
			8			4	
	選択	デザイン図法	2	講義	エコロジカルプランニング演習 ライティング演習 プロダクトデザイン概論 環境デザイン概論 工芸史A (染織) 工芸史B (陶ガラス)	1 1 2 2 2 2	演習 演習 講義 講義 講義 講義
		コンピュータプレゼン演習A コンピュータプレゼン演習B	2 2	演習 演習	バリアフリー演習 人間工学論	1 2	演習 講義
		色彩計画演習	2	演習	デザインと法	2	講義
		素材演習A	2	演習	展示計画論	2	講義
		素材演習B	2	演習	デザイン心理学	2	講義
素材演習C		2	演習	デザインサーベイ論	2	講義	
素材演習D		2	演習	インテリアデザイン史	2	講義	
素材演習E		2	演習	部 環境論	2	講義	
素材演習F		2	演習	部 日本服装史	2	講義	
					マーケティング論 映像表現演習A 映像表現演習B 写真演習 英語プレゼンテーション 建築材料学 建築生産 I 建築法規	2 2 2 2 2 2 1 1	講義 演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義
造形演習A 造形演習B 造形演習C 造形演習D	2 2 2 2	演習 演習 演習 演習	(履修年次指定なし)				
専攻・領域 専門科目	必修	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-A	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-A	2	演習
		* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-B	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-B	2	演習
		* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-C	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-C	2	演習
		* ヴィジュアルデザイン基礎演習 I-D	3	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-D	2	演習
		* 表現演習 I-A	1	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-E	2	演習
		* 表現演習 I-B	1	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習 II-F	2	演習
					* 表現演習 II-A * 表現演習 II-B	2 2	演習 演習
		14			16		

注1. 「グローバルな多様性社会に必要な知識を身に付ける」科目群のうち、外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。
 注2. 「語学力を高め世界で活躍する」科目群のうち、英語系から2単位以上を必修とし、4単位以上を修得すること。
 注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 * 印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。
 履修方法については研究室の指示に従うこと。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						12	30
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義	18 (注3)	
文様史	2	講義	(1～4年次)			18 (注3)	30
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
部 写真史	2	講義					
(2～4年次)							94
(2～4年次)							
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-A	2	演習	* 卒業制作	10	実技	64	64
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-B	2	演習	* ヴィジュアルデザイン演習Ⅱ-A	4	演習		
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-C	2	演習	* ヴィジュアルデザイン演習Ⅱ-B	4	演習		
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-D	2	演習					
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-E	2	演習					
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-F	2	演習					
* 表現演習Ⅲ-A	2	演習					
* 表現演習Ⅲ-B	2	演習					
	16			18			
合計						124	

芸術学部 デザイン・工芸学科 ヴィジュアルデザイン専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次				
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態		
学部共通科目	A群								
	B群								
	C群	選 健康科学 選 スポーツ演習A～D	2 1	} 2 演習	(1～4年次)				
	D群								
	E群	必 基礎学習ゼミ	2	講義					
学科専門科目	必修	* デザイン・工芸選択実技A	2	実技	印刷概論	2	講義		
		* デザイン・工芸選択実技B	2	実技	ヴィジュアルデザイン概論	2	講義		
		デザイン・工芸論A	2	講義					
		デザイン・工芸論B	2	講義					
			8			4			
	選択	デザイン図法	2	講義	エコロジカルプランニング演習 ライティング演習 プロダクトデザイン概論 環境デザイン概論 工芸史A（染織） 工芸史B（陶ガラス）	1 1 2 2 2 2	演習 演習 講義 講義 講義 講義		
		コンピュータプレゼン演習A コンピュータプレゼン演習B 色彩計画演習 素材演習A 素材演習B 素材演習C 素材演習D 素材演習E 素材演習F	2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	バリアフリー演習 人間工学論 デザインと法 展示計画論 デザイン心理学 デザインサーベイ論 インテリアデザイン史 環境論 日本服装史	1 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義		
					マーケティング論（注3） 映像表現演習A 映像表現演習B 写真演習 英語プレゼンテーション 建築材料学 建築生産I 建築法規	2 2 2 2 2 2 1 1	講義 演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義		
		造形演習A 造形演習B 造形演習C 造形演習D	2 2 2 2	演習 演習 演習 演習	(履修年次指定なし)				
		専攻・領域 専門科目	必修	* ヴィジュアルデザイン基礎演習I-A	2	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習II-A	2	演習
				* ヴィジュアルデザイン基礎演習I-B	2	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習II-B	2	演習
* ヴィジュアルデザイン基礎演習I-C				2	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習II-C	2	演習	
* ヴィジュアルデザイン基礎演習I-D				2	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習II-D	2	演習	
* ヴィジュアルデザイン基礎演習I-E				2	演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習II-E	2	演習	
* ヴィジュアルデザイン基礎演習I-F	2			演習	* ヴィジュアルデザイン基礎演習II-F	2	演習		
* 表現演習I	2			演習	* 表現演習II-A	2	演習		
					* 表現演習II-B	2	演習		
	14			16					

注1. B群の「外国語コミュニケーション」から2単位を選択必修とし、4単位以上を修得すること。

外国人留学生は「日本語I」2単位、「日本語II」2単位の計4単位必修。

注2. 指定単位数を超過して修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注3. 履修することが望ましい。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。

履修方法については研究室の指示に従うこと。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						6	30
						4 (注1)	
						2	
						12	
						4	
						12	
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義		
文様史 伝統染織文化論 テキスタイル表現論 空間演出論 現代造形論 広告論 写真史	2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	(1～3年次)			18 (注2)	30
(2～3年次)							94
(2～4年次)							
* ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-A * ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-B * ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-C * ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-D * ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-E * ヴィジュアルデザイン演習Ⅰ-F * 表現演習Ⅲ-A * 表現演習Ⅲ-B	2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	* 卒業制作 * ヴィジュアルデザイン演習Ⅱ-A * ヴィジュアルデザイン演習Ⅱ-B	10 4 4	実技 演習 演習	64	64
	16			18			
合 計						124	

1. 教育内容

近年デザインは社会の様々な分野で求められ、女性らしい視点のデザインが果たす役割は広がっています。プロダクトデザイン専攻では、ものづくりを起点に人の豊かな生活、かわいい・楽しいなど感性に届けるデザイン、私たちを取り巻く社会の課題解決まで広い視野を育てます。4年間の授業プログラムは、観察する力を養い、素材や技術の学びを通して身近なモノの成り立ちや美しさを理解する基礎演習から始まります。その後文化やライフスタイルなど人を取り巻く情報とモノとの関係から発想する力を身につけます。さらに「かわいい」を探求する雑貨、企業とのコラボレーションなど、臨場感ある授業へステップアップして実践力を高めます。最終学年では、身に付けた力を総合的に活かして社会が抱える課題の解決という広い視座のデザインを学びます。このように現代社会のニーズに対応する多様な力を段階的に養うカリキュラムを構築しています。また3年次からの実技課題は課題テーマを選んで受講する選択授業となり、少人数クラスの充実した指導体制です。知識や技術の習得だけではない、個性を尊重した学びを提供します。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次

【観察する・考える・つくる】

デザインの基礎となる観察力・表現力・立体感覚を養います。スケッチやモデル制作、CG演習、表現演習、デザイン図法など多角的に表現技法を習得します。実技課題は、様々な素材の特徴を学び制作する過程で、「つくること」の視点を通して「身の回りのプロダクトがどのように作られているのか」という外への気付きを学びます。

2年次

【調べる・つなげる・つくる】

1年次に引き続き表現演習、CG演習でさらに表現技術を高めるとともに、プロダクトデザイン概論、プロダクトデザイン史等の座学授業から専門的な知識を学びます。実技授業ではモノを取り巻く情報を調べ、人と物との関係性に向き合います。「ブランディング」「アクセサリ」「木工玩具」等のデザインを通してコンセプト、ストーリーを立てる思考力、それを的確にモノで表現する実行力を習得します。

3年次

【コトを深掘り・実践力をつける】

選択授業による少人数制になり、テーマを深掘りしてアウトプットすることを習得します。かわいい雑貨など、女子美らしいテーマをはじめ、企業とのコラボレーションを中心に課題を構成し、社会との接点を増やすことで刺激を受け自発的に学ぶ力と実践力を養います。

4年次

【社会に目を向け総合力を発揮する】

第1課題では社会課題をテーマとしたデザインに取り組むことで、人や社会に貢献するデザインのあり方を学び、卒業制作に取り組みます。社会を俯瞰しデザインの多様な役割を深めた上で、4年間の学びの集大成として作品の研究制作に挑戦します。

教育目標

プロダクトデザイン専攻では、社会において柔軟なデザイン活動ができるよう、学内外での実体験を通して、プロダクトデザイン本来の意味を理解し、専門領域としての基礎技術である「発想力」・「技術力」・「表現力」を習得した上で、各自の個性を生かし、高い美意識やデザイン能力を有する人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次は、「体験からの発見」とし、各種の素材を中心にした課題から、プロダクトデザインの基礎を学ぶ。
- ・ 2年次は、「モノとコトを知る」とし、各種の専門基礎的な課題から、デザインプロセスを体験し、モノやコトの本質を探求する。
- ・ 3年次は「発想からの創造」とし、様々な製品デザインの実技課題を通し、多様なプロジェクトに対応できるデザイン能力を習得する。
- ・ 4年次は「社会性と個のデザイン力の確認」とし、社会に視点を向け、自己の個性やデザイン力を再確認する。卒業制作では4年間の集大成として魅力ある作品制作を行う。

芸術学部 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義				
	グローバル							
	基礎力創造力							
	アートを生かす							
	語学力							
学科 共通科目	必修	* デザイン・工芸選択実技A * デザイン・工芸選択実技B デザイン図法 デザイン・工芸論A デザイン・工芸論B	2 2 2 2 2	実技 実技 講義 講義 講義	プロダクトデザイン概論	2	講義	
		選択	エコロジカルプランニング演習 ライティング演習 印刷概論 ヴィジュアルデザイン概論 環境デザイン概論 工芸史A（染織） 工芸史B（陶ガラス）			部	1 1 2 2 2 2 2	演習 演習 講義 講義 講義 講義 講義
			コンピュータプレゼン演習A コンピュータプレゼン演習B 色彩計画演習 素材演習A 素材演習B 素材演習C 素材演習D 素材演習E 素材演習F	2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	部	1 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
			映像表現演習A 映像表現演習B 写真演習 英語プレゼンテーション 建築材料学 建築生産Ⅰ 建築法規				2 2 2 2 2 1 1	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義
			造形演習A 造形演習B 造形演習C 造形演習D	2 2 2 2	演習 演習 演習 演習			
	専攻・領域 専門科目	必修	* プロダクトデザイン基礎演習A * プロダクトデザイン基礎演習B * プロダクトデザイン基礎演習C * プロダクトデザイン基礎演習D * プロダクトデザイン基礎演習E * プロダクトデザイン基礎演習F * CG演習Ⅰ * 表現演習Ⅰ	2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	* プロダクトデザイン演習A * プロダクトデザイン演習B * プロダクトデザイン演習C * プロダクトデザイン演習D * プロダクトデザイン演習E * プロダクトデザイン演習F * CG演習Ⅱ * 表現演習Ⅱ プロダクトデザイン史	2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 講義
	専攻・領域 専門科目	選択		0			0	

注1. 「グローバルな多様性社会に必要な知識を身に付ける」科目群のうち、外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。
 注2. 「語学力を高め世界で活躍する」科目群のうち、英語系から2単位以上を必修とし、4単位以上を修得すること。
 注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 * 印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						12	94
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義		
日本服装史	2	講義	(1～4年次)			18 (注3)	
文様史	2	講義					
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
部 写真史	2	講義					
(2～4年次)							
(2～4年次)							
* 3D-CG演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技	46	
	2			10		64	
* プロダクトデザインⅠA a	3	} 3 実技	* プロダクトデザインⅡA a	3	} 3 実技	18	
* プロダクトデザインⅠA b	3						
* プロダクトデザインⅠB a	3						
* プロダクトデザインⅠB b	3	} 3 実技	* プロダクトデザインⅡB a	3	} 3 実技		
* プロダクトデザインⅠC a	3						
* プロダクトデザインⅠC b	3						
* プロダクトデザインⅠD a	3	} 3 実技	* プロダクトデザインⅡB b	3	} 3 実技		
* プロダクトデザインⅠD b	3						
	12			6			
合 計						124	

芸術学部 デザイン・工芸学科 プロダクトデザイン専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次				
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態		
学部 共通科目	A群								
	B群								
	C群								
	D群								
	E群	必 基礎学習ゼミ	2	講義					
学科 専門科目	学科 共通科目	必 修	* デザイン・工芸選択実技A	2	実技	プロダクトデザイン概論	2	講義	
			* デザイン・工芸選択実技B	2	実技				
			デザイン図法	2	講義				
			デザイン・工芸論A	2	講義				
			デザイン・工芸論B	2	講義				
				10					
	選 択	選 択				エコロジカルプランニング演習	1	演習	
						ライティング演習	1	演習	
						印刷概論	2	講義	
						ヴィジュアルデザイン概論	2	講義	
						環境デザイン概論	2	講義	
						工芸史A（染織）	2	講義	
					工芸史B（陶ガラス）	2	講義		
					コンピュータプレゼン演習A	2	演習		
					コンピュータプレゼン演習B	2	演習		
					色彩計画演習	2	演習		
					素材演習A	2	演習		
					素材演習B	2	演習		
			素材演習C	2	演習				
			素材演習D	2	演習				
			素材演習E	2	演習				
			素材演習F	2	演習				
					部	環境論	2	講義	
						映像表現演習A	2	演習	
						映像表現演習B	2	演習	
						写真演習	2	演習	
						英語プレゼンテーション	2	演習	
						建築材料学	2	講義	
						建築生産 I	1	講義	
						建築法規	1	講義	
						造形演習A	2	演習	
						造形演習B	2	演習	
						造形演習C	2	演習	
						造形演習D	2	演習	
						（履修年次指定なし）			
専攻・領域 専門科目	必 修	* プロダクトデザイン基礎演習A	2	演習	* プロダクトデザイン演習A	2	演習		
		* プロダクトデザイン基礎演習B	2	演習	* プロダクトデザイン演習B	2	演習		
		* プロダクトデザイン基礎演習C	2	演習	* プロダクトデザイン演習C	2	演習		
		* プロダクトデザイン基礎演習D	2	演習	* プロダクトデザイン演習D	2	演習		
		* プロダクトデザイン基礎演習E	2	演習	* プロダクトデザイン演習E	2	演習		
		* プロダクトデザイン基礎演習F	2	演習	* プロダクトデザイン演習F	2	演習		
	* CG演習 I	2	演習	* CG演習 II	2	演習			
	* 表現演習 I	2	演習	* 表現演習 II	2	演習			
							プロダクトデザイン史	2	講義
				16			18		
		選 択 必 修							

注1. B群の「外国語コミュニケーション」から2単位を選択必修とし、4単位以上を修得すること。

外国人留学生は「日本語Ⅰ」2単位、「日本語Ⅱ」2単位の計4単位必修。

注2. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						6	30
						4 (注1)	
						2	
						12	
						4	
						12	94
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義		
日本服装史	2	講義	(1～3年次)			18 (注2)	
文様史	2	講義					
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
写真史	2	講義					
(2～3年次)							
(2～4年次)							
* 3D-CG演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技	46	
	2			10		64	
* プロダクトデザインⅠA a	3	} 3 実技	* プロダクトデザインⅡA a	3	} 3 実技	18	
* プロダクトデザインⅠA b	3		* プロダクトデザインⅡA b	3			
* プロダクトデザインⅠB a	3		* プロダクトデザインⅡB a	3			
* プロダクトデザインⅠB b	3	} 3 実技	* プロダクトデザインⅡB b	3			
* プロダクトデザインⅠC a	3						
* プロダクトデザインⅠC b	3	} 3 実技					
* プロダクトデザインⅠD a	3						
* プロダクトデザインⅠD b	3						
	12			6			
合 計						124	

1. 教育内容

本専攻は、ボーダレス化の進む現代社会において、国際的な価値観と多様性を持った先端的なクリエイターの育成を目的にしています。そのために幅広いデザイン・工芸領域から基礎知識を習得した上で、環境デザインの専門領域の学習を進めていきます。

また本専攻では、美大生としての感性を生かした空間デザイナーを目指す学生のための授業と、一級・二級建築士等の資格などを目指す学生のための授業両方が開設されており、自らの感性と志望にあったカリキュラムを選択・計画し、環境デザインの専門性を深めていきます。

夢の実現を目指し、広い視野から物事を探求する力やデザイン現場でのプレゼンテーション能力を磨くと同時に、企業研修等を通して社会で働くための実践力も身に付けることを目標としています。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次

デザインの基礎的な課題（平面・立体・空間）をとおして、空間デザインの発想力を学ぶと同時に、デザイン・工芸領域の科目を自由に選択し、基礎的な知識と技能を学びます。

2年次

環境デザインの基礎授業として、家具・ディスプレイデザイン・インテリア・庭・公園など内部・外部空間を様々な材料使ってデザインすることを学びます。

3年次

住宅系・商業系・街路景観系など、広い環境デザイン領域から、自らの志望にあった課題を選択・計画し、専門性を深めます。また希望者は企業研修等でデザインの現場を体験します。

4年次

前期は、自らの志望を更に深めるための課題を行い、後期は、テーマを自由に選択し4年間の集大成として卒業制作をします。専門領域の研究室でのゼミ形式授業です。

※デザイン・工芸学科環境デザイン専攻では、在学中に修得した科目によって、次の受験資格を取得できます。

- ・一級建築士受験資格（要必須科目）
- ・二級建築士受験資格（要必須科目）
- ・木造建築士受験資格（要必須科目）
- ・インテリアプランナー登録資格（要必須科目）
- ・商業施設士受験資格（要必須科目）

教育目標

環境デザイン専攻では、地域社会、あるいは全地球的な環境において、創造的なデザイン活動ができるよう、国際的な視野、異領域理解能力、そしてコミュニケーション能力を養い、社会の一員としてデザイン活動できる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次では、「環境デザインとは何か」「空間をデザインすることとは」を学ぶ。
- ・ 2年次では、環境デザインに必要なスケール感覚や素材、技術等の基礎を学びながら、さまざまな幅広い環境デザインの領域があることを学ぶ。そして、さらに深めたい専門領域を選択する。
- ・ 3年次では、選択した専門領域を中心に深めていきながら、周辺の領域の知識や応用能力を身につけていく。また、学外発表や研修を通して社会性を身につけていく。
- ・ 4年次では、それまでに習得した知識、技術、および感性を基に、より高度で社会性のあるテーマを各自設定し、条件を整理・分析の上、幅広い表現のデザイン作品を制作する。

芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 カリキュラム表

科目区分		1年次			2年次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義				
	グローバル							
	基礎力創造力							
	アートを生かす							
	語学力							
学科共通科目	必修	* デザイン・工芸選択実技A	2	実技	環境デザイン概論	2	講義	
		* デザイン・工芸選択実技B	2	実技				
		デザイン図法	2	講義				
		デザイン・工芸論A	2	講義				
		デザイン・工芸論B	2	講義				
			10				2	
	選択					部		
学科専門科目	必修	映像表現演習A	2	演習	部	2	演習	
		映像表現演習B	2	演習		2	演習	
		写真演習	2	演習		2	演習	
		英語プレゼンテーション	2	演習		2	演習	
		建築材料学	2	講義		2	講義	
	建築生産Ⅰ	1	講義		1	講義		
	建築法規	1	講義		1	講義		
	造形演習A	2	演習					
	造形演習B	2	演習					
	造形演習C	2	演習					
造形演習D	2	演習						
							(履修年次指定なし)	
専攻・領域 専門科目	必修	* 環境デザイン基礎演習A	2	演習	* 環境デザイン演習A	2	演習	
		* 環境デザイン基礎演習B	2	演習	* 環境デザイン演習B	3	演習	
		* 環境デザイン基礎演習C	2	演習	* 環境デザイン演習C	2	演習	
		* 環境デザイン基礎演習D	2	演習	* 環境デザイン演習D	2	演習	
		* 環境デザイン基礎演習E	2	演習	* 環境デザイン演習E	2	演習	
		* 環境デザイン基礎演習F	2	演習	* 製図演習	2	演習	
		* CG演習	2	演習	* CAD演習	2	演習	
				14		* プレゼン演習Ⅰ	2	演習
					17			
専攻・領域 専門科目	選択							
			0				0	

注1. 「グローバルな多様性社会に必要な知識を身に付ける」科目群のうち、外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。
 注2. 「語学力を高め世界で活躍する」科目群のうち、英語系から2単位以上を必修とし、4単位以上を修得すること。
 注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 * 印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。
 履修方法については研究室の指示に従うこと。
 ※下線の科目は建築士受験資格取得の該当科目。（詳細はP.90～91）

芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部共通科目	A群							
	B群							
	C群							
	D群							
	E群	必 基礎学習ゼミ	2	講義				
学科共通科目	必修	* デザイン・工芸選択実技A	2	実技	環境デザイン概論	2	講義	
		* デザイン・工芸選択実技B	2	実技				
		* デザイン図法	2	講義				
		デザイン・工芸論A	2	講義				
		デザイン・工芸論B	2	講義				
			10			2		
	選択					エコロジカルプランニング演習	1	演習
						ライティング演習	1	演習
						印刷概論	2	講義
						ヴィジュアルデザイン概論	2	講義
					プロダクトデザイン概論	2	講義	
					工芸史A（染織）	2	講義	
					工芸史B（陶ガラス）	2	講義	
					コンピュータプレゼン演習A	2	演習	
					コンピュータプレゼン演習B	2	演習	
					色彩計画演習	2	演習	
				素材演習A	2	演習		
				素材演習B	2	演習		
				素材演習C	2	演習		
				素材演習D	2	演習		
				素材演習E	2	演習		
				素材演習F	2	演習		
					部 環境論	2	講義	
					映像表現演習A	2	演習	
					映像表現演習B	2	演習	
					写真演習	2	演習	
					英語プレゼンテーション	2	演習	
					建築材料学	2	講義	
					建築生産Ⅰ	1	講義	
					建築法規	1	講義	
					造形演習A	2	演習	
					造形演習B	2	演習	
					造形演習C	2	演習	
					造形演習D	2	演習	
							(履修年次指定なし)	
学科専門科目	必修	* 環境デザイン基礎演習A	2	演習	* 環境デザイン演習A	2	演習	
		* 環境デザイン基礎演習B	2	演習	* 環境デザイン演習B	3	演習	
		* 環境デザイン基礎演習C	2	演習	* 環境デザイン演習C	2	演習	
		* 環境デザイン基礎演習D	2	演習	* 環境デザイン演習D	2	演習	
		* 環境デザイン基礎演習E	2	演習	* 環境デザイン演習E	2	演習	
		* 環境デザイン基礎演習F	2	演習	* 製図演習	2	演習	
		* CG演習	2	演習	* CAD演習	2	演習	
			14		* プレゼン演習Ⅰ	2	演習	
	選択必修							17

注1. B群の「外国語コミュニケーション」から2単位を選択必修とし、4単位以上を修得すること。

外国人留学生は「日本語Ⅰ」2単位、「日本語Ⅱ」2単位の計4単位必修。

注2. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						6	30
						4 (注1)	
						2	
						12	
						4	
						12	94
			構造計画 建築設備 建築生産Ⅱ	2 2 1	講義 講義 講義		
日本服装史	2	講義	(1～3年次)			18 (注2)	
文様史	2	講義					
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
写真史	2	講義					
(2～3年次)							
(2～4年次)							
* 構造演習 * プレゼン演習Ⅱ	2 2	演習 演習	* 卒業制作	10	実技	45	
	4			10			
* 環境デザインⅠA a	2	} 2	* 環境デザインⅡA a	4	} 4	実技	64
* 環境デザインⅠA b	2		* 環境デザインⅡA b	4			
* 環境デザインⅠB a	2	} 2	* 環境デザインⅡB a	4	} 4	実技	
* 環境デザインⅠB b	2		* 環境デザインⅡB b	4			
* 環境デザインⅠC a	2	} 2				19	
* 環境デザインⅠC b	2						
* 環境デザインⅠD a	2	} 2					
* 環境デザインⅠD b	2						
* 環境デザインⅠE a	3	} 3					
* 環境デザインⅠE b	3						
	11			8			
合 計						124	

* 印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

※ 下線の科目は建築士受験資格取得の該当科目。(詳細はP.90～91)

一級建築士

免許登録要件取得の履修方法

免許登録要件を得るために下記科目を修得する必要があります。修得単位数によって免許登録時の実務経験の最短年数が異なります。

	科目名	履修学年	単位数
① 建築設計製図 (7 単位以上)	① 製図演習	2	2
	① CAD演習	2	2
	① 環境デザイン演習 A	2	2
	① 環境デザインIB a	3	2
	① 環境デザインIE a	3	3
② 建築計画 (7 単位以上)	② 環境デザイン概論	2	2
	② プレゼン演習 I	2	2
	② インテリアデザイン史	1～3	2
	② バリアフリー演習	1～3	1
③ 建築環境工学 (2 単位以上)	③ エコロジカルプランニング演習	2	1
	③ ライティング演習	2	1
④ 建築設備 (2 単位以上)	④ 建築設備	4	2
⑤ 構造力学 (4 単位以上)	⑤ 構造演習	3	2
	⑤ 構造計画	4	2
⑥ 建築一般構造 (3 単位以上)	⑥ 環境デザイン演習 B	2	3
⑦ 建築材料 (2 単位以上)	⑦ 建築材料学	2～4	2
⑧ 建築生産 (2 単位以上)	⑧ 建築生産 I	2～4	1
	⑧ 建築生産 II	4	1
⑨ 建築法規 (1 単位以上)	⑨ 建築法規	2～4	1
⑩ その他 (適宜)	⑩ 環境デザイン基礎演習 B	1	2
	⑩ 環境デザイン演習 D	2	2
	⑩ 環境デザインIC a	3	2
	⑩ 環境デザインID a	3	2
	⑩ 環境デザインII A a	4	4
	⑩ 環境デザインII B a	4	4
総単位数 (①～⑩の単位数合計)			50

免許登録要件 実務経験の 最短年数 3 年の場合	免許登録要件 実務経験の 最短年数 4 年の場合
↓必修 30 単位	↓必修 30 単位
①より 7 単位以上 修得	①より 7 単位以上 修得
②より 7 単位以上 修得	②より 7 単位以上 修得
③より 2 単位以上 修得	③より 2 単位以上 修得
④より 2 単位以上 修得	④より 2 単位以上 修得
⑤より 4 単位以上 修得	⑤より 4 単位以上 修得
⑥より 3 単位以上 修得	⑥より 3 単位以上 修得
⑦より 2 単位以上 修得	⑦より 2 単位以上 修得
⑧より 2 単位以上 修得	⑧より 2 単位以上 修得
⑨より 1 単位以上 修得	⑨より 1 単位以上 修得
左記科目を 50 単位修得する必要あり (必修 30 単位 + 他 20 単位)	
左記科目を 40 単位修得する必要あり (必修 30 単位 + 他 10 単位)	

二級・木造建築士

免許登録要件取得の履修方法

免許登録要件を得るために下記科目を修得する必要があります。修得単位数によって免許登録時の実務経験の最短年数が異なります。

科目名	履修学年	単位数	免許登録要件 実務経験の 最短年数 0年の場合	免許登録要件 実務経験の 最短年数 1年の場合	免許登録要件 実務経験の 最短年数 2年の場合
			↓必修 10単位	↓必修 10単位	↓必修 10単位
① 建築設計製図 (3単位以上)	① 製図演習	2	①より 3単位以上 修得	①より 3単位以上 修得	①より 3単位以上 修得
	① CAD演習	2			
	① 環境デザイン演習 A	2			
	① 環境デザインI B a	3			
	① 環境デザインI E a	3			
② 建築計画 ③ 建築環境工学 ④ 建築設備 (2単位以上)	② 環境デザイン概論	2	②③④より 2単位以上 修得	②③④より 2単位以上 修得	②③④より 2単位以上 修得
	② プレゼン演習 I	2			
	② インテリアデザイン史	1～3			
	② バリアフリー演習	1～3			
	③ エコロジカルプランニング演習	2			
	③ ライティング演習	2			
	④ 建築設備	4			
⑤ 構造力学 ⑥ 建築一般構造 ⑦ 建築材料 (3単位以上)	⑤ 構造演習	3	⑤⑥⑦より 3単位以上 修得	⑤⑥⑦より 3単位以上 修得	⑤⑥⑦より 3単位以上 修得
	⑤ 構造計画	4			
	⑥ 環境デザイン演習 B	2			
	⑦ 建築材料学	2～4			
⑧ 建築生産 (1単位以上)	⑧ 建築生産 I	2～4	⑧より 1単位以上 修得	⑧より 1単位以上 修得	⑧より 1単位以上 修得
	⑧ 建築生産 II	4			
⑨ 建築法規 (1単位以上)	⑨ 建築法規	2～4	⑨より 1単位以上 修得	⑨より 1単位以上 修得	⑨より 1単位以上 修得
⑩ その他 (適宜)	⑩ 環境デザイン基礎演習 B	1	左記科目を 40単位修得する 必要あり (必修10単位+他 30単位)	左記科目を 30単位修得する 必要あり (必修10単位+他 20単位)	左記科目を 20単位修得する 必要あり (必修10単位+他 10単位)
	⑩ 環境デザイン演習 D	2			
	⑩ 環境デザインI C a	3			
	⑩ 環境デザインI D a	3			
	⑩ 環境デザインII A a	4			
	⑩ 環境デザインII B a	4			
総単位数 (①～⑩の単位数合計)		50			

1. 教育内容

工芸は、人々の心や生活を豊かにするための造形芸術です。作り手は、技と自らの意思により、素材の特徴を生かしたものの作りが求められます。ものづくりの原点といえる領域であり、その表現や解釈は多様です。デジタル化が進む現代において、伝統を受け継ぎながらも新しい価値を生み出す可能性を持っています。

工芸専攻では、確かな技術と知識を習得し、伝統工芸から現代アートまで、生活・環境のため時代に即応した工芸作品を創造できる発想力・表現力を身につけます。また自らの手で根気よくものを作り上げていくことの大切さを学びながら、豊かな感性を育てていきます。工芸技術とデザインの双方を学び、手仕事と機械生産の可能性と限界を見極め、次世代の作家・デザイナーとして、柔軟な思考で新しい創作を開拓できる人材を育成します。

2. カリキュラム編成の特徴

●段階的なカリキュラム

工芸専攻では染・織・刺繍・陶・ガラスの5つの分野の工芸素材を扱います。

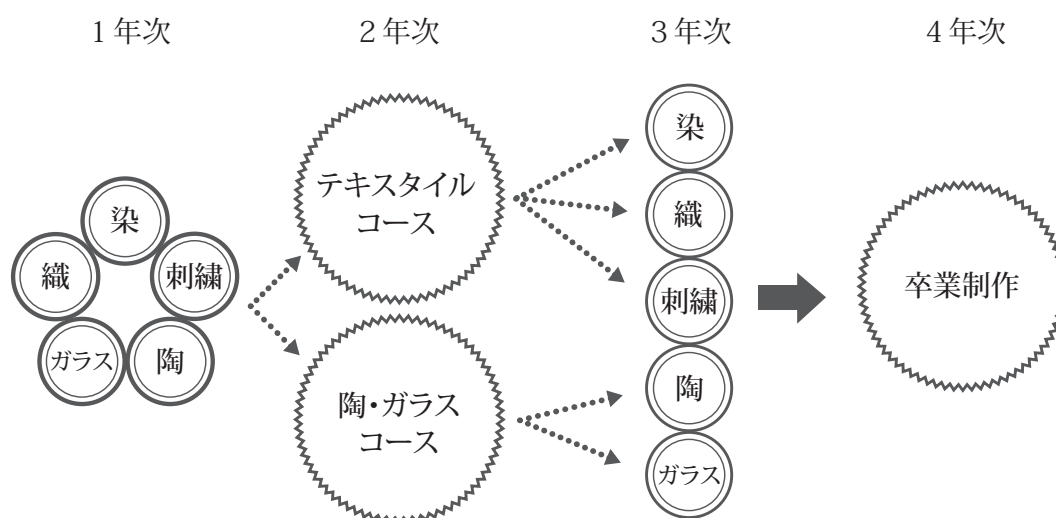
1年次では、まずそれぞれの分野で扱う素材に触れ、技法の基礎を学ぶことによって素材の特性を理解します。

2年次で「テキスタイルコース」または「陶・ガラスコース」のいずれかを選択し、専門的な知識と技術・制作方法を学び、素材への理解を深めます。

3年次からは、それぞれのコースでさらに染・織・刺繍・陶・ガラスの専門分野に分かれて学びます。時間をかけて知識と技術を積み上げていくことで幅広く、かつ深く創作活動を展開していきます。

さらに4年次で高い専門性を持った教員達が指導することで、完成度の高い卒業制作へと導きます。

段階的なカリキュラムと分野を超えて学ぶことができる体制により、自由で新しい表現活動を展開していきます。



●多彩な授業科目

デザイン・工芸学科工芸専攻では、伝統と先端、実習と知識のバランスを考慮した多彩な授業科目により、伝統工芸から現代アートまで、精神性を追求した美術から機能性を重視したデザインまで、自由な創作活動が可能となります。

また学外研修・工房見学・特別講師による講義・学外展等、新しい企画を加えて学生の創作意欲を刺激するとともに、社会との接点を見出していきます。

【必修または選択必修科目】

1年次：CG 演習、デザイン・工芸論、デザイン・工芸選択実技

2年次：工芸史、材料学

3年次：プレゼンテーション演習

【学科共通科目】

造形演習、現代造形論、空間演出論、文様史、テキスタイル表現論、伝統染織文化論、日本服装史など。

テキスタイルコース

染：型染め、注染、絞り染、シルクスクリーンなど、伝統から現代までの染色技法を学び、「布」のデザインの可能性を広げます。

織：絣などの伝統技術からテキスタイルアートまで、繊維素材を用いた自由な表現を展開します。

刺繍：伝統的な日本刺繍を基本にマシン刺繍や海外の刺繍などを学び、ステッチによる独創的な創作を目指します。

陶・ガラスコース

陶：粘土と釉（うわぐすり）などの素材を約800～1300度の高温で焼成することで造形表現を追究します。

ガラス：吹きガラスやキルンワークなどの技法を用いて、ガラスの特性を生かした新しいガラス造形を展開します。

教育目標

工芸専攻では、伝統工芸から現代アートまで、時代に即した創作への発想力と表現力を身につけ、専門的な知識や高い技術力を備え、幅広く新しい視点で工芸を捉えることができる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・1年次は染・織・刺繍・陶・ガラスの五分野の体験を通して、工芸素材の特性を理解する。
- ・2年次はテキスタイルコース、陶・ガラスコースに分かれ、専門的な技術・技法を習得し、素材への理解を深め、応用力・表現力を高める。
- ・3年次からは5つの分野に分かれ、専門性を高め、幅広く深い創作活動を展開していく。
- ・4年次はそれまでに習得した専門知識と技術を基に、独自の発想により集大成としての卒業作品を制作する。卒業作品は、公の場で発表し、その成果を社会に問う。

芸術学部 デザイン・工芸学科 工芸専攻 カリキュラム表

科目区分		1年次			2年次				
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態		
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義					
	グローバル								
	基礎力創造力								
	アートを生かす								
	語学力								
学科 専門科目	学科 共通科目	必修	* デザイン・工芸選択実技A * デザイン・工芸選択実技B デザイン・工芸論A デザイン・工芸論B	2 2 2 2	実技 実技 講義 講義				
		選択必修				工芸史A（染織） 工芸史B（陶ガラス）（注3）	2 2	講義 講義	
	選択		デザイン図法	2	講義	エコロジカルプランニング演習 ライティング演習 部 印刷概論 部 ヴィジュアルデザイン概論 部 プロダクトデザイン概論 部 環境デザイン概論	1 1 2 2 2 2	演習 演習 講義 講義 講義 講義	
			コンピュータプレゼン演習A コンピュータプレゼン演習B 色彩計画演習 素材演習A 素材演習B 素材演習C 素材演習D 素材演習E 素材演習F	2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	バリアフリー演習 マーケティング論 人間工学論 デザインと法 展示計画論 デザイン心理学 デザインサーベイ論 部 インテリアデザイン史 部 環境論	1 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
						映像表現演習A 映像表現演習B 写真演習 英語プレゼンテーション 建築材料学 建築生産 I 建築法規	2 2 2 2 2 1 1	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義	
			造形演習A 造形演習B 造形演習C 造形演習D	2 2 2 2	演習 演習 演習 演習	(履修年次指定なし 注5)			
		専攻・領域 専門科目	必修	* 工芸基礎（染） * 工芸基礎（織） * 工芸基礎（刺繍） * 工芸基礎（陶） * 工芸基礎（ガラス） * CG演習	2 2 2 2 2 2	実技 実技 実技 実技 実技 演習	▼テキスタイル(染・織・刺繍)コース * 染 I * 織 I * 刺繍 I 材料学A（繊維）	5 5 4 4	実技 実技 実技 講義
							▼陶・ガラスコース * 陶 I * ガラス I 材料学B（陶ガラス）	7 7 4	実技 実技 講義
		専攻・領域 専門科目	選択必修						
					0			0	

注1. 「グローバルな多様性社会に必要な知識を身に付ける」科目群のうち、外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の計2単位必修。
 注2. 「語学力を高め世界で活躍する」科目群のうち、英語系から2単位以上を必修とし、4単位以上を修得すること。
 注3. テキスタイルコースは「工芸史A（染織）」を、陶・ガラスコースは「工芸史B（陶ガラス）」を選択履修すること。
 注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、9単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
						8	30
						2	
			構造計画	2	講義	20 (注4)	
			建築設備	2	講義		
			建築生産Ⅱ	1	講義		
日本服装史	2	講義	(1~4年次)			20 (注4)	
文様史	2	講義					
伝統染織文化論	2	講義					
テキスタイル表現論	2	講義					
空間演出論	2	講義					
現代造形論	2	講義					
広告論	2	講義					
部 写真史	2	講義					
(2~4年次)						94	
(2~4年次)							
プレゼンテーション演習	2	演習	* 卒業制作	10	実技	42	
	2			10			
▼テキスタイル(染・織・刺繍)コース			▼テキスタイル(染・織・刺繍)コース			64	
* 染ⅡA	7	実技 実技 実技 実技 実技 実技	* 染Ⅲ	8	} 8 実技 実技 実技	22	
* 染ⅡB	7		* 織Ⅲ	8			
* 織ⅡA	7		* 刺繍Ⅲ	8			
* 織ⅡB	7						
* 刺繍ⅡA	7						
* 刺繍ⅡB	7						
	14			8			
▼陶・ガラスコース			▼陶・ガラスコース				
* 陶ⅡA	7	実技 実技 実技 実技	* 陶Ⅲ	8	} 8 実技 実技		
* 陶ⅡB	7		* ガラスⅢ	8			
* ガラスⅡA	7						
* ガラスⅡB	7						
	14			8			
				合計		124	

注5. テキスタイルコースは「造形演習A・B」を2年次、陶・ガラスコースは「造形演習C・D」を2年次に履修することが望ましい。*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

芸術学部 デザイン・工芸学科 工芸専攻 カリキュラム表

科目区分		1年次			2年次				
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態		
学部 共通科目	A群								
	B群								
	C群								
	D群								
	E群	必 基礎学習ゼミ	2	講義					
学部 専門科目	学科 共通科目	必 修	* デザイン・工芸選択実技A	2	実技				
			* デザイン・工芸選択実技B	2	実技				
			デザイン・工芸論A	2	講義				
			デザイン・工芸論B	2	講義				
		8							
	選 択 必 修	選 択 必 修				工芸史A（染織）	2	} 2 講義 (注2)	
						工芸史B（陶ガラス）	2		
								2	
			デザイン図法	2	講義	エコロジカルプランニング演習	1	演習	
						ライティング演習	1	演習	
					印刷概論	2	講義		
選 択	選 択				ヴィジュアルデザイン概論	2	講義		
					プロダクトデザイン概論	2	講義		
					環境デザイン概論	2	講義		
		コンピュータプレゼン演習A	2	演習	バリアフリー演習	1	演習		
		コンピュータプレゼン演習B	2	演習	マーケティング論	2	講義		
		色彩計画演習	2	演習	人間工学論	2	講義		
		素材演習A	2	演習	デザインと法	2	講義		
		素材演習B	2	演習	展示計画論	2	講義		
		素材演習C	2	演習	デザイン心理学	2	講義		
		素材演習D	2	演習	デザインサーベイ論	2	講義		
素材演習E	2	演習	インテリアデザイン史	2	講義				
素材演習F	2	演習	環境論	2	講義				
必 修	必 修				映像表現演習A	2	演習		
					映像表現演習B	2	演習		
					写真演習	2	演習		
					英語プレゼンテーション	2	演習		
					建築材料学	2	講義		
					建築生産 I	1	講義		
			建築法規	1	講義				
選 択 必 修	選 択 必 修								
専攻・領域 専門科目	必 修	* 工芸基礎（染）	2	実技	▼テキストスタイル(染・織・刺繍)コース				
		* 工芸基礎（織）	2	実技		* 染 I	5	実技	
		* 工芸基礎（刺繍）	2	実技	* 織 I	5	実技		
		* 工芸基礎（陶）	2	実技	* 刺繍 I	4	実技		
		* 工芸基礎（ガラス）	2	実技	* 材料学A（繊維）	4	講義		
		* CG演習	2	演習		18			
			12		▼陶・ガラスコース				
					* 陶 I	7	実技		
					* ガラス I	7	実技		
					* 材料学B（陶ガラス）	4	講義		
						18			
選 択 必 修	選 択 必 修								

注1. B群の「外国語コミュニケーション」から2単位を選択必修とし、4単位以上を修得すること。
外国人留学生は「日本語Ⅰ」2単位、「日本語Ⅱ」2単位の計4単位必修。

注2. テキスタイルコースは「工芸史A（染織）」を、陶・ガラスコースは「工芸史B（陶ガラス）」を選択履修すること。
2単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、10単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

注4. テキスタイルコースは「造形演習A・B」を2年次、陶・ガラスコースは「造形演習C・D」を2年次に履修することが望ましい。

アート・デザイン表現学科

1. 教育内容

アート・デザイン表現学科では、女性の感性を生かし、アートとデザインの領域を横断、融合して、クリエイティブな発想力と独創的な表現力を培うことを教育の目標としています。時代の変化に柔軟に対応できる深い知識と斬新な感性を育み、コミュニケーション能力に長け、国際社会の幅広い分野で創造的に活躍できる人材を育成します。芸術表現や造形表現に関する知識と基本的な技能や技法を習得するとともに、人間生活や人間環境に関する基礎的な知識の理解、創造性や独自性のあるビジュアル表現力、芸術関連分野における人間と社会を結ぶ実践的な企画力や管理・運営能力、共同制作能力を、都心のメリットを最大限に生かしながら養成します。

2. カリキュラム編成の特徴

学科共通科目は、アートとデザインに関する基礎を学ぶ科目群であり、各領域を学ぶための導入科目として、「アート・デザイン表現基礎演習 A・B・C・D」、「宇宙・人間・アート」、「アート表現論」を必修科目として配置するとともに、各領域に対する基本的な理解を深めるための科目として、「アート・デザイン表現演習 I」、「アート・デザイン表現演習 II」を必修科目としています。

アート・デザイン表現学科のカリキュラムの大きな特徴として、学科共通科目を1年次から3年次に渡って実施します。まず1年次では、領域に分かれ専門教育に入る前に、アートとデザインに関する基礎を学びます。2年次では、コミュニケーションを重視した学科全体で実施する演習科目、3年次では、他領域の専門科目を学ぶことができる演習科目があります。カリキュラムの上でもコミュニケーションとコラボレーションを重視した編成になっています。

教育目標

アート・デザイン表現学科は、ヒューマンティリーの視点からアートとデザインを捉え、双方の領域を横断・融合した活動を通して、斬新な感性とクリエイティブな発想、独創的な表現力を養い、時代の変化に柔軟に対応できる深い知識、コミュニケーション能力を持った、国際社会の幅広い分野で創造的に活躍できる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、各領域のカリキュラムと学科共通科目を通して、アートとデザインに関する基礎を学ぶとともに、コミュニケーションとコラボレーションをキーワードとし、専門領域での表現に反映できるカリキュラムを編成する。

1. 教育内容

メディア表現領域では、時代を敏感に感じ、社会の様々な変化に柔軟に対応でき、創造的で表現力のある人材を育成していきます。物語性のあるアニメーション、キャラクターデザイン、ゲームなどのコンテンツ作りや映像制作、スクリーンベースの広告デザイン、アートアニメーション、先端テクノロジーを用いたインタラクティブな作品制作を通して多様なメディア表現力を身につけていきます。企業や研究所と連携した現実のプロジェクトでの実践的な経験を通して社会で求められるクリエイティビティを理解し、国際社会の中でグローバルに活躍できるメディアクリエイターとして次世代のアートとデザインをリードできる斬新な発想と感性を持った表現者を養成することを目標としています。

2. カリキュラム編成の特徴

メディア表現領域では、アートとデザインの基礎を重視した上で、先端的なメディア・テクノロジーを前提とした教育を行うと共に、メディアデザインとメディアアートに必要な専門科目でカリキュラムを構成しています。

1年次では、アート・デザイン表現学科共通科目「アート・デザイン表現基礎演習A・B・C・D」によって絵画や立体、デザインや工芸を学び、「コミュニケーションデザイン演習A」でWebデザイン、「コミュニケーションデザイン演習B」で紙を媒体としたグラフィックデザイン、「映像基礎演習」で実写を中心とした映像の基本を身に付け、「空間基礎演習」で空間のスケール感を理解することによってメディア表現の基礎を習得します。

2年次以降は、ストーリーを重視したアニメーションやサウンドデザイン、キャラクターデザイン、グラフィックデザイン、Web制作、インタラクティブ表現の基礎を理解し、マネジメント、プロデュース、演出などの理論を学びます。また、プロジェクトを通してコラボレーションの方法プレゼンテーションの手法を身につけると同時に、実社会で必要なデジタル知的財産の問題やコンテンツプロデュースやメディアマネージメントなどについても考えていきます。メディア表現を理論と実践から学び、発想を重視したメディアデザインの企画や表現、独創的なメディアアート作品制作など各自のオリジナルな表現を追究し、卒業制作で集大成します。

教育目標

メディア表現領域では、人間の五感を理解し、人間生活の原点を考え、グローバルに変わり続けるメディア環境の中で適切な情報・表現を選び使う能力を養い、様々な表現への挑戦と時代や社会の状況に対応できるクリエイティブな人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次は、コミュニケーションデザイン、実写を中心とした映像、スケール感を理解する空間などメディア表現の基礎を習得する。
- ・ 2年次は、ストーリーを重視したアニメーション、サウンドデザイン、キャラクターデザイン、Webなどの広告デザイン、インタラクティブ表現など多様なメディア表現を理解し身につける。
- ・ 3年次は、各自の将来を展望し、メディアデザイン、メディアアート表現を深く追究する。また、実社会とのプロジェクトを通してクリエイティブな提案を行うことで、コラボレーション手法を身につけ、コミュニケーション能力を高める。
- ・ 4年次は、発想を重視したメディアデザインの企画や表現、独創的なメディアアート作品制作など各自のオリジナル表現を追究する。ゼミに分かれて、各自が設定したテーマに最適な表現手法を選択・融合して卒業制作を行う。

芸術学部 アート・デザイン表現学科 メディア表現領域 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次		
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義			
	グローバル						
	基礎力創造力						
	アートを生かす						
	語学力						
学科共通科目	必修	* アート・デザイン表現基礎演習A * アート・デザイン表現基礎演習B * アート・デザイン表現基礎演習C * アート・デザイン表現基礎演習D 宇宙・人間・アート アート表現論 メディア概論	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義	* アート・デザイン表現演習 I	2	演習
			14			2	
	選択必修				メディアアート概論 演出概論 メディアコミュニケーション論 キャラクター文化論 国際交流文化概論A 国際交流文化概論B	2 2 2 2 2 2	8 (注3) 講義
						8	
学科専門科目	選択	ヒーリング・デザイン概論 癒しの文化論 ファッションデザイン史 ファッション&テキスタイル概論 ミュージアムスタディ概論 アートプロデュース概論	2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義	(1～4年次)		
					カラーセラピー概論 絵本芸術論 子どもの福祉デザイン概論 伝統・先端 ファッション文化論 子ども発達論 現代文化概論 映像文化概論 ファシリテーションデザイン概論 プレゼンテーション技法論	2 2 2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
専攻・領域 専門科目	必修	* コミュニケーションデザイン演習A * コミュニケーションデザイン演習B * 映像基礎演習 * 空間基礎演習	2 2 2 2	演習 演習 演習 演習	* メディアアート演習 I * メディアデザイン演習 I * メディア空間演習 * アートアニメーション演習 * サウンドデザイン演習 * ストーリー表現演習 * キャラクターデザイン演習	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習
	選択必修		8			14	

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 8単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 4単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注5. 指定単位数を超過して修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、4単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ デジタル知的財産概論	2 2	演習 講義				20	40
	4						
メディア文化論特講 メディアマネジメント論 コンテンツプロデュース論	2 2 2	} 4 講義 (注4)				12	
	4						
(2～4年次)						8 (注5)	94
芸術療法概論 空間デザイン概論 アンケート調査・分析法 生態学 心とアートの心理学	2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義	(3～4年次)				54
* メディアクリエイション演習 * プロジェクト&コラボレーション演習	5 4	演習 演習	* メディアクリエイション実習 * 卒業制作	7 10	実技 実技	48	
	9			17			
* メディアアート演習ⅡA * メディアアート演習ⅡB * メディアデザイン演習ⅡA * メディアデザイン演習ⅡB	6 6 6 6	} 6 演習				6	
	6						
合 計						124	

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

芸術学部 アート・デザイン表現学科 メディア表現領域 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次				
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態		
学部 共通科目	A群								
	B群								
	C群								
	D群								
	E群	必 基礎学習ゼミ	2	講義					
学科 専門科目	学科 共通科目	必 修	* アート・デザイン表現基礎演習A	2	演習	* アート・デザイン表現演習 I	2	演習	
			* アート・デザイン表現基礎演習B	2	演習				
	選 択 必 修	* アート・デザイン表現基礎演習C	2	演習					
		* アート・デザイン表現基礎演習D	2	演習					
		宇宙・人間・アート	2	講義					
アート表現論	2	講義							
メディア概論	2	講義							
			14				2		
						メディアアート概論	2	} 8 講義 (注2)	
						演出概論	2		
						メディアコミュニケーション論	2		
						キャラクター文化論	2		
						国際交流文化概論A	2		
						国際交流文化概論B	2	8	
	選 択	ヒーリング・デザイン概論	2	講義	(1～4年次)	カラーセラピー概論	2	講義	
		癒しの文化論	2	講義		絵本芸術論	2	講義	
	ファッションデザイン史	2	講義	子どもの福祉デザイン概論		2	講義		
	ファッション&テキスタイル概論	2	講義	伝統・先端		2	講義		
	ミュージアムスタディ概論	2	講義	ファッション文化論		2	講義		
	アートプロデュース概論	2	講義	子ども発達論		2	講義		
						現代文化概論	2	講義	
						映像文化概論	2	講義	
						ファシリテーションデザイン概論	2	講義	
						プレゼンテーション技法論	2	講義	
専攻・領域 専門科目	必 修	* コミュニケーションデザイン演習A	2	演習	* メディアアート演習 I	2	演習		
		* コミュニケーションデザイン演習B	2	演習	* メディアデザイン演習 I	2	演習		
		* 映像基礎演習	2	演習	* メディア空間演習	2	演習		
		* 空間基礎演習	2	演習	* アートアニメーション演習	2	演習		
					* サウンドデザイン演習	2	演習		
					* ストーリー表現演習	2	演習		
					* キャラクターデザイン演習	2	演習		
			8				14		
	選 択 必 修								

注1. B群の「外国語コミュニケーション」から2単位を選択必修とし、4単位以上を修得すること。
外国人留学生は「日本語Ⅰ」2単位、「日本語Ⅱ」2単位の計4単位必修。
注2. 8単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
注3. 4単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
注4. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、4単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						6	30
						4 (注1)	
						2	
						12	
						4	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ デジタル知的財産概論	2 2	演習 講義				20	40
	4						
メディア文化論特講 メディアマネジメント論 コンテンツプロデュース論	2 2 2	} 4 講義 (注3)				12	94
	4						
(2～4年次)						8 (注4)	
(3～4年次)							
芸術療法概論 空間デザイン概論 アンケート調査・分析法 生態学 心とアートの心理学	2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義					
* メディアクリエイション演習 * プロジェクト&コラボレーション演習	5 4	演習 演習	* メディアクリエイション実習 * 卒業制作	7 10	実技 実技	48	54
	9			17			
* メディアアート演習ⅡA * メディアアート演習ⅡB * メディアデザイン演習ⅡA * メディアデザイン演習ⅡB	6 6 6 6	} 6 演習				6	
	6						
合計						124	

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。
履修方法については研究室の指示に従うこと。

1. 教育内容

「現代社会が何故、ヒーリングを求めているのか」、「現代人にとってヒーリングとは何か」ということを、アートとデザインそれぞれの視点で捉え、実技による創作と理論の両面から探求します。

今、私たちの生活の中で「癒し」という言葉が頻繁に使われています。それは見方を変えれば、ストレスが溜まりやすい社会状況が、深刻化している表れであるといえるでしょう。心地よい空間、潤いのある空間で生活を営むこと、リラックスできる環境をつくることは、私たちの生活において精神の安らぎを得るために不可欠な要素であり、そこにはアートやデザインの存在が大切な役割を果たしています。

ヒーリング表現領域では、現代のストレス社会で求められている「ヒーリング」をテーマに、キャラクターデザイン、絵本創作、絵画、壁画、コンピュータグラフィック、ぬいぐるみ、玩具・遊具のデザイン、ユニバーサルアートなどの作品制作や空間デザイン、アート・アクティビティのワークショップ、社会と連携した実践的なプロジェクトの体験を通して、アートとデザインが社会とどの様に関わり、そして役立てることが出来るのかを考えます。また、医療機関、介護福祉施設、そのほかの様々な公共機関、企業などとのコラボレーションにより、共同研究と共同開発も積極的に進めていきます。

そして、ソーシャル・インクルージョンの考えを踏まえ、ヒーリングや福祉を目的としながら、各自の得意な表現を活かして質の高い作品づくりが出来る人材と、公共空間でのヒーリング・アート、ヒーリング・デザインのコーディネイトが出来る企画力を持った人材を育成し、社会への進出をはかることを教育目標とします。

2. カリキュラム編成の特徴

1年次

前期では、アート・デザイン表現学科共通の基礎実技として、コンピュータグラフィックス、絵画、工芸、立体の基礎表現を学びます。後期では、壁画技法を主とした平面表現、木工を主とした立体素材の表現、キャラクターデザインの基礎を徹底して学びます。またワークショップから、ソーシャル・インクルージョンの考えを学ぶと同時に、コミュニケーション能力と問題解決の手法を習得します。

また、アート・デザイン表現の根源となる観察描写を通年で行います。

2年次

空間デザイン、コンピュータグラフィックスによるグラフィックデザイン、壁画制作の実践、絵本創作の基礎、装丁技法の実習から創作表現の基本を身につけていくと同時に、ヒーリングについて各自が独自の視点とテーマを持って考えていきます。

3年次

学外の様々なプロジェクトやワークショップに実際に取り組むことにより、社会との連携を実践的に学びます。グラフィック表現（キャラクターデザイン、絵本創作、壁画制作）と立体表現（パッケージデザイン、玩具のデザイン、ぬいぐるみ）の実技を選択し、そこから専門性を深めていきます。

4年次

前期では、グラフィック表現と立体・空間表現、ユニバーサルデザイン、ユニバーサルアート、アート・アクティビティをベースとした専門実技を各自選択し、卒業制作の方向性を定めていきます。後期では、ゼミ形式による卒業制作に組み、4年間の学びの集大成として、独自のテーマに基づく研究成果の発表を行います。

※実技授業に加え、理論と知識を深めるため、ヒーリング表現領域の専門科目として、実技と関連した特色ある講義を開設します。

1年次は、「ヒーリング・デザイン概論」、「癒しの文化論」

2年次は、「キャラクター文化論」、「カラーセラピー概論」、「絵本芸術論」、「子どもの福祉デザイン概論」

3年次は、「芸術療法概論」、「空間デザイン概論」、「アンケート調査・分析法」など実技内容と関連した、専門性を深める講義を開設します。

このような授業体系を通じて、日常生活、社会生活の中で、人々が『癒し』を求める現代社会にあって、アートとデザインは何ができるのか？それを作品制作と理論研究から探っていきます。

教育目標

ヒーリング表現領域では、ヒーリングや福祉を目的としながら、専門的な理論、知識と技術、独自の発想力と創造力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけ、各自の得意な表現を活かして質の高い作品づくりができる人材、公共空間でのヒーリング・アート、ヒーリング・デザインのコーディネイトができる企画力を持った人材、アートアクティビティの実践能力を身につけた人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・1年次では、平面素材・立体素材の表現、キャラクター表現の基礎を徹底して学び、またアート・アクティビティのワークショップを通して、ソーシャル・インクルージョンの考えを学ぶと同時に、コミュニケーション能力と問題解決の手法を習得する。
- ・2年次は、空間デザイン、コンピュータグラフィックス、壁画制作技法、絵本創作の基礎、装丁技法の実習から創作表現の基本を身につけていくと同時に、ヒーリングについて各自が独自の視点とテーマを持って学習を進める。
- ・3年次は、学外の様々なプロジェクトに実際に取り組むことにより、社会との連携を実践的に学ぶ。グラフィック表現（キャラクターデザイン、絵本創作、壁画制作）と立体表現（形態表現、子供の道具、おもちゃのデザイン、ぬいぐるみ）の実技を選択し、そこから専門性を深めていく。
- ・4年次は、グラフィック表現と立体・空間表現、ユニバーサルデザイン、ユニバーサルアート、アート・アクティビティをベースとした専門実技を各自選択し、プレゼンテーション能力を高めるための発表会を重ね、自己の専門性を高め、研究を追求する。ゼミ形式による卒業制作に組み、4年間の学びの集大成として、独自のテーマに基づく研究成果の発表を行う。

芸術学部 アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域 カリキュラム表

科目区分		1年次			2年次				
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態		
学部 共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義					
	グローバル								
	基礎力創造力								
	アートを生かす								
	語学力								
学科 専門科目	学科 共通科目	必修	* アート・デザイン表現基礎演習A * アート・デザイン表現基礎演習B * アート・デザイン表現基礎演習C * アート・デザイン表現基礎演習D 宇宙・人間・アート アート表現論 ヒーリング・デザイン概論 癒しの文化論	2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義 講義	* アート・デザイン表現演習 I キャラクター文化論 カラーセラピー概論	2 2 2	演習 講義 講義	
		選択必修			絵本芸術論 子どもの福祉デザイン概論	2 2	2 2	講義 講義	
	選択		メディア概論 ファッションデザイン史 ファッション&テキスタイル概論 ミュージアムスタディ概論 アートプロデュース概論	2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義	(1～4年次)			
					メディアアート概論 演出概論 メディアコミュニケーション論 ファッション文化論 子ども発達論 現代文化概論 映像文化概論 ファシリテーションデザイン概論 プレゼンテーション技法論	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
	専攻・領域 専門科目	必修	* 素材表現演習A * 素材表現演習B * キャラクター制作基礎演習 * ワークショップ演習	2 2 2 3	演習 演習 演習 演習	* ヒーリング・デザイン実習A * ヒーリング・デザイン実習B * 絵本制作基礎演習 * 装丁技法演習 * 壁画技法演習 * コンピュータグラフィックス演習	2 2 3 1 4 1	実技 実技 演習 演習 演習 演習	
選択必修									

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 2単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注4. 2単位以上修得の場合は学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 注5. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、4単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

必…学部共通科目の必修科目
 選…学部共通科目の選択必修科目
 部…学科共通科目とする学部共通科目

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ	2	演習				28	40
芸術療法概論	2	講義					
空間デザイン概論	2	講義					
	6					4	
(2～4年次)							94
メディア文化論特講	2	講義	(3～4年次)			39	54
デジタル知的財産概論	2	講義					
メディアマネジメント論	2	講義					
コンテンツプロデュース論	2	講義					
アンケート調査・分析法	2	講義					
生態学	2	講義					
心とアートの心理学	2	講義					
* ヒーリング・アートプロジェクト演習	3	演習	* 卒業制作	10	実技		
* プロジェクト&コラボレーション演習	4	演習					
	7			10			
* キャラクター制作演習	3	}3 演習	* ヒーリング・クリエイションA	3	}3 実技	15	
* 形態表現演習	3		* ヒーリング・クリエイションB	3			
* 絵本制作演習	3		* ヒーリング・クリエイションC	3			
* 子どもの道具デザイン演習A	3	* ヒーリング・クリエイションD	3				
* 壁画制作演習	3	}3 演習					
* 子どもの道具デザイン演習B	3						
	9			6			
合 計						124	

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						6	30
						4 (注1)	
						2	
						12	
						4	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ	2	演習				28	40
芸術療法概論	2	講義					
空間デザイン概論	2	講義					
	6					4	
(2～4年次)			(3～4年次)				8 (注4)
メディア文化論特講	2	講義				39	54
デジタル知的財産概論	2	講義					
メディアマネジメント論	2	講義					
コンテンツプロデュース論	2	講義					
アンケート調査・分析法	2	講義					
生態学	2	講義					
心とアートの心理学	2	講義					
* ヒーリング・アートプロジェクト演習	3	演習	* 卒業制作	10	実技		
* プロジェクト&コラボレーション演習	4	演習					
	7			10			
* キャラクター制作演習	3	}3 演習	* ヒーリング・クリエイションA	3	}3 実技	15	
* 形態表現演習	3		* ヒーリング・クリエイションB	3			
* 絵本制作演習	3		* ヒーリング・クリエイションC	3			
* 子どもの道具デザイン演習A	3	}3 演習	* ヒーリング・クリエイションD	3			
* 壁画制作演習	3						
* 子どもの道具デザイン演習B	3						
	9			6			
				合 計		124	

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。
履修方法については研究室の指示に従うこと。

1. 教育内容

ファッションテキスタイル領域では、社会に求められる衣服と素材、ファッションとテキスタイルの知識や技術を学ぶとともに、女性の視点を生かしたデザインやアート活動および制作を行います。また、住、空間、ことばと文字、伝統と先端、哲学、心理学、生態学などの、知識と技術、理論と体験の学びを通して、考える力、生きる力を養うとともに、独自の視点に立って研究する自発性を促し、次世代を担う人材育成を目指します。女子美術大学は、1900年の創立以来一貫して衣服教育を行い、確固とした技術を伝えてきました。表現手段や形態は変わっても、社会との繋がりを重視した教育は今も受け継がれています。

アートとデザインは、人の心を豊かにするもの、幸せに生きるためのものと捉え、アートの持つ「人を幸せにする力」を衣服やテキスタイルで表現し、伝えます。また、本領域では、アートの思考をデザインで表現するトレーニングを行います。

東京都心にある利便性を生かし、地域や施設、産官学が連携してプロジェクト活動を行うとともに、共同研究、共同開発へと繋げ、企業や教育施設や地域施設へのユニフォームの提供など積極的に進めています。

2. カリキュラム編成の特徴

[1年次] 基礎課程（アート&デザインを学ぶ）

素材からデザイン・制作までの一連のクリエーションを学びます。植物や食材から染める技法を習得し、テキスタイルデザインから制作までを行います。更に、染めた布を用いてスカート・シャツの設計・製図を学び、衣服制作へとつなげます。

[2年次] 基礎課程（アート&デザインを学ぶ）

作品の企画立案を行い、空間と衣服の関係を深めます。テキスタイルデザインでは、シルクスクリーンや、ウール素材の縮絨等の技法を習得します。ファッションデザインではテキスタイルデザインで習得した技術を生かし、ワンピース・ジャケット制作、バッグ等の小物やアクセサリ制作を行い、パフォーマンスなどを取り入れた効果的な演出による作品発表を行います。

[3年次] 応用課程：専門領域を選ぶ

（各自が将来に生かす領域「アート」か「デザイン」を選び学ぶ）

ファッション+テキスタイルの応用演習・実習を行うことにより、より高度な表現技術を習得し、各自の専門性を深めます。アート・デザインクラス共通の「場を着る」とは何かというテーマを追求します。アートクラスは、考察とコンセプト立案、作品制作を通して、衣服造形活動について学び、デザインクラスは、「場と衣服」の関係を明らかにし、販売につながる製品としての作品を制作します。

[4年次] 応用課程、卒業制作

アートとデザインのそれぞれの視点から、各自が志向する研究領域をベースとしたプロジェクトを実践しながら、コンセプトから企画立案し、効果的な作品発表をするための演出・構成なども学びます。アートクラスは、ギャラリーやアートに関わる施設、地域社会とのコミュニケーションやエデュケーションを通して、各自制作テーマを考察しながら思考を重ね制作活動を行います。デザインクラスは、市場調査から作品企画の立案とプレゼンテーションを行い、作品制作へと繋がります。後期は4年間の集大成として独自性あるアートとデザイン作品の制作を行い、ショー、パフォーマンス、展示空間を効果的に演出し、発表します。

教育目標

ファッションテキスタイル表現領域では、企画から制作、効果的なプレゼンテーションができる力を養い、企業との連携や、人と触れ合うフィールドワークなどの体験を通して、実社会の中でアートとデザインが果たす役割や価値を学ぶことを通して、女性の感性を生かしたアートとデザインを追求するプロフェッショナルな人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次は、「食と衣」をテーマに、衣服表現に必要な天然の繊維と染料による素材制作や衣服制作の基礎知識と技術を学ぶ。
- ・ 2年次は、ファッションテキスタイルとしての専門領域の基礎知識と技術を習得する。「場と衣」「住・空間と衣」をテーマに身体・衣服との関係を追及し作品制作を行う。また、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高め、効果的な演出・構成を目指した発表を行う。
- ・ 3年次は、ファッション+テキスタイルの応用の演習および実習を行うことにより、考える力を引き出すとともに、高度な表現技術を習得し、各自のテーマの専門性を深めていく。地域社会、医療関連施設、企業等のコラボレーションやプロジェクトに参加し、社会との実践的な活動を行う。
- ・ 4年次は、各自の専門性、可能性を追求した作品制作及び企業や外部とのコラボレーションやプロジェクト、ワークショップの活動に取り組み、4年間の集大成として研究成果の発表を行う。

芸術学部 アート・デザイン表現学科 ファッションテキスタイル表現領域 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次			
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態	
学部 共通 科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義				
	グローバル							
	基礎力創造力							
	アートを生かす							
	語学力							
学科 専門 科目	必修	* アート・デザイン表現基礎演習A * アート・デザイン表現基礎演習B * アート・デザイン表現基礎演習C * アート・デザイン表現基礎演習D 宇宙・人間・アート アート表現論 ファッションデザイン史 ファッション&テキスタイル概論	2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義 講義	* アート・デザイン表現演習 I 伝統・先端 ファッション文化論 必 子ども発達論	2 2 2 2	演習 講義 講義 講義	
		選択必修			国際交流文化概論A 国際交流文化概論B	2 2	講義 講義	
	選択	メディア概論 ヒーリング・デザイン概論 癒しの文化論 ミュージアムスタディ概論 アートプロデュース概論	2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義	(1～4年次)			
					メディアアート概論 演出概論 メディアコミュニケーション論 キャラクター文化論 カラーセラピー概論 絵本芸術論 子どもの福祉デザイン概論 現代文化概論 映像文化概論 ファシリテーションデザイン概論 プレゼンテーション技法論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	
専攻・領域 専門科目	必修	* 造形基礎演習 * 素材基礎演習	5 5	演習 演習	* ファッション演習A * ファッション演習B * テキスタイル演習A * テキスタイル演習B * 感覚発達演習 * 子ども発達演習 * コンピュータデザイン演習	3 3 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	
			10				16	

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。

注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。

注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、3単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

* 印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目
選…学部共通科目の選択必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ 生態学 心とアートの心理学	2 2 2	演習 講義 講義				30	38
	6					2	
(2～4年次)						6 (注3)	94
メディア文化論特講 デジタル知的財産概論 メディアマネジメント論 コンテンツプロデュース論 芸術療法概論 空間デザイン概論 アンケート調査・分析法	2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義	(3～4年次)				56
* ファッションテキスタイルⅠA * ファッションテキスタイルⅠB * アートディレクション演習	4 5 2	実技 実技 演習	* ファッションテキスタイルⅡ * 着物文化演習 * 卒業制作 身体衣服論	5 2 10 2	実技 演習 実技 講義	56	
	11			19		56	
合 計						124	

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						6	30
						4 (注1)	
						2	
						12	
						4	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ 生態学 心とアートの心理学	2 2 2	演習 講義 講義				30	38
	6					2	
(2～4年次)						6 (注2)	94
メディア文化論特講	2	講義	(3～4年次)				56
デジタル知的財産概論	2	講義					
メディアマネジメント論	2	講義					
コンテンツプロデュース論	2	講義					
芸術療法概論	2	講義					
空間デザイン概論	2	講義					
アンケート調査・分析法	2	講義				56	
* ファッションテキスタイルⅠA	4	実技	* ファッションテキスタイルⅡ	5	実技		
* ファッションテキスタイルⅠB	5	実技	* 着物文化演習	2	演習		
* アートディレクション演習	2	演習	* 卒業制作 身体衣服論	10 2	実技 講義		
	11			19		合計	124

1. 教育内容

アートとは、アーティストが「作品」を作るだけでなく、それを受け止める「観客」がいて、はじめてその素晴らしさが姿を表す世界です。アートプロデュース表現領域では、アーティストが生み出す優れた作品を広く世界に発信し、人間の幸福につながる、アートによる「社会貢献」の可能性を、理論と実践を通して追求していきます。

そのため、美術を中心に、音楽、演劇、映像など、さまざまな領域のジャンルについて「アーティスト」の立場でその表現技法を身につけるとともに、「観客」の立場に立ち、さまざまな表現を通じた発信、コミュにケーションの手法を学び、それらを立体的につなげ社会に開いていく技術を、実践を通して学びます。

例えば、美術作品を作ったり、見るのが好きで、同じように音楽を聴くことが好きな人は、どうしたらその2つの表現を結びつけ、さらに大きな喜び、驚きに変えていくのかを考える。子どもが好きな人ならば、子どもたちが毎日遊びに行きたくなるような美術館はどのようなものかを考える。日本独自の文化を、広く世界の人々と分かち合うためのプロジェクトを考える。そうした自由な発想を大切にしながら、総合力のあるアートプロデューサー、キュレーター、ファシリテーターとしての基礎を体得することを目指します。

2. カリキュラム編成の特徴

[1年次]

前期では、アート・デザイン表現学科共通の基礎実技として、コンピュータグラフィック、絵画、工芸、立体の基礎表現を学びます。後期では、空間表現、映像表現、Webデザインなど、プロデュースの発想力を支えるための表現技術を習得します。

[2年次]

美術、音楽、演劇、映像のアートプロデュースに関わる基礎的演習を行います。中でも、美術を通じた教育の場づくりについて、また、美術館以外のアートプロジェクトなど、今日的なアートへの社会的ニーズに呼応するための実践的なマネジメントの基礎を習得します。また、国際文化を学び、持続可能な多様性を尊重する意識を持つための授業など、幅広い学びの場を設けます。

[3年次]

2年時に学んだ理論と実践をさらに深めます。特に、美術館、アートフェスティバル等におけるキュレーション、展示技術を学ぶ演習科目など、将来のキャリア形成を視野に入れた実践的な授業を実施します。

[4年次]

前期では、3年次までに学んだ理論と実践を踏まえ、4年生全員で取り組む総合的なアートプロジェクトの企画・実施を行います。後期では、ゼミ形式による卒業制作・研究に取り組みます。一人一人の学びの集大成として、自身で設定した個別のテーマ、目標に基づいた作品制作、あるいはプロジェクト研究等の成果を、展覧会形式で発表します。

教育目標

アートプロデュース表現領域では、女性の視点に立ち、展覧会を中心に音楽、演劇、映像などに関わる、様々なアートプロデュースの基礎を学び、アートを通して、社会と人間をつなぐことを喜びとする社会貢献について理解を深め、複雑化・国際化する社会に対応できるアートプロデューサー、コーディネーター、ファシリテーターとなる人材の育成を教育目標とする。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標に到達すべく、以下のカリキュラムを編成する。

- ・ 1年次は、美術に関する基本的知識・技術、アートプロデュースの基礎を学ぶ。
- ・ 2年次は、美術を中心に、音楽、演劇、映像に関わる基礎理論と実技を学び、あわせて様々な国の在日大使館とのコラボレーションとして、国際文化交流の演習を行い、国際的な視点に立ったアートプロデュースを学ぶ。
- ・ 3年次は、より専門性を深めながら、美術、音楽、演劇、映像を統合したイベントの企画立案し、社会貢献としてのアートプロデュースを学ぶ。
- ・ 4年次は、前期に3年次に企画した総合イベントを広く社会に発表し、後期は4年間の集大成として、卒業研究（制作）を行う。

芸術学部 アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現領域 カリキュラム表

科目区分		1年次			2年次		
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養	2 2	講義 講義			
	グローバル						
	基礎力創造力						
	アートを生かす						
	語学力						
学科専門科目	必修	* アート・デザイン表現基礎演習A * アート・デザイン表現基礎演習B * アート・デザイン表現基礎演習C * アート・デザイン表現基礎演習D 宇宙・人間・アート アート表現論 ミュージアムスタディ概論 アートプロデュース概論	2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 講義 講義 講義 講義	* アート・デザイン表現演習 I 国際交流文化概論A 国際交流文化概論B * 現代文化概論 * 映像文化概論	2 2 2 2 2	演習 講義 講義 講義 講義
		メディア概論 ヒーリング・デザイン概論 癒しの文化論 ファッションデザイン史 ファッション&テキスタイル概論	2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義	(1～4年次)		
	選択				メディアアート概論 演出概論 メディアコミュニケーション論 キャラクター文化論 カラーセラピー概論 絵本芸術論 子どもの福祉デザイン概論 伝統・先端 ファッション文化論 子ども発達論 ファシリテーションデザイン概論 プレゼンテーション技法論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
専攻・領域 専門科目	必修	* コミュニケーションデザイン演習A * コミュニケーションデザイン演習B * 映像基礎演習 * 空間基礎演習	2 2 2 2	演習 演習 演習 演習	* アートプロデュース演習 I * アートマネジメント演習 I * ミュージアムスタディ演習 I * ミュージアム・エデュケーション演習 I * 音楽プロデュース演習 I * 舞台芸術プロデュース演習 I * アートコミュニケーション演習	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習
			8			14	

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。
 注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。
 注3. 指定単位数を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は、7単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。
 *印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯（実技時間帯）に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

必…学部共通科目の必修科目

選…学部共通科目の選択必修科目

部…学科共通科目とする学部共通科目

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ	2	演習				28	42
	2						
(2～4年次)						14 (注3)	94
(3～4年次)							
メディア文化論特講	2	講義					
デジタル知的財産概論	2	講義					
メディアマネジメント論	2	講義					
コンテンツプロデュース論	2	講義					
芸術療法概論	2	講義					
空間デザイン概論	2	講義					
アンケート調査・分析法	2	講義					
生態学	2	講義					
心とアートの心理学	2	講義					
* アートプロデュース演習Ⅱ	2	演習	* 総合アートプロデュース実習	5	実技	52	52
* アートマネジメント演習Ⅱ	2	演習	* 卒業研究	10	演習		
* ミュージアムスタディ演習Ⅱ	2	演習					
* ミュージアム・エデュケーション演習Ⅱ	2	演習					
* 音楽プロデュース演習Ⅱ	2	演習					
* 舞台芸術プロデュース演習Ⅱ	2	演習					
* ヒーリング・アートプロジェクト演習	3	演習					
	15			15			
合計						124	

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						6	30
						4 (注1)	
						2	
						12	
						4	
* アート・デザイン表現演習Ⅱ	2	演習				28	94
	2						
(2～4年次)						42	94
						14 (注2)	
メディア文化論特講	2	講義	(3～4年次)				52
デジタル知的財産概論	2	講義					
メディアマネジメント論	2	講義					
コンテンツプロデュース論	2	講義					
芸術療法概論	2	講義					
空間デザイン概論	2	講義					
アンケート調査・分析法	2	講義					
生態学	2	講義					
心とアートの心理学	2	講義					
* アートプロデュース演習Ⅱ	2	演習	* 総合アートプロデュース実習	5	実技	52	
* アートマネジメント演習Ⅱ	2	演習	* 卒業研究	10	演習		
* ミュージウムスタディ演習Ⅱ	2	演習					
* ミュージウム・エデュケーション演習Ⅱ	2	演習					
* 音楽プロデュース演習Ⅱ	2	演習					
* 舞台芸術プロデュース演習Ⅱ	2	演習					
* ヒーリング・アートプロジェクト演習	3	演習					
	15			15			
合計						124	

共創デザイン学科

1. 教育内容

複雑化し、変化し続ける社会課題に、一人の力、一つのスキルで解決に導くこと、新しい価値を創造することは難しく、多様な才能や個性を巻き込み「共に」ものごとを「創り上げていく力」が必要です。そして、多くの女性が持つ他者への共感力やしなやかなコミュニケーション力は、「共創」を生み出すための重要な基礎力と言えます。

共創デザイン学科では、多様な他者と共に構想し、共に成長しながら目標に導いていく「共創型リーダーシップ」を身に付けるための3つの特徴的な教育を行います。

創造力の基礎となるデザイン教育を踏まえた上で、多様な領域の人々と共創するための「共創教育」。そして、さまざまなライフイベントを乗り越えるための折れない心を育成する「ライフマネジメント教育」。さらに、これらの学びを統合し、応用しながら、ビジネスの現場で実践する力を身につける「産官学連携による実学」を行います。また、「共創教育」「ライフマネジメント教育」「産官学連携による実学」を1年生から循環させ、学んだことをすぐに実践する生きた教育を4年間通して積み上げます。

2. カリキュラム編成の特徴

(1) 共創教育

[1～2年次]

自ら創り出す力、周囲を巻き込む力を身につけるための基礎を養います。

デザイン全般、テクノロジー、マーケティングなどのベーシックカリキュラムである「共創デザイン演習I-A～G」「共創デザイン演習II-A～E」「共創デザイン選択演習II-A～D」を通して、多様なクリエイティビティの基礎となる創出力と開拓力を養い、共創の基本となる思考を可視化する力、コミュニケーション力やリーダーシップのための基礎力を身につけます。また、プロジェクトデザインの基礎カリキュラム「共創デザイン実践」を通して、共創型プロジェクトに参加するための技術や知識、マインドセットを幅広く習得します。さらに、多数の講義授業・演習授業を通して、自己ブランディングや、伝統文化・芸能、表現伝達のテクニックなど多様な知識を身につけます。

[3年次]

1～2年次で身につけた基礎力を踏まえ、3年次ではビジネス、ブランディング、マーケティング・プランニング、サービスデザイン、そして、複数のデザイン領域を統合して課題に取り組むクリエイティブインテグレーションなど、各自が将来を見据えて選択することができる複数のカリキュラムで専門性の向上を図ります。また、「知財・ファイナンス概論」を学ぶことで、独立した個人として社会で活動するための基礎力を身につけます。

[4年次]

冒頭の授業では、卒業制作・研究のための準備としてテーマを探究する時間を設け、その後、3年次までの学びを踏まえ、約1年間を通してゼミ形式による卒業制作・研究に取り組みます。各自の学びの集大成として、テーマ設定から制作・研究、発表までを主体的に実施します。作品制作のほか、主体的に社会とつながるプロジェクト実践、学んできたことをさらに深める研究など、多様な取り組み内容が考えられます。

(2) ライフマネジメント教育

1年次から4年間を通し、折れない心と自身を高め続けることのできるマインドを養います。「ライフマネジメント論」や、社会人教育との連携による「自律的キャリア教育」など、自信を持って社会に出ていくためのアイデンティティ形成のためのカリキュラムや、困難を乗り越えるための回復力や柔軟性を養い、ストレスの本質を理解することでストレスとの

上手な付き合い方を身につけるストレスマネジメントカリキュラムを実施します。さらに、失敗を恐れず、未知への一步を踏み出すことを楽しめるマインド。新たな機会や可能性を生み出す未来への楽観的な思考を身につけます。

(3) 産官学連携による実学

1年次から4年間を通し、社会・ビジネスの現場で生きていく力を養います。

共創教育、ライフマネジメント教育の学びを踏まえて、それらを統合し、応用することを多種多様な企業や自治体との連携プロジェクトを経験しながら身に付けていきます。

多様な連携プロジェクトは、企業や自治体の抱える課題や未来構想など、年次を追うごとに高度な内容に取り組み、社会貢献意識を高めると共に実力アップを図ります。

教育目標

共創デザイン学科は、伝達や用途などの目的や機能を理解し、デザインする能力をベースに、異分野の学びを身につけ、企業、自治体や消費者をはじめとする多様な立場の人々と協働して、社会に貢献する新しい価値を共に創り上げることのできる能力を備えた人材「共創型リーダー」の養成を教育目標とする。

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	授業科目
共創デザイン学科においては、以下を学位授与の条件とします。	教育目標に到達すべく、学科共通科目を通して、デザインを軸に、ビジネス、テクノロジーを横断的に学び、実践型プロジェクトに取り組むことで、多様な人々と共創する力を身に付け、専門領域での表現に反映できるカリキュラムを編成します。	
【知識・理解】 (教養力・基礎的専門性)	デザインに関する基礎的知識と技能を活用する能力を身に付けている。	デザイン分野における基本的な理論と技法に関する理解とともに、デザイン分野の職業に関する倫理や社会的意義について理解する科目を配置する。
【関心・意欲・態度】(主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性)	デザインの諸活動の実践により課題に主体的に向き合い、多様な立場の人と協働して解決方法を創造する能力と態度を身に付けている。	デザイン活動を通して多様な立場の人々との協働作業を主導する姿勢、また、これらの協働により、高付加価値の商品やサービスを共に創り出す能力を養う科目を配置する。
【関心・意欲・態度】(主体性・開拓力・チームワーク・柔軟性)	デザインの諸活動の実践を通して、生涯にわたり生じる様々なライフイベントや困難な課題を柔軟な思考と強靱な意思をもって乗り越え、自己成長を続けられる能力と態度を身に付けている。	デザイン活動の実践を通して、自己のアイデンティティを確立しその個性を磨き続ける意欲と、生涯にわたり自己成長を継続できる態度を養う科目を配置している。
【思考・判断】(総合的判断力・創出力)	デザインの理論や手法を始めとした知識・技能を総合して社会を洞察し、デザインで解決すべき課題を見出し、その解決策を構想する能力を身に付けている。	デザイン活動に必要な独自の観察力や洞察力を高める理論と技法の修得のもと、それらを総合して見出した課題に対して、適切かつ効果的なデザイン手法を活用する能力を養う科目を配置する。
【技能・表現】(創出力・実装力)	デザインの理論や手法を始めとした知識・技能を総合的に活用し実践型の学びを通して、商品やサービスなどの新たな価値を創造する能力とより良い社会の実現に取り組むことができる態度を身に付けている。	産官学連携・地域連携等のプロジェクトの実施により多様な立場の人々との協働による高付加価値の商品企画や構想立案に関する体験を通して、講義や演習で得た知識と技能の総合化を図る科目を配置する。

共創デザイン学科
学科専門科目

芸術学部 共創デザイン学科 カリキュラム表

科目区分		1 年 次			2 年 次					
		科目名	単位	形態	科目名	単位	形態			
学部共通科目	ファンデーション	必 女子美基礎講座 必 女子美の教養		講義 講義						
	グローバル									
	基礎力創造力									
	アートを生かす									
	語学力									
学科専門科目	学科共通科目	必修	* 共創デザイン演習Ⅰ-A	2	演習	* 共創デザイン演習Ⅱ-A	2	演習		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-B	2	演習	* 共創デザイン演習Ⅱ-B	2	演習		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-C	2	演習	* 共創デザイン演習Ⅱ-C	2	演習		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-D	2	演習	* 共創デザイン演習Ⅱ-D	2	演習		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-E	2	演習	* 共創デザイン演習Ⅱ-E	2	演習		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-F	2	演習	* 共創デザイン実践Ⅱ	2	実技		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-G	2	演習	行動デザイン論	2	講義		
			* 共創デザイン演習Ⅰ-H	2	演習	コミュニケーション特論Ⅱ	2	講義		
			* 共創デザイン実践Ⅰ	2	実技	ライフマネジメント論Ⅱ-A	2	講義		
			共創デザイン概論	2	講義	ライフマネジメント論Ⅱ-B	2	講義		
ライフマネジメント論Ⅰ	2	講義								
ビジネスデザイン概論	2	講義								
コミュニケーション特論Ⅰ	2	講義								
			26				20			
	選択必修				* 共創デザイン選択演習Ⅱ-A	2	2	演習		
					* 共創デザイン選択演習Ⅱ-B	2				
					* 共創デザイン選択演習Ⅱ-C	2	2	演習		
					* 共創デザイン選択演習Ⅱ-D	2				
						4				
	選択	デザイン基礎集中演習	2	演習	共創デザイン演習Ⅱ-F	2	演習			
		ドローイング演習	2	演習						
		プログラミング演習	2	演習						
		インクルーシブデザイン論	2	講義						
		自律的キャリア教育	2	演習 (1~4年次)						
		産官学連携演習Ⅰ	2	演習						
		産官学連携実践	1	実技						
								人間工学(スペース&プロダクト)	2	講義
								コミュニケーション特論Ⅲ	2	講義
								感性異分野共創論Ⅰ	2	講義
				ソーシャルグッドネスデザイン論	2	講義				
				産官学連携演習Ⅱ	2	演習				
				留学認定科目A	2	講義				
				留学認定科目B	4	講義				
				留学認定科目C	6	講義				
				留学認定科目D	8	講義				
				留学認定科目E	10	講義				

注1. 外国人留学生は「日本語A」1単位、「日本語B」1単位の2単位を必修とし、合計6単位以上を修得すること。

注2. 英語系から2単位以上必修とし、合計4単位以上を修得すること。

*…専門科目時間帯(実技時間帯)

必…学部共通科目の必修科目

3 年 次			4 年 次			卒業所要単位計	
科 目 名	単 位	形 態	科 目 名	単 位	形 態		
						4	30
						6 (注1)	
						10	
						2	
						4 (注2)	
* 共創デザイン演習Ⅲ-A * 共創デザイン演習Ⅲ-B * 共創デザイン実践Ⅲ 知財・ファイナンス概論 ライフマネジメント論Ⅲ-A ライフマネジメント論Ⅲ-B ファンリレーション論	2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 実技 講義 講義 講義	* 共創デザイン実践Ⅳ * 卒業研究	2 8	実技 実技	70	94
	14			10			
* 共創デザイン選択演習Ⅲ-A * 共創デザイン選択演習Ⅲ-B * 共創デザイン選択演習Ⅲ-C * 共創デザイン選択演習Ⅲ-D * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Aa * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ba * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ca * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Da * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ea * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Ab * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Bb * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Cb * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Db * 共創デザイン選択演習応用Ⅲ-Eb	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習				10	
	6						
			ライフマネジメント論Ⅳ-A ライフマネジメント論Ⅳ-B	2 2	講義 講義		
(2~4年次)						14 (注3)	
感性異分野共創論Ⅱ 産官学連携演習Ⅲ	2 2	講義 演習	(3~4年次)				
合 計						124	

注3. 指定単位数を超過して修得した単位は、卒業所要単位に含まれない。他学科の学科共通科目の一部を履修することができ、修得した単位は7単位を上限に学科共通科目・選択科目に卒業所要単位として算入できる。

*印の科目は時間割に表示していません。専門科目時間帯(実技時間帯)に行う授業科目であり、各専攻・領域のスケジュール表を参照すること。履修方法については研究室の指示に従うこと。

美術学科、デザイン・工芸学科

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。本学では学芸員資格を、博物館法施行規則の定めるところに基づく所定の科目・単位を修得した方で、芸術学部卒業時に学士の学位とあわせて、学芸員資格証明書を授与しています。学芸員養成課程は全学科に開設しておりますが、1年次の「博物館概論」の単位を修得し、その成績の上位の者のみが「博物館に関する科目」を履修することができます。また、4年次の「博物館実習」は、履修する年度の4月の時点で博物館に関する必修科目をすべて修得済みであることが履修の条件となります。学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行ないます。希望者は必ず出席してください。

	授 業 科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定め る必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	半期・必修
	博物館概論 (アートを社会と生活に生かす) ※	2	2	1	半期・必修
	博物館資料論	2	2	2	半期・必修
	博物館展示論	2	2	2	半期・必修
	博物館教育論	2	2	2	半期・必修
	博物館資料保存論	2	2	3	半期・必修
	博物館経営論	2	2	3	半期・必修
	博物館情報・メディア論	2	2	3	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	4	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～4	2単位選択 必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術史概説		2	1～4	8単位選択 必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	西洋美術史特論C		2		
	日本美術史概説		2		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	日本美術史特論C		2		
	東洋美術史概説		2		
	東洋美術史特論A		2		
	東洋美術史特論B		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2	3		

※修得した「博物館概論」は学部共通科目として卒業所要単位に含めることができる。ただし、再履修は認められない。

美術学科、デザイン・工芸学科

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。

本学では学芸員資格を、博物館法施行規則の定めるところに基づく所定の科目・単位を修得した方で、芸術学部卒業時に学士の学位とあわせて、学芸員資格証明書を授与しています。

学芸員養成課程は全学科に開設しておりますが、1年次の「博物館概論」の単位を修得し、その成績の上位の者のみが「博物館に関する科目」を履修することができます。

また、4年次の「博物館実習」は、履修する年度の4月の時点で博物館に関する必修科目をすべて修得済みであることが履修の条件となります。

学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行ないます。希望者は必ず出席してください。

	授 業 科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定め る必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論 (学部共通科目A群) ※	2	2	1	半期・必修
	博物館概論 (学部共通科目D群) ※	2	2	1	半期・必修
	博物館資料論	2	2	2	半期・必修
	博物館展示論 (学部共通科目D群) ※	2	2	2	半期・必修
	博物館教育論 (学部共通科目D群) ※	2	2	2	半期・必修
	博物館資料保存論	2	2	3	半期・必修
	博物館経営論	2	2	3	半期・必修
	博物館情報・メディア論	2	2	3	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	4	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～4	2単位選択必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術全史		4	1～4	8単位選択必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	日本美術全史		4		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	東洋美術史概論		2		
	東洋美術史特論		2		
	日本近代美術論		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2	3		

※修得した「博物館概論」は学部共通科目として卒業所要単位に含めることができる。ただし、再履修は認められない。

※修得した「生涯学習概論」「博物館展示論」「博物館教育論」は学部共通科目として卒業所要単位に含めることができる。

アート・デザイン表現学科（メディア表現領域・ヒーリング表現領域・ファッションテキスタイル表現領域）

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。本学では学芸員資格を、博物館法施行規則の定めるところに基づく所定の科目・単位を修得した方で、芸術学部卒業時に学士の学位とあわせて、学芸員資格証明書を授与しています。学芸員養成課程は全学科に開設しておりますが、「ミュージアムスタディ概論」の単位を修得し、その成績の上位の者のみが「博物館に関する科目」を履修することができます。また、4年次の「博物館実習」は履修する年度の4月の時点で博物館に関する必修科目をすべて修得済みであることが条件となります。学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行います。希望者は必ず出席してください。なお、都合により、科目の開設形態が集中授業となる場合があります。

	科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定める 必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	半期・必修
	ミュージアムスタディ概論 (学科共通科目) ※	博物館概論 2	2	1	アート・デザイン表現学科 学科共通科目 選択科目
	映像文化概論 (学科共通科目) ※	博物館情報・ メディア論 2	2	3	
	博物館資料論	2	2	2	半期・必修
	博物館展示論	2	2	2	半期・必修
	博物館教育論	2	2	2	半期・必修
	アートプロデュース概論 (学科共通科目) ※	博物館経営論 2	2	1	アート・デザイン表現学科 学科共通科目 選択科目
	博物館資料保存論	2	2	3	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	4	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～4	2単位選択 必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術史概説		2	1～4	8単位選択 必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	西洋美術史特論C		2		
	日本美術史概説		2		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	日本美術史特論C		2		
	東洋美術史概説		2		
	東洋美術史特論A		2		
	東洋美術史特論B		2		
	現代美術論		2		
	古美術研究		2	3	

※「生涯学習概論」「博物館展示論」「博物館教育論」は学部共通科目として卒業所要単位に含めることができる。

※「ミュージアムスタディ概論」「映像文化概論」「アートプロデュース概論」は学科共通科目として卒業所要単位に含めることができる。

アート・デザイン表現学科 (メディア表現領域・ヒーリング表現領域・ファッションテキスタイル表現領域)
学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館 (美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む) には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。

本学では学芸員資格を、博物館法施行規則の定めるところに基づく所定の科目・単位を修得した方で、芸術学部卒業時に学士の学位とあわせて、学芸員資格証明書を授与しています。

学芸員養成課程は全学科に開設しておりますが、「ミュージアムスタディ概論」の単位を修得し、その成績の上位の者のみが「博物館に関する科目」を履修することができます。

また、4年次の「博物館実習」は履修する年度の4月の時点で博物館に関する必修科目をすべて修得済みであることが条件となります。

学芸員養成課程の説明会は、1年次の4月に行います。希望者は必ず出席してください。

なお、都合により、科目の開設形態が集中授業となる場合があります。

	科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定める 必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論 (学部共通科目A群) ※	2	2	1	半期・必修
	ミュージアムスタディ概論 (学科共通科目) ※	博物館概論 2	2	1	アート・デザイン表現学科 学科共通科目 選択科目
	映像文化概論 (学科共通科目) ※	博物館情報・ メディア論 2	2	3	
	博物館資料論	2	2	2	半期・必修
	博物館展示論 (学部共通科目D群) ※	2	2	2	半期・必修
	博物館教育論 (学部共通科目D群) ※	2	2	2	半期・必修
	アートプロデュース概論 (学科共通科目) ※	博物館経営論 2	2	1	アート・デザイン表現学科 学科共通科目 選択科目
	博物館資料保存論	2	2	3	半期・必修
	博物館実習 (事前・事後指導を含む)	3	3	4	通年・必修
選択科目	文化人類学		2	1～4	2単位選択 必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術全史		4	1～4	8単位選択 必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	日本美術全史		4		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	東洋美術史概論		2		
	東洋美術史特論		2		
	日本近代美術論		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2	3		

※「生涯学習概論」「博物館展示論」「博物館教育論」は学部共通科目として卒業所要単位に含めることができる。
※「ミュージアムスタディ概論」「映像文化概論」「アートプロデュース概論」は学科共通科目として卒業所要単位に含めることができる。

アート・デザイン表現学科（アートプロデュース表現領域）

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。

本学では学芸員資格を、博物館法施行規則の定めるところに基づく所定の科目・単位を修得した方で、芸術学部卒業時に学士の学位とあわせて、学芸員資格証明書を授与しています。

アートプロデュース表現領域では、博物館に関する科目の大部分を卒業に必要な専門科目の中に組み込んでいます。

なお、都合により、科目の開設形態が集中授業となる場合があります。

	科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定め る必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論	2	2	1	
	ミュージアムスタディ概論	博物館概論 2	2	1	アートプロデュース表現領域 学科共通科目 必修科目
	アートプロデュース概論	博物館経営論 2	2	1	
	空間基礎演習	博物館展示論 2	2	1	アートプロデュース表現領域 学科専門科目 専攻・領域専門科目 必修科目
	ミュージアムスタディ演習Ⅰ	博物館資料論 2	2	2	
	映像文化概論	博物館情報・ メディア論 2	2	2	アートプロデュース表現領域 学科共通科目 必修科目
	ミュージアム・エデュケーション演習Ⅰ	博物館教育論 2	2	2	
	ミュージアムスタディ演習Ⅱ	博物館資料 保存論 2	2	3	アートプロデュース表現領域 学科専門科目 専攻・領域専門科目 必修科目
	総合アートプロデュース実習	博物館実習 3	5	4	
選択科目	文化人類学		2	1～4	2単位選択 必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術史概説		2	1～4	8単位選択 必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	西洋美術史特論C		2		
	日本美術史概説		2		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	日本美術史特論C		2		
	東洋美術史概説		2		
	東洋美術史特論A		2		
	東洋美術史特論B		2		
	現代美術論		2		
古美術研究		2	3		

アート・デザイン表現学科（アートプロデュース表現領域）

学芸員養成課程

博物館法に基づく博物館（美術館、歴史博物館、科学博物館等を含む）には、資料の収集・保管・展示や調査研究などにあたる専門職員として、学芸員を必ず置くことが定められています。

本学では学芸員資格を、博物館法施行規則の定めるところに基づく所定の科目・単位を修得した方で、芸術学部卒業時に学士の学位とあわせて、学芸員資格証明書を授与しています。

アートプロデュース表現領域では、博物館に関する科目の大部分を卒業に必要な専門科目の中に組み込んでいます。

なお、都合により、科目の開設形態が集中授業となる場合があります。

	科 目	博物館法施行規則による 科目・必要単位	本学が定め る必要単位	開講年次	備 考
博物館に関する科目	生涯学習概論 (学部共通科目A群) ※	2	2	1	半期・必修
	ミュージアムスタディ概論	博物館概論 2	2	1	アートプロデュース表現領域 学科共通科目 必修科目
	アートプロデュース概論	博物館経営論 2	2	1	
	空間基礎演習	博物館展示論 2	2	1	アートプロデュース表現領域 学科専門科目 専攻・領域専門科目 必修科目
	ミュージアムスタディ演習Ⅰ	博物館資料論 2	2	2	
	映像文化概論	博物館情報・ メディア論 2	2	2	アートプロデュース表現領域 学科共通科目 必修科目
	ミュージアム・エデュケーション演習Ⅰ	博物館教育論 2	2	2	アートプロデュース表現領域 学科専門科目 専攻・領域専門科目 必修科目
	ミュージアムスタディ演習Ⅱ	博物館資料 保存論 2	2	3	
	総合アートプロデュース実習	博物館実習 3	5	4	
選択科目	文化人類学		2	1～4	2単位選択 必修
	比較文化論		2		
	文化遺産学		2		
	芸術文化政策論		2		
	西洋美術全史		4	1～4	8単位選択 必修
	西洋美術史特論A		2		
	西洋美術史特論B		2		
	日本美術全史		4		
	日本美術史特論A		2		
	日本美術史特論B		2		
	東洋美術史概論		2		
	東洋美術史特論		2		
	日本近代美術論		2		
	現代美術論		2		
	古美術研究		2		

※「生涯学習概論」は学部共通科目として卒業所要単位に含めることができる。

ダブルコース（副専攻）について

美術学科及びデザイン・工芸学科の学生を対象にダブルコース（副専攻）を開設します。興味のある学生は、各コースの概要紹介及び履修方法等を確認してください。履修したいコースの科目を1・2年次に履修することをお奨めします。

●ダブルコース（副専攻）について

ダブルコース（副専攻）とは、各専攻で学んでいる芸術分野とは別に、もう1つの分野の学習成果をダブルコース（副専攻）として認証する制度です。各所属の専門分野の枠をこえて、自分の興味・関心に基づいて自主的に学んでいくものです。美術学科及びデザイン・工芸学科の学生はチャレンジすることができます。所属する専攻の芸術分野を第一に学ぶと同時に、その他の分野も学ぶことで、主専攻の補強、主専攻以外の強みの獲得につながり、新しい創造や発想を後押しする機会ともなります。本学ではダブルコース（副専攻）として右のコースを用意しています。

ダブルコース（副専攻）一覧

コース名
西洋美術史コース
日本美術史コース
色彩学コース
芸術表象コース
芸術人類学コース
芸術と法コース

●対象学生：美術学科及びデザイン・工芸学科の学生になります。

●履修方法

ダブルコース（副専攻）から学びたいコースを選び、そのコースの芸術文化オープンゼミⅠ<2年次>（選択）、芸術文化オープンゼミⅡ<3年次>（コア科目）、芸術文化オープンゼミⅢ<4年次>（コア科目）を指定年次に修得するとともに、選択科目で指定された単位を1～4年次で修得してください。なお、履修登録はWeb履修登録期間に行なってください。また、抽選科目となりますので、抽選希望登録をする際は、下記履修上の注意をよく読み、自分の希望するゼミが履修可能かどうか確認をしてください。

●履修上の注意

芸術文化オープンゼミは、Ⅱ、Ⅲを通して同一コースを履修する必要があります。中には、Ⅰも同一コースを履修する必要があるものもあります。各コースの紹介、およびシラバスをよく読み履修してください。

※芸術文化専攻の学生は、履修方法について研究室の指示に従ってください。

●修了条件

ダブルコース（副専攻）修了として認定されるためには次の3点を満たす必要があります。

- ①各コースで定められた修了要件を満たしていること
コア科目8単位＋選択科目8単位＝16単位以上の修得
- ②修了希望申請書を提出していること
- ③所属専攻で卒業が認定されること

たとえ各コースでの修了要件を満たしていても卒業できなければ修了とはなりません。また、修了要件を満たし、卒業できたとしても事前に「ダブルコース（副専攻）修了証交付願」を提出していない場合には修了として認定されません。

●修了希望申請書

ダブルコース（副専攻）修得には、4年次の定められた期間に「ダブルコース（副専攻）修了証交付願」を教育支援センターに提出する必要があります。これを提出していない学生は修了として認定されません。なお、認定された学生には「ダブルコース（副専攻）修了証」を発行します。

●注意事項

- ・ダブルコース（副専攻）の認証は本学独自の制度になります。
- ・ダブルコース（副専攻）修得のための必要科目に関しては、再試験の対象とはなりません。

●各コースの紹介

<西洋美術史コース>

西洋美術は人間の行為をイメージなどで再現することを目的としてきました。つまりそれは古代ギリシア・ローマ神話、聖書さらに歴史におけるある出来事に人間たちがどのようにかわりそしてまたどのような結末を迎えたのかを時代と空間を超え、今まさに誰が誰になにをしたのかを視覚的にリアルに再現し、鑑賞者をそれに追体験させることでした。したがって、西洋美術の歩みを辿ることは、人間とは何かを知ることにはほかなりません。

	科目名	単位	修得単位	
選択科目	学 西洋美術史特論A	2	2単位以上	コア科目 8単位 + 選択科目 8単位以上 合計 16 単位以上 修得
	学 西洋美術史特論B	2		
	学 芸術学(西洋美術史特論C)	2	4単位以上	
	学 現代美術論	2		
	学 美学	2		
	学・デ 印刷概論	2		
	美 ヴィジュアルスタディーズA	2	2単位以上	
	美 ヴィジュアルスタディーズB	2		
	美 技法史	2		
	学 文化遺産学	2		
	美 芸術文化オープンゼミ I	2		
	美 芸術文化ゼミ I※	2		
	美 芸術人類学	2		
	美 創作活動と法	2		
美 色彩文化概論	2			
コア科目	美 芸術文化オープンゼミ II (西洋美術史コース)	4	4単位	
	美 芸術文化オープンゼミ III (西洋美術史コース)	4	4単位	

学…学部共通科目、美…美術学科 学科共通科目
 デ…デザイン・工芸学科 学科共通科目
 ※…芸術文化専攻のみ

<日本美術史コース>

美術史では、イメージの歴史とともに、人類の感性と知性にまつわる歴史を学びます。日本美術の学びは、研究を志す人だけでなく、実技を学ぶ人にとっても創作のヒントにとどまらず、日本文化のcoolな魅力の再発見や、今日の私たちのアイデンティティについて思いを巡らすことに繋がります。美術作品を鑑賞し、美術書を読んで自らの思考を言葉や文章で表現することは、感性と知性を具える社会人としての自己形成にも大いに役立つことでしょう。

	科目名	単位	修得単位	
選択科目	学 日本美術史特論A	2	2単位以上	コア科目 8単位 + 選択科目 8単位以上 合計 16 単位以上 修得
	学 日本美術史特論B	2		
	学 東洋美術史概論(東洋美術史概説)	2		
	学 東洋美術史特論(東洋美術史特論A)	2		
	学 日本近代美術論(日本美術史特論C)	2	4単位以上	
	学 芸術学(西洋美術史特論C)	2		
	デ 日本服装史	2		
	デ 文様史	2		
	学 古美術研究	2	2単位以上	
	美 ヴィジュアルスタディーズA	2		
	美 ヴィジュアルスタディーズB	2		
	美 技法史	2		
	学 文化遺産学	2		
	美 芸術文化オープンゼミ I	2		
美 芸術文化ゼミ I※	2			
美 芸術人類学	2			
美 創作活動と法	2			
美 色彩文化概論	2			
コア科目	美 芸術文化オープンゼミ II (日本美術史コース)	4	4単位	
	美 芸術文化オープンゼミ III (日本美術史コース)	4	4単位	

学…学部共通科目、美…美術学科 学科共通科目
 デ…デザイン・工芸学科 学科共通科目
 ※…芸術文化専攻のみ

<色彩学コース>

色彩学では色彩や視覚に関わる分野を広く学びます。配色調和理論, カラーシステム, 色彩心理学, 色彩工学, そしてそれらの基礎学問などを身に付け、作品制作や将来の進学や就職に有用な勉強を進めます。また色彩検定やカラーコーディネーターなどの資格に挑戦する場合にも有効な勉強です。広い視点から学ぶことにより色彩の知識がより深まるばかりでなく、美術や色彩全般に対する理解がより深まることが期待されます。

	科目名	単位	修得単位	
選択科目	学 色彩学(色彩学AまたはB)※1	4	2単位以上	コア科目 8単位 + 選択科目 8単位以上 合計 16 単位以上 修得
	学 造形心理学	2		
	学・デ 印刷概論	2	2単位以上	
	デ 伝統染織文化論	2		
	美 ヴィジュアルスタディーズA	2	4単位以上	
	美 ヴィジュアルスタディーズB	2		
	美 視覚心理学	2		
	美 配色調和論	2		
	美 色彩文化論	2		
	美 カラーキャリアI	2		
	美 カラーキャリアII	2		
	美 芸術人類学	2		
	美 創作活動と法	2		
	美 芸術文化オープンゼミI(色彩学コース)※1	2		
美 芸術文化ゼミI※2	2			
コア科目	美 芸術文化オープンゼミII(色彩学コース)※3	4	4単位	
	美 芸術文化オープンゼミIII(色彩学コース)	4	4単位	

学…学部共通科目、美…美術学科 学科共通科目
 デ…デザイン・工芸学科 学科共通科目
 ※1…2年次以降に「芸術文化オープンゼミI(色彩学コース)」の履修を希望する場合、「色彩学(色彩学AまたはB)」「視覚心理学」「造形心理学」のいずれか一科目を履修する必要があります。
 ※2…芸術文化専攻のみ
 ※3…「芸術文化オープンゼミII(色彩学コース)」を履修するためには、「芸術文化オープンゼミI(色彩学コース)」を修得済みである必要があります。

<芸術表象コース>

芸術表象では、現代のアートにかかわる理論や知識について学びます。また、ときに最新の理論を実際実践してみることで、表現することの意味や、それをデザインすること、運営することに関する実際的な知を育みます。現代のアートは、「もの」の制作だけでなく、「こと」の創造を重視しています。こうした現代のアートのエッセンスは、将来、どのような分野であっても、アクティブに、創造的に活動しようと考えている人には役に立つことでしょう。

	科目名	単位	修得単位	
選択科目	学 芸術学(西洋美術史特論C)	2	2単位以上	コア科目 8単位 + 選択科目 8単位以上 合計 16 単位以上 修得
	学 現代美術論	2		
	学 現代美学	2		
	美 アートプラクティスI	2	2単位以上	
	美 アートプラクティスII	2		
	美 アートアクティビティA	2	2単位以上	
	美 アートアクティビティB	2		
	美 芸術文化オープンゼミI(芸術表象コース)	2	2単位以上	
	美 芸術文化ゼミI※1	2		
	美 デザイン批評A	2		
	美 デザイン批評B	2		
	美 ヴィジュアルスタディーズA	2		
	美 ヴィジュアルスタディーズB	2		
	美 芸術人類学	2		
美 創作活動と法	2			
美 色彩文化概論	2			
コア科目	美 芸術文化オープンゼミII(芸術表象コース)※2	4		4単位
	美 芸術文化オープンゼミIII(芸術表象コース)	4	4単位	

学…学部共通科目、美…美術学科 学科共通科目
 ※1…芸術文化専攻のみ
 ※2…「芸術文化オープンゼミII(芸術表象コース)」を履修するためには、「芸術文化オープンゼミI(芸術表象コース)」を修得済みである必要があります。

<芸術人類学コース>

芸術人類学は、文化人類学・民俗学の学問領域のなかで、芸術との関わりを重視する領域研究を指します。芸術は人類の定義にも関わる、人類にとって本質的な意味をもつものといっているのですが、そうした認識の上にたって、研究を進めます。生活文化のなかに芸術的側面を見いだそうとする姿勢が重要です。生活儀礼や祭りなど、現場に触れることもまた大切です。こうした具体例から芸術的なものを導きだしていく手法を学びます。

		科目名	単位	修得単位	
選択科目	学	文化人類学	2	2単位以上	コア科目 8単位 + 選択科目 8単位以上 合計 16 単位以上 修得
	学	比較文化論	2		
	美	芸術人類学	2	2単位以上	
	美	芸術民俗学	2		
	学	言語学	2	2単位以上	
	学	コミュニケーション論	2		
	学	文化遺産学	2	2単位以上	
	美	芸術文化オープンゼミⅠ	2		
	美	芸術文化ゼミⅠ※	2		
	デ	工芸史A(染織)	2		
	デ	工芸史B(陶ガラス)	2		
	学・デ	印刷概論	2		
	デ	日本服装史	2		
	デ	文様史	2		
デ	伝統染織文化論	2			
コア科目	美	芸術文化オープンゼミⅡ(芸術人類学コース)	4		4単位
	美	芸術文化オープンゼミⅢ(芸術人類学コース)	4	4単位	

学…学部共通科目、美…美術学 学科共通科目
 デ…デザイン・工芸学 学科共通科目
 ※…芸術文化専攻のみ

<芸術と法コース>

「芸術と法」では、まず創作活動に関わる法知識を学びます。著作権トラブル、意匠権取得の可否など、法的な問題に直面する可能性はますます増えています。アーティストとしてのみならず、サポートする立場（ギャラリスト、学芸員、弁理士、意匠調査官など）としても、卒業後大いに役立つことでしょう。また、社会のより多くの人々が芸術と関わるようなルール（法）づくりについても創造する側から学びます。芸術・芸術家の持つ大きな力・役割を再認識することが目的です。

		科目名	単位	修得単位		
選択科目	美	芸術政策と法	2	2単位以上	コア科目 8単位 + 選択科目 8単位以上 合計 16 単位以上 修得	
	美	創作活動と法	2			
	学	政治学	2	2単位以上		
	学	法学	2			
	学	日本国憲法(法学(日本国憲法))	2			
	学	芸術と知的財産権(アートと法入門)	2			
	学	女性と法	2			
	デ	デザインと法	2			
	学	現代社会概説(国際関係論)	2			4単位以上
	学	美学	2			
	学	現代美学	2			
	学	芸術学(西洋美術史特論C)	2			
	学	日本近代美術論(日本美術史特論C)	2			
	学	現代美術論	2			
	学	デザイン史(デザイン史A)	2			
	学	環境論	2			
	学	文化遺産学	2			
	学	芸術文化政策論	2			
	学・デ	印刷概論	2	2		
	美	芸術文化オープンゼミⅠ	2			
美	芸術文化ゼミⅠ※	2				
コア科目	美	芸術文化オープンゼミⅡ(芸術と法コース)	4	4単位		
	美	芸術文化オープンゼミⅢ(芸術と法コース)	4	4単位		

学…学部共通科目、美…美術学 学科共通科目
 デ…デザイン・工芸学 学科共通科目
 ※…芸術文化専攻のみ

本学ポータルサイト「Active Academy」Web履修登録の手順について

■ポータルサイト基本事項

○ログインページ <https://aa.joshibi.net/>

* 「http」でなく「https」ですのでご注意ください。

○ユーザーID：学籍コード

○パスワード：別紙にて配付

* 上記パスワードで女子美Gmail、マイライブラリー（図書館ポータル）へログインができます。

○稼働時間 毎日7:30～翌2:00

○停止期間 毎日2:00～7:30はメンテナンスのため稼働しません

■履修登録

2023年度履修登録スケジュール		7:30	9:30	10:30	13:00	14:00	17:00	翌2:00
4月 4日 (火)	履修登録開始9:30～							
4月 5日 (水)	↑							
4月 6日 (木)								
4月 7日 (金)	履修登録期間 ↑ 抽選科目登録締切～10:00 ↓ 停止修期間登録							
4月 8日 (土)	↓ 抽選結果発表10:30～ 履修登録締切～17:00							
4月 9日 (日)								
4月 10日 (月)	前期授業開始							
?								
4月 17日 (月)	↑ 履修訂正開始9:30～							
4月 18日 (火)	↓ 期間履修訂正							
4月 19日 (水)								
4月 20日 (木)	↓ 訂正内容確認・最終訂正締切～17:00							

※網掛け部分はWEB履修稼働時間

* 接続の制限時間は30分です。30分以上検索や登録等がないと接続が終了されます。

履修登録中は制限時間間近になったら、検索・登録ボタンを押すなどしてください。

* ポータルサイトの利用を終了する時は、必ず「ログアウト」を押してください。

本学ポータルサイト「Active Academy」のログイン方法

①ポータルサイトのログインページの表示

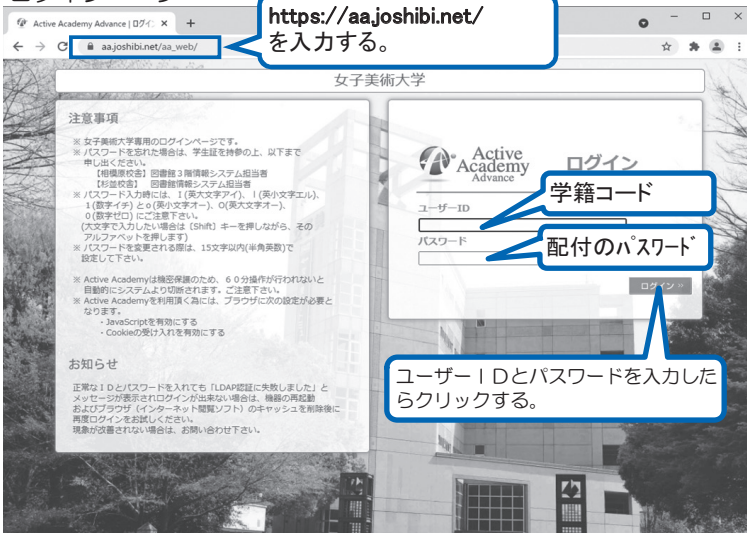
Microsoft Edge、Chrome、Firefox、Safari等のブラウザを起動し、上記アドレスを入力し本学ポータルサイト「Active Academy」のログインページを表示してください。

②ログイン

ログインページが表示されましたら、注意事項とお知らせを確認してください。

ユーザーID及びパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。

ログインページ



※Webシステムの制限事項

(1) 以下のブラウザの最新バージョンについて動作確認を行っています。

- ・Microsoft Edge
- ・Firefox
- ・Safari
- ・Google Chrome

(2) ブラウザの設定で以下の設定を有効にしてください。

(ブラウザごとに設定が異なります。各ブラウザのヘルプ等をご参照ください。)

- ・Cookie
- ・JavaScript

ポータルトップ画面とメニュー・機能一覧

ログインすると以下の画面が表示されます。

ここが自分の名前になっていることを確認してください。

【My Scheduleの機能】
履修している授業、学校のスケジュール、登録した予定等が表示されます。日・週・月単位に表示を変更することができます。
（授業教室変更の場合は掲示板でお知らせします。）

補講日程はポータルサイトのトップ画面のMy Scheduleには反映されません。
（通常の授業日にスケジュールが表示されています。）**集中補講日の時間割については、必ず別途掲示を確認してください。**

【お知らせ・連絡事項の機能】
本学からあなた宛に配信された連絡が表示されます。メール配信が指定された連絡は、「プロフィール変更」のメインのメールアドレスに配信されます。

【休補講情報の機能】
あなたが履修登録した科目で休講連絡があったものが表示されます。メール送付が指定された連絡は、「プロフィール変更」のメインのメールアドレスに配信されます。

【レポート提出情報の機能】
あなたが履修登録している科目のうち、教員がポータル上でレポート提出の設定をした科目の情報が表示されます。

【メニューの機能】

■掲示板

学年暦
個人へのお知らせ
連絡事項
休補講情報
リンク登録

主な行事を確認できます。
お知らせが閲覧できます。
連絡事項が閲覧できます。
休講情報が確認できます。
各自でリンク先を登録できます。

■授業支援

履修登録
通年授業履修取消申請
抽選授業希望登録
授業抽選結果
レポート提出
シラバス

履修する授業を登録できます。
通年授業科目の履修中止ができます。（後期履修訂正期間）
抽選科目の希望登録ができます。
抽選結果が確認できます。
教員がポータル上で設定したレポートの提出及び提出状況の確認ができます。
シラバスを参照できます。

■就職活動支援

企業検索

企業を検索できます。（随時更新予定）

■MyInformation

プロフィール変更
パスワード変更
修学ポートフォリオ
女子美Gmail

プロフィールの参照、メールアドレスの設定及び変更ができます。
（メインのメールアドレスに休講情報等が転送されます）
パスワードを変更できます。
「登録されている個人情報」「成績表」「履修情報」「出欠情報」「就職情報」「GPA」（※2016年度以降の入学生）を確認することができます。
女子美Gmailのログイン画面が別に開きます。

■アクセス終了

ログアウト

ポータルサイトの利用を終了する時は必ず画面の「ログアウト」を押してください。

*** 学生生活に必要な情報や授業に関する事柄を連絡していきます。
毎日必ず自分のポータル画面をご覧ください。**

■授業支援システム 《履修登録》

1、ポータル画面より、履修登録を起動します。

2、履修する授業を選択します。

履修登録している授業が一覧表示されます。

曜日・時限表は「前期」「後期」の2つあり、前期科目は「前期」、後期科目は「後期」、通年科目は両方で選択できます。今年度に履修登録する全授業科目（後期科目も含む）を登録します。（短大造形学科1年は後期科目のみ7月に登録します）

抽選科目は「抽選授業希望登録」から登録になります。抽選科目の希望登録する方は、抽選結果が履修に影響するため、抽選結果公表後に抽選科目以外の履修登録をしてください。授業を選択する曜日・時限にある鉛筆マークをクリックします。専門科目時間帯（実技時間帯）の授業の選択は、「専門集中など」の鉛筆マークをクリックします。網掛けの時間帯は専門科目時間帯（実技時間帯）です。講義系科目は原則履修登録できません。（大学院は除く）

画面1 履修登録入力

■授業支援システム 《履修登録》

「曜日・時限」「専門集中など」をクリックすると、自分の所属と学年が履修できる授業の一覧が表示されます。この中から履修する授業を選択してチェックを付けます。

他学科科目（反対校地開設授業）を履修する場合は、「学部学科」を反対校地の学科に変更してください。

「曜日・時限」欄では重複履修できないため原則選択は1科目ですが、「専門集中など」欄は複数選択が可能です。授業名で下線のあるものをクリックすることで、その授業のシラバスを表示することができます。

「登録して戻る」をクリックすることで、チェックを付けた授業が登録されます。

授業を登録せずに入力画面に戻るときは、「破棄して戻る」をクリックします。

画面2 授業一覧からの選択

他学科科目（反対校地開設授業）を履修する場合は、「学部学科」を反対校地の学科に変更してください。

違う条件の授業を検索する（条件を入力して検索ボタンを押して下さい）

学期 後期 曜日 水曜 時限 1限 学部学科 10 美術学科洋画専攻 学年 1年 表示する授業 全ての授業

※他学科科目（反対校地開設授業）を履修する場合は、希望の「学部学科」を選択してください

再検索する

<検索結果> 4件の授業が該当しました。

※ 選択する場合は、チェックを付けて下さい。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。

曜日	時限	選択	授業	授業名	期間	担当教員	必修	単位	定員	申請人数	状態
水曜	1限	<input type="checkbox"/>	2130C	日本語憲法	後期		選択	2	-	27	
水曜	1限	<input type="checkbox"/>	2321A	心身医学	後期		選択	2	-	60	
水曜	1限	<input type="checkbox"/>	2466D	数学A	後期		選択	2	45	45	既に定員に達しています
水曜	1限	<input type="checkbox"/>	2549A	キャリア形成A	後期		選択	2	-	53	

↑ここをチェック

※ 選択する場合は、チェックを付けて下さい。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。

登録して戻る 破棄して戻る

履修する授業をチェックする。チェック出来ない科目は抽選科目です。「抽選授業希望登録」から申込してください。

授業名をクリックするとその授業のシラバスが表示されます。

登録して戻る。 破棄して戻る。

■授業支援システム 《履修登録》

「登録して戻る」をクリックすると、選択した授業が履修登録入力画面に反映されます。

画面1 履修登録入力

令和 ■年度 後期

背景がベージュ色の曜日・時間は、専門科目時間帯です。一般授業の登録はできません。

※ をクリックすると授業の選択ができます。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。
 ※ 通年授業を示します。 ※ 例外許可授業を示します。 ※ 履修クラスを示します。

	前期	後期	年間
上限単位			42
対象単位			37
登録単位			37

○**上限単位**
1年間で履修できる単位数の上限

○**対象単位**
現在、履修登録している単位数
※卒業要件外の単位数は含まれません。

○**登録単位**
現在、履修登録している単位数
※卒業要件外の単位数も含まれます。

選択した授業が反映される。

取り消す時はチェックを外す。

表示内容で登録

一度選択した授業を取り消す場合は、授業名称左のチェックを外します。
別の授業に変更する場合は、鉛筆マークをクリックして、選択済みの授業のチェックを外し、別の授業を選択します。

3、選択した授業を登録します。

今年度に履修登録する全授業科目（抽選科目・後期科目も含む）の選択を終えたら「表示内容で登録」をクリックします。クリック後、エラーチェックが行われ、履修登録の内容により、3-①[エラー無し]、3-②[エラー]、3-③[警告]の3種類の結果が表示されます。

画面1 履修登録入力

令和 ■年度 後期

背景がベージュ色の曜日・時間は、専門科目時間帯です。一般授業の登録はできません。

※ をクリックすると授業の選択ができます。 ※ 選択を取り消す場合は、チェックを外して下さい。
 ※ 通年授業を示します。 ※ 例外許可授業を示します。 ※ 履修クラスを示します。

	前期	後期	年間
上限単位			42
対象単位			37
登録単位			37

表示内容で登録

履修登録する授業を確認後、クリックする。

■授業支援システム 《履修登録》

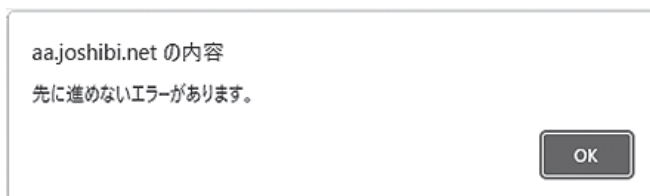
3-① エラー無しの場合（履修登録の確定）

登録にエラーはありませんでした。表示された内容を確認し、間違いがなければ「登録確定」をクリックします。ここで、「登録確定」を押さなければ登録内容は反映されないので注意してください。→「4. 登録を終了します」へ授業を変更するときは、「登録変更」をクリックして履修登録入力画面に戻り、再度授業を選択し直します。履修登録を取りやめるときは「登録中止」をクリックします。

画面4 履修登録確定

3-② エラーがある場合

「表示内容で登録」をクリックしたとき、エラーがある場合は、次のメッセージウィンドウが表示されて履修登録入力画面に戻ります。



履修登録入力画面では、履修エラーが発生した部分に、エラーマークと、エラー内容が表示されています。エラー内容の部分をクリックすると、エラーの詳細画面が、別ウィンドウで表示されます。エラーの詳細を確認し、エラーが発生した部分の履修を修正してください。

すべてのエラーが無くなると、「表示内容で登録」をクリックしたときに、画面4 履修登録確定が表示されるようになります。エラーが無くならないと、登録が確定できません。

画面1 履修登録入力

■履修登録入力



令和 年度 前期

	GPAなし	
	前期	後期
上限単位		42
対象単位		20
登録単位		20

※特別に許可された授業を選択する場合はこちらから → 例外許可授業を選択する

- ※ をクリックすると授業の選択状態が変更されます。チェックを外して下さい。
- ※ 通年授業を示します。

クリックすると、エラーの詳細が別ウィンドウで表示される。
エラー表示が無くなるよう修正する。
エラーを無くさないで履修登録を確定できません。

表示内容で登録

エラーが無くなったら、「表示内容で登録」をクリックする。

専門科目時間帯(選択)	授業	必修	単位	エラー
<input checked="" type="checkbox"/>	2R031	必修	2	
<input checked="" type="checkbox"/>	2R061	必修	2	
<input checked="" type="checkbox"/>	2R091	必修	2	
<input checked="" type="checkbox"/>	2R121	必修	2	

曜日	時間	科目名	選択	単位	エラー
月曜		21031 哲学	<input checked="" type="checkbox"/>	2	
火曜		21121 音楽	<input checked="" type="checkbox"/>	2	曜限が重複:24541
水曜		24541 色彩学	<input checked="" type="checkbox"/>	4	曜限が重複:21121
木曜		23181 精神保健	<input checked="" type="checkbox"/>		
金曜		24061 西洋美術史特論A	<input checked="" type="checkbox"/>		

Active Academy | エラー詳細画面 - Windows Internet Explorer

http://172.164.37/aa_web/rihshuuTouroku/rt0220.aspx#err04

03	科目が重複	履修登録した科目が重複しています。同じ科目はひとつしか履修できません。
04	曜限が重複	指定した時間帯の曜日・時限が重複しています。
06	制限科目	この科目の履修制限科目を満たしていません。
07	排他科目	排他科目の制限を越えています。同じグループの科目の中で、別の科目が既に履修されているので、入力した科目は履修できません。
13	卒業単位不足	【警告】卒業単位が不足しています。注意して下さい。

ページが表示されました

エラーの詳細を表示します。

■授業支援システム 《履修登録》

3-③ 警告がある場合

「表示内容で登録」をクリックしたとき、警告がある場合は、画面4 履修登録確定に進みます。

警告が発生した部分に、警告マークと、警告内容が表示されています。

警告内容の部分をクリックすると、エラーの詳細画面が、別ウィンドウで表示されます。

警告があっても、間違いではない場合、履修の修正をせずに履修登録確定はできますが、必ず詳細を確認してください。

画面4 履修登録確定

令和 年度 前期

変更が必要な時、登録変更をクリックする。

間違いがない時、登録確定をクリックする。

登録確定 登録変更 登録中止

登録を中止する時、登録中止をクリックする。

授業に関わらないエラー

卒業単位不足:0単位

クリックすると、警告内容が別ウィンドウで表示される。警告表示が無くなるよう修正する。修正の必要が無い時はそのまま登録が確定できる。

エラーの詳細説明画面

警告の詳細を表示します。

エラーコード	エラー項目	エラー詳細
03	科目が重複	履修登録した科目が重複しています。同じ科目はひとつしか履修できません。
04	曜限が重複	指定した時間割の曜日・時間が重複しています。
06	制限科目	この科目の履修制限科目を満たしていません。
07	排他科目	排他科目の制限を越えています。同じグループの科目の中で、別の科目が既に履修されているので、入力した科目は履修できません。
13	卒業単位不足	【警告】卒業単位が不足しています。注意して下さい。

4、登録を終了します。

履修のエラーが無くなり、画面4 履修登録確定で「登録確定」をクリックすると、画面5 履修登録印刷に移動します。

画面5 履修登録印刷画面

履修登録が完了しました。

「確認表を印刷」をクリックし、必ず登録内容を印刷する。

「登録終了」で履修登録を終了します。

確認表を印刷 登録終了

期間	曜日	時限	授業	授業名	担当教員	必修	単位	注意
連年	-	-	2AAXA	美術選択実技A(彫塑)		選択	2	
連年	-	-	2B03A	絵画 I A		必修	6	
連年	-	-	2B06A	絵画 I B		必修	5	
連年	-	-	2B09A	デッサン I		必修	2	
連年	月曜	2限	2B12A	基礎構成演習		必修	2	
連年	水曜	2限	2412A	日本美術史		必修	4	
連年	金曜	2限	2B12A	基礎構成演習		必修	2	
連年	金曜	5限	2403A	西洋美術史		必修	4	
後期	月曜	1限	2ABDA	美術選択演習A(美/指)		選択	2	
後期	月曜	2限	2ABDA	美術選択演習A(美/指)		選択	2	
後期	火曜	1限	2103A	哲学		選択	2	
後期	土曜	2限	2257E	コンピュータ入門A		選択	2	

履修登録の確認のために当画面の「確認表を印刷」ボタンを押して、PDF出力を行って下さい。終了ボタンを押して下さい。終了画面へ進みます。

登録終了

■授業支援システム 《履修登録》

「確認表を印刷」をクリックすると、履修登録内容をPDF形式で表示します。

ここで必ず確認表を印刷しておいてください。

特に履修訂正の際、その印刷がない場合、履修登録内容が自分の履修計画と異なっても、再訂正は一切認められません。

令和 年度 履修登録確認表 (後期)

学 生 所 属	学 籍 番 号	学 生 氏 名
専攻		

履 修 時 限	期 間	授 業 科 目 名	担 当 教 員 名	必 選	単 位	教 室 名	抽 選	備 考	エ ラ ー 内 容
月 1	後期	248DA 芸術選択演習A(画/造)		選択	2	ドモイナ			
月 2	後期	248DA 芸術選択演習A(画/造)		選択	2				
月 3									
月 4									
月 5									
月 6									
火 1	後期	2103A 哲学		選択	2	S133			
火 2									
火 3									
火 4									
火 5									
火 6									
水 1	通年	2412A 日本美術全史		必修	4	S224			
水 2									
水 3									
水 4									
水 5									
水 6									
木 1									
木 2									
木 3									
木 4									
木 5									
木 6									
金 1	通年	2812A 基礎構成演習		必修	2				
金 2									
金 3									
金 4	通年	2403A 西洋美術全史		必修	4	S224			
金 5									
金 6									
土 1	後期	2257E コンピュータ入門A		選択	2	S1317			
土 2									
土 3									
土 4									
土 5									
土 6									

ポータルサイトの利用が終わったら、画面の「ログアウト」をクリックして終了します。

画面6 履修登録完了

Active Academy
残り時間 60分
時間を延長する

ログインユーザー
トップページ 掲示板 授業支援 キャリア支援 My Information **ログアウト**

■ 履 修 登 録 完 了

STEP-1 履修登録画面 → STEP-2 履修登録確認 → STEP-3 履修登録印刷 → STEP-4 履修登録終了

履修登録が完了しました。
おつかれさまでした。

TOP画面へ戻る場合はこちらへ → **トップページ**

ログアウトする場合はこちらへ → **ログアウト**

■授業支援システム 《履修登録》

資料「エラー詳細画面」

全てのエラーをなくさないで、履修登録は完了できません。

ただし、エラー詳細で【警告】となっている項目は、修正を行わなくても履修登録を確定することが可能です。

画面7 エラー詳細画面

Active Academy

■ エラー詳細説明画面

エラーの詳細説明

エラーコード	エラー項目	エラー詳細
03	科目が重複	履修登録した科目が重複しています。同じ科目はひとつしか履修できません。
04	曜限が重複	指定した時間割の曜日・時限が重複しています。
06	制限科目	この科目の履修制限科目を満たしていません。
07	排他科目	排他科目の制限を越えています。同じグループの科目の中で、別の科目が既に履修されているので、入力した科目は履修できません。
13	卒業単位不足	【警告】卒業単位が不足しています。注意して下さい。
15	分割科目未履修	【警告】分割科目が未履修です。新カリキュラムの科目は、全ての分割科目を履修しないと単位として認められませんので、注意して下さい。
17	履修上限超過	履修登録した授業の単位数が上限値に達しています。履修上限値と現在の登録単位数は画面右上で確認して下さい。（上限単位：履修登録できる上限単位数、対象単位：上限チェック対象科目の合計単位数、登録単位：上限チェック対象科目以外も含む全科目の合計単位数）
63	重複再履修申請不可	重複再履修として申請できません。再履修者以外は申請できません。
65	同一曜限の授業がない	重複再履修として履修登録する場合は、同じ曜日・時限に別の授業の履修登録されていなければなりません。
66	集中講義期間が重複	指定した集中講義の期間が重複しています。
67	必修科目不足	必修科目の履修登録が不足しています。
68	卒業科目不足	【警告】卒業科目が不足しています。注意して下さい。
69	重複履修上限超過	重複履修の上限回数を越えているため、履修できません。
81	卒業要件マスタ未登録	【警告】卒業要件マスタが未登録です。教務課にお問い合わせをお願いします。
112	履修登録できないエラー	この授業の履修登録はできません。詳細は教務課までお問い合わせをお願いします。

閉じる

1、ポータル画面より、抽選授業希望登録を起動します。

2、抽選グループを選択します。

希望を登録する抽選科目が含まれるグループを一覧から選択します。
「抽選グループ名」をクリックすると抽選授業希望登録画面が表示されます。

画面1 抽選グループ一覧

抽選グループ名	申込状況
<input checked="" type="radio"/> 外国語1・3年次(1・2・5時間開設)	
<input type="radio"/> 学部共通科目C群(体育系)	
<input type="radio"/> コンピュータ入門A	
<input type="radio"/> コンピュータ入門B	
<input type="radio"/> 図学A	
<input type="radio"/> 図学B	

3、抽選授業の希望を登録します。

グループ内の抽選授業の希望順位を登録します。1グループ内で当選する授業は原則1つです。
 当選した抽選授業は履修登録済となり、取り消す場合は、履修登録画面から選択のチェックをはずしてください。
 (「美術選択実技・演習A、B」「美術共通実技・演習A、B」「デザイン工芸選択実技A、B」等、一部の抽選科目は取り消しできません)

グループで指定されている希望順位全てまたは希望順位以内で、「希望順位」を登録します。
 「登録確定」をクリックすると希望内容を登録し、画面1 抽選グループ一覧に戻ります。
 「登録中止」をクリックすると希望内容を破棄し、画面1 抽選グループ一覧に戻ります。

画面2 抽選授業希望登録

「登録内容を印刷する」をクリックすると、抽選希望登録内容をPDF形式で表示します。

ポータルサイトの利用が終わったら、画面の「ログアウト」をクリックして終了します。

■授業支援システム 《抽選授業結果》

1、ポータル画面より、授業抽選結果を起動します。

女子美術大学
JOSHIBI UNIVERSITY OF ART AND DESIGN

Active Academy

Welcome ■■■さん! ここはあなたの Personal Page です。

TOP
このページです
掲示板
学年層
個人へのお知らせ
連絡事項
休補講情報
リンク登録
授業支援
履修登録
通年授業履修中止申請
抽選授業希望登録
授業抽選結果
教員情報照会
レポート提出
シラバス (大学)
シラバス (短期大学)
シラバス (大学院)
就職活動支援

補講日の予定については、学内掲示板を確認してください。
(学部・短大)1年次「基礎学習ゼミ」の予定についてはWebシラバス及び学内掲示板を確認してください。

◎ リンク集へ

My Schedule

日 週 月

先週へ 01/15(日)~01/21(土) 翌週へ

01/15(日) 01/16(月) 01/17(火) 01/18(水) 01/19(木) 01/20(金) 01/21(土)

(開始)集中補講 (終了)集中補講

新しく予定を登録する

「履修登録」履修登録入力画面へ
残席のある抽選科目は、こちらから登録します。

「授業抽選結果」をクリックする。

2、抽選結果を確認します。

抽選結果（当選／落選）を確認します。抽選にもれた場合は、単位が不足していないか確認してください。
「印刷」をクリックすると、表示内容がPDF出力され、印刷・データ保存できます。
「閉じる」をクリックするとトップページに戻ります。

抽選結果発表後、残席がある抽選科目は、履修登録入力画面で登録できます。
同じグループ内で2つ以上の授業を履修したい方、落選して登録したい方は登録してください。
履修登録完了した方から、先着順で授業の定員まで登録されます。
履修登録完了した時点で、定員を超えてしまった場合は、登録できません。
残席は、他の学生の履修取消により変動します。

画面1 抽選授業結果確認

Active Academy

トップページ 掲示板 Web申請 授業支援 就職活動支援 アンケート My Information ログアウト

■ 抽選授業結果確認画面

平成■■年度 後期

「印刷」をクリックすると、表示内容を印刷・データ保存できます。

トップページに戻る。

抽選の申請および結果は以下の通りです。

印刷 閉じる

抽選結果	希望順位	授業コード	授業科目名	担当教員名	期間	曜日・時限	単位
落選	第1希望	3203A	英語Ⅰ	◎◎ 太郎	通年	火曜1限	2
当選	第2希望	3221A	ドイツ語(初級)	◎◎ 卷子	通年	火曜2限	2
未抽選	第3希望	3236A	中国語(初級)	◎◎ 夏子	通年	火曜1限	2

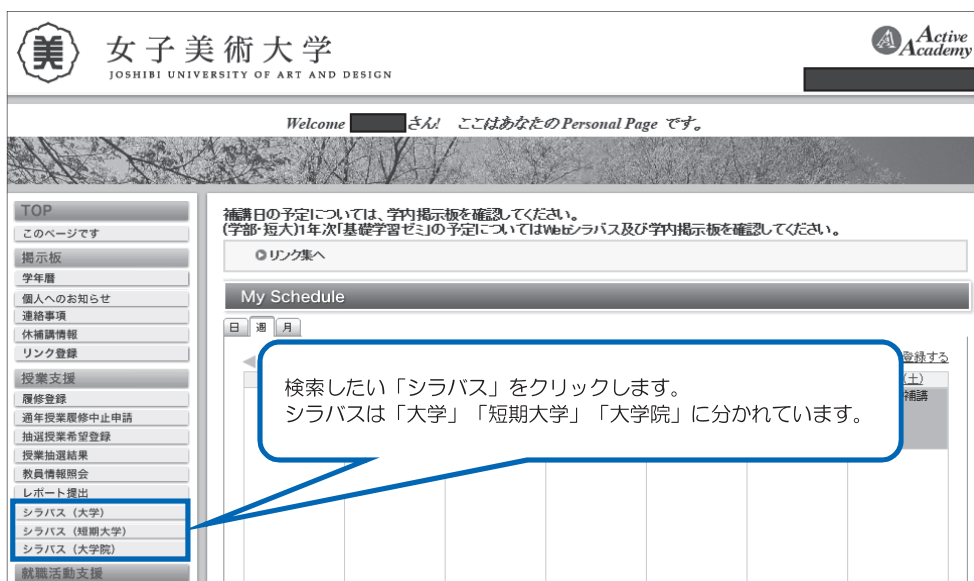
抽選結果

閉じる

ポータルサイトの利用が終わったら、画面の「ログアウト」をクリックして終了します。

■授業支援システム 《シラバス閲覧》

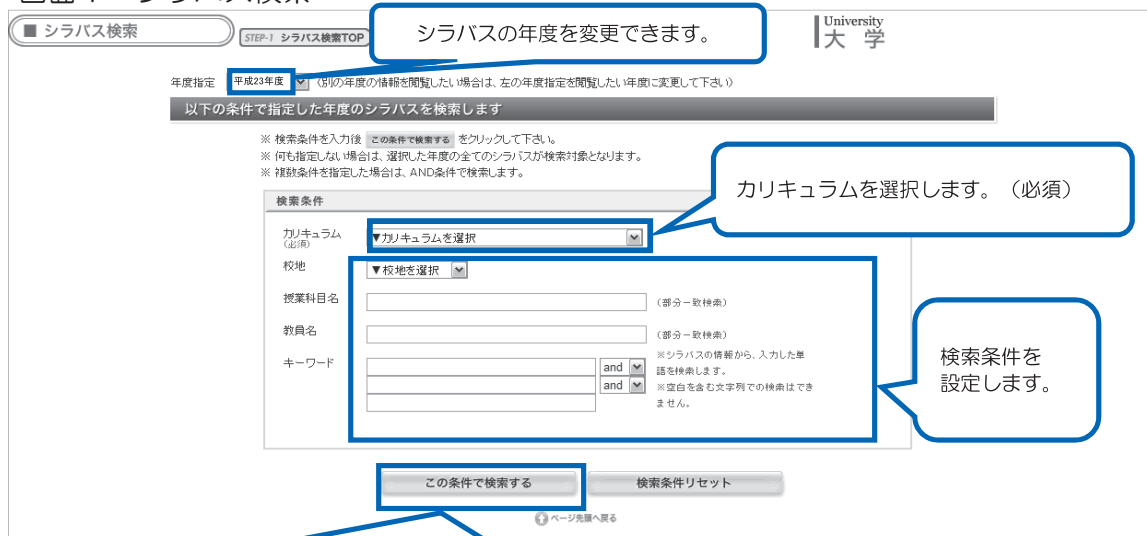
1、ポータル画面より、シラバス閲覧を起動します。



2、シラバス検索条件を入力します。

シラバスを閲覧する科目の検索条件を入力して、「この条件で検索する」をクリックします。カリキュラムは必須入力項目となります。

画面1 シラバス検索



設定した検索条件で検索します。検索条件設定が無い場合、選択したカリキュラムのシラバスが全件表示されます。

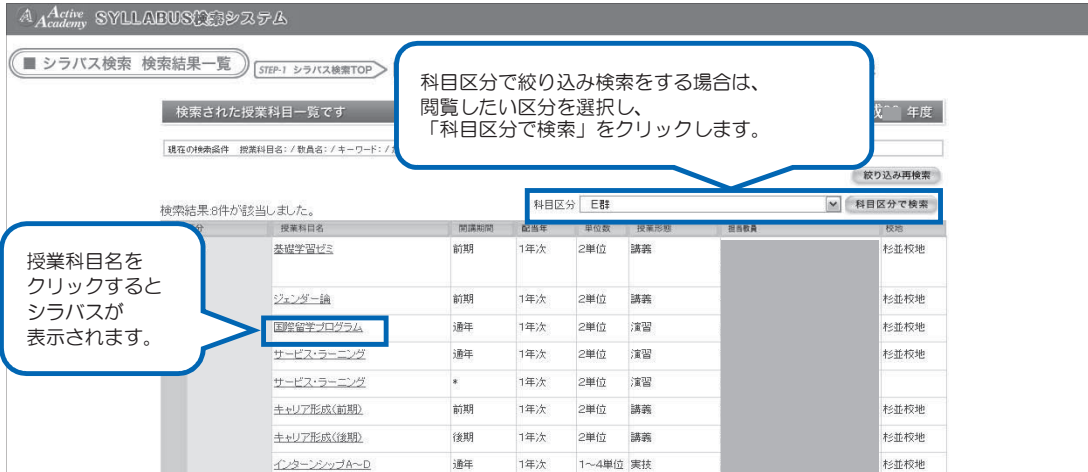
【検索条件】

項目名	必/任	説明
カリキュラム	必須	カリキュラムを選択します。
校地	任意	校地を選択します。
授業科目名	任意	授業科目名を入力します。部分一致検索となります。
教員名	任意	教員名を入力します。部分一致検索となります。
キーワード	任意	シラバスの、授業科目名、開講期間、配当年、単位数、授業形態、担当教員名、授業内容、授業計画の中に入力された単語を検索するための、キーワードを入力します。

3、シラバスを表示します。

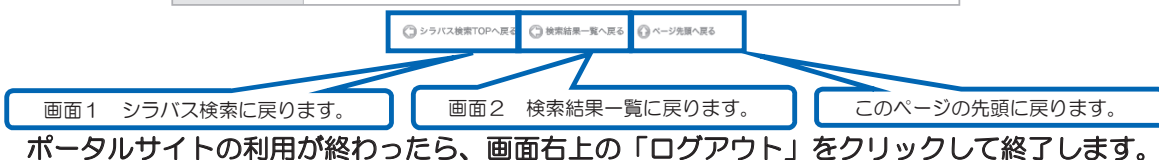
検索結果一覧が表示されるので、閲覧するシラバスの授業科目名をクリックします。
科目区分で絞り込み検索をする場合は、閲覧したい区分を選択し、「科目区分で検索」をクリックします。

画面2 検索結果一覧



画面3 授業内容

「シラバス検索TOPに戻る」で、画面1 シラバス検索に戻ります。
「検索結果一覧に戻る」で、画面2 検索結果一覧に戻ります。
「ページの先頭に戻る」で、画面3 授業内容画面の先頭に戻ります。



■授業支援システム 《Web レポート提出の手順について》

一部の科目において、Web上でレポート提出を行います。Active Academyから提出及び提出状況確認ができます。

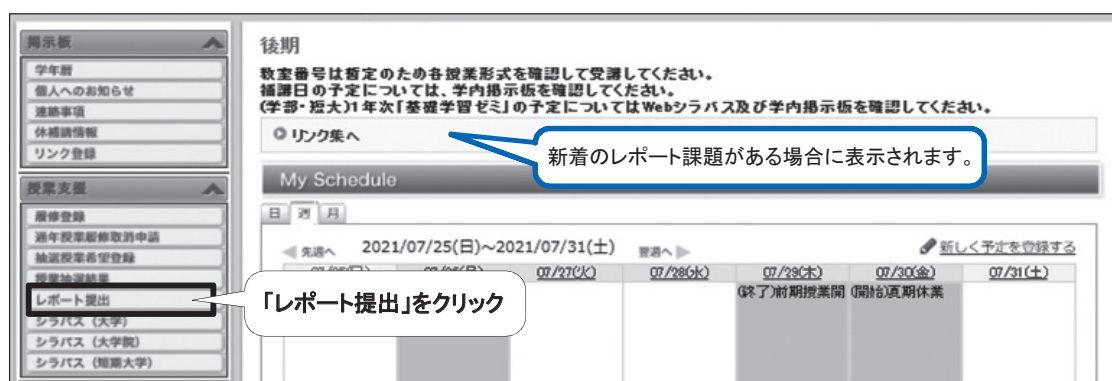
【Webレポート提出時の注意事項】

- ・ 毎日(AM)2:00~7:30はシステムメンテナンスのため停止しており、Active Academyへの接続は出来ません。
- ・ 指定されたレポート提出期限当日(特に締切直前の時間帯)は回線が混雑し、期限までに間に合わない恐れもありますので、余裕をもって提出するようにしてください。
- ・ あらかじめブラウザのポップアップブロック機能を解除した上で操作をしてください。
- ・ ファイル形式、ファイル名、ファイルサイズには制限があります。

※回線の混雑や操作ミス等、理由に関わらず教育支援センターでは提出を受け付けません。

●Webレポート提出操作の流れ

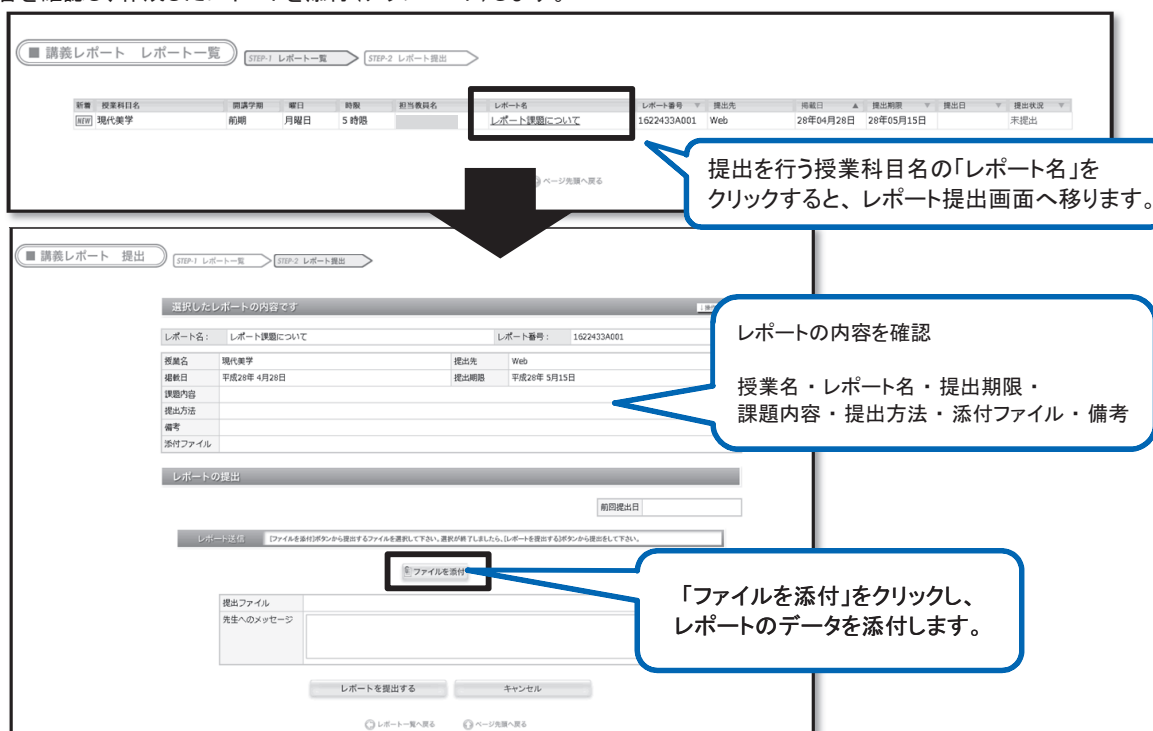
1. ポータルサイト「Active Academy」TOPページより、「レポート提出」をクリックし、情報を確認します。



2. レポート提出する授業を選択します。

履修している授業のうち、教員がWeb上でのレポート提出を設定した授業科目の一覧が表示されます。

(授業科目名、開講学期、曜日時限、担当教員名、レポート名、レポート番号、提出先、掲載日、提出期限、提出日、提出状況)内容を確認し、作成したレポートを添付(アップロード)します。



3. アップロード(添付)するレポートのデータを選択します。

「ファイルを添付」ボタンをクリックすると、「ファイルのアップロード」画面が別に表示されます。

【注意】ファイル添付(アップロード)上の注意

- ・ 1ファイル5MBまでのファイルを最大3ファイルまで。同一ファイルの複数アップロード不可。
- ・ 容量が大きいファイルを指定すると「ページを表示できません。」画面が表示される可能性があります。表示された場合はウィンドウを閉じてやり直して下さい。
- ・ PDF(pdf)、Word(doc、docx)ファイルのアップロードが可能です。ファイル名は全角27文字(半角55文字)以下にしてください。

【備考】ファイルアップロード画面が表示されない場合

各自で利用しているブラウザ(chrome、safari、Fire fox等)の設定からポップアップブロック機能を解除してください。

① 「ファイルを選択」をクリックし、作成したレポートのデータを選択

② レポートのデータを選択したら、「アップロード」ボタンをクリック

③ 「アップロードをしました」とメッセージが表示されます。
【注意】この時点ではまだレポート提出は完了していません

④ 添付が完了した場合→「閉じる」ボタン
他にも添付する場合 →「続けてアップロード」ボタンをクリック

4. 添付したレポートのデータを提出します。

レポートファイルの添付が全て完了したら、レポートを提出します。

「レポートを提出する」をクリック

「レポート提出を完了しました」と表示されたら提出完了です

5. レポートが提出されていることを確認します。

ポータルサイトTOPページより、「レポート提出」をクリックし、提出状況が「提出済」となっているかを確認します。

「提出済」と表示されているか必ず確認

新着	授業科目名	開講学期	曜日	時間	担当教員名	レポート名	レポート番号	提出先	掲載日	提出期限	提出日	提出状況
NEW	現代美学	前期	月曜日	5時限		レポート課題について	1622433A001	Web	28年04月28日	28年05月15日	28年04月28日	提出済

※レポートを再提出したい場合

レポートの再提出は、教員が設定した提出期限内であれば提出可能です。(提出方法は初回提出時と同じです。)

【注意】再提出した場合は前回提出したレポートのデータは全て破棄されますので、注意してください。

例:最初に複数のレポートデータを提出し、その後提出した内の1つのレポートだけを再提出する場合、再提出するレポートと一緒に、必ず前回提出した他のレポートも同時に提出してください。

こんな時は・・・



Q1. ファイルアップロード画面で「ファイル選択」ボタンを押しても画面が開かない。

A1. ①新たに別のタブが開いていないか確認してください。ブラウザをフルスクリーンの状態にしているとタブとして開く場合があります。

②インターネットブラウザのポップアップブロックを解除してください。

解除方法はブラウザやPCのOSまたはそれらのバージョンによって異なります。以下の方法でできなければ、インターネットで「ポップアップブロック解除 Safari(←使用しているブラウザ名やPCのOSを入力)」で調べてください。

(Safari)

1. トップメニューから「Safari」をクリックして「環境設定」を選択します。
2. 「Webサイト」タブをクリックします。
3. 左側の「一般」下にある「ポップアップウィンドウ」を選択します。
4. 右下にある「これ以外でのWebサイトでのデフォルト設定」のドロップダウンをクリックします。
5. 「許可」を選択します。

(Mozilla Firefox)

1. ブラウザ右上にある「ツール」メニュー(三本線)を開きます。
 2. 「オプション」をクリックします。
 3. 「コンテンツ」タブをクリックします。
 4. 「ポップアップウィンドウをブロックする」のチェックを外します。
- 2,3が表示されない場合は、「コンテンツブロッキング」をクリックして、「許可設定」のメニューに移動します。

(Google Chrome)

1. パソコンで Chrome を開きます。
2. 右上のその他アイコン: > [設定] をクリックします。
3. 下の [詳細設定] をクリックします。
4. [プライバシーとセキュリティ] の [サイトの設定] をクリックします。
5. [ポップアップとリダイレクト] をクリックします。
6. 上部の設定を [許可] に切り替えます。

(Internet Explorer)

1. Internet Explorerの画面右上にある歯車アイコンをクリック。
2. 「インターネットオプション」をクリック。
3. 「プライバシー」タブをクリックし、「ポップアップブロックを有効にする」のチェックを外します。

(Microsoft Edge)

1. Microsoft Edge [詳細] アイコン ... をタップします。
2. 「詳細」一覧が表示されます。[設定] をタップします。
3. 「設定」一覧が表示されます。「詳細設定」欄の [詳細設定を表示] をタップします。
4. [ポップアップをブロックする] 欄のつまみをタップし、オフに切り替えます。

Q2. アップロード時点で、「このファイルは文字化けする可能性があるのでファイル名を変更してください」のエラーメッセージが出る。

A2. ①インターネットブラウザをSafariに変えて試してください。Mozilla FirefoxやGoogleChromeの場合、上記のメッセージが出てしまう現象が見受けられます。

②①でも解消されない場合、可能であれば(レポートファイル名に指定された条件が特でない場合)ファイル名を変更してください。

濁音(ガザダバ行の音)や半濁音(バ行音)が含まれているとエラーが出てしまう可能性があります。

①②でもアップロードできない場合は教育支援センターまでご連絡ください。

Q3. アップロードしようすると、「ページを表示できません。」画面が表示される

A3. ファイルの容量が1ファイル5MBを超えていませんか？1ファイル5MBまでのファイルを最大3ファイルまでしかアップロードできません。

ファイルが複数ページにわたる場合は、3つのファイルに分割してそれぞれアップロードし、提出画面の「先生へのメッセージ」にその旨を記載してください。

Q4. 「レポートを提出する」ボタンをクリックしても次の画面に進めません。

A4. ファイル名を全角27文字(半角55文字)以下にしてください。

Web 出欠登録の手順について

●はじめに ～Web出欠登録について～

【スマートフォン出欠登録専用サイトについて】

- ・女子美術大学では、講義系授業科目における出席の届け出について「Web出欠管理システム」を導入しています。
- ・各自で出欠登録専用サイトへログイン&出欠登録を行うことで、授業科目毎の出欠情報がActive Academyの「出席簿」へ自動で登録されるため、出欠状況をリアルタイムに確認・把握する事が可能となります。

出欠登録専用サイト
QRコード



【ログインページについて】

(出欠登録専用サイトのURL) <https://aa.joshibi.net/attend/>

- ・スマートフォン・タブレット端末・PCからアクセス可能です。 ※QRコードでの接続も可能です。
- ☞上記URLをブックマーク(お気に入り登録)しておくと、次回より登録作業がスムーズになります。

【ユーザーID とパスワードについて】

Active Academyにログインする際に使用するユーザーID、パスワードと同じです。
ユーザーIDとパスワードを忘れてしまった場合は、下記「図書美術館グループ」までお問い合わせください。

- ・杉並キャンパス2号館B1階
- ・相模原キャンパス3号館(図書館)3階

【出欠登録時における注意事項について】

- ・出欠登録の際、毎回特定のパスワードを入力する必要があります。
- ☞パスワードは授業開始前に担当教員より告知されるので、よく注意して確認してください。
- ・出欠登録は制限時間内に行う必要があります。
- ☞出欠登録時間外は「遅刻」または「登録時間外」となりますので、パスワードを確認次第、早急に登録してください。



●出欠登録作業の流れについて

1. スマートフォン専用の出欠登録専用サイトに接続します。

(例：iPhoneを使用する場合)

- ① インターネットに接続したら、ブラウザアプリ(Safari等)で、出欠登録専用サイトにアクセスしてください。
<https://aa.joshibi.net/attend/> (※URLの打込み間違いに注意!) ※QRコードでの接続も可能です。
- ② ログイン画面が表示されたら、ユーザーIDとパスワードを入力してください。(図2)

出欠登録専用サイト
QRコード



図.2 ログイン画面

正常にログインすると
出欠登録画面が表示されます。
(図.3)

Active Academyにログインする際に使用
するユーザーID、パスワードと同じです。

正常にログインが出来なかった場合・・・(図.4)

図.4 エラー画面

【エラー原因について】

- ・インターネットに正しく接続されているか確認をしてください。
- ・接続が混雑している可能性がありますので、少し時間を空けて再度ログインを試みてください。

図.3 出欠登録画面

自身の学籍番号・氏名で
表示されているか確認してください。

- ・各自で履修登録している、1週間分の授業情報(講義科目)のみ一覧で表示されます。
- ・週の表示は日曜始まりとし、日曜になると翌週の表示に変わります。
- ・ここで表示される内容は下記の通りとなります。
①学籍コード ②氏名 ③日付 ④曜日 ⑤教室名[] ⑥担当教員

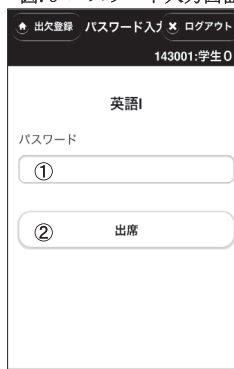
2. 出席する授業のパスワードを入力し、登録を完了します。

図.3 出欠登録画面



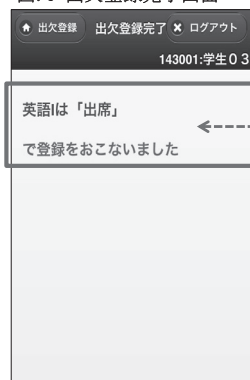
出欠登録画面(図.3)で、出席する授業名を選択するとパスワード入力画面に遷移します。(図.5)

図.5 パスワード入力画面



正しいパスワードを入力した場合、「〇〇(科目名)は「出席」で登録をおこないました」と表示されます。(図.6)

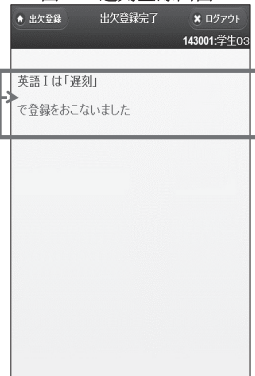
図.6 出欠登録完了画面



①「パスワード」入力欄に担当教員から事前に告知された指定のパスワードを入力します。(図.5)
②「出席」ボタンを押してください。

出欠登録時間外に登録した場合・・・

図.7 遅刻登録画面



出欠登録時間外に登録した場合、「〇〇(科目名)は「遅刻」で登録をおこないました」と表示されます。(図.7)

図.8 出欠登録画面



出欠登録画面に戻ると、出欠登録した授業の时限の横に登録状態(出席・遅刻・欠席)が表示されます。(図.8)

※無線接続時の混雑回避の為、作業終了後は必ずログアウトし、当該サイトの接続を終了するよう、ご協力ください。

以上でスマートフォン専用サイトによる出欠登録作業は終了です。各自、Active AcademyのMyInformation-個人情報-「出欠情報」にて出席状況を確認してください。

履修登録について

- Q.** 後期の科目も前期に履修登録するのですか。
- A.** その通りです。きちんと履修計画を立てて登録してください。
- Q.** 同一名称の科目を複数履修登録できますか。
- A.** 履修の手引P.20を参照してください。
- Q.** 以前に単位修得した科目を、再度、履修することはできますか。
- A.** 単位修得した科目を、再度、履修することはできません。
詳細については、P.20を参照してください。
- Q.** 学部共通科目の卒業所要単位（30単位）は4年間かけて履修すれば良いのですか。
- A.** その通りです。ただし、4年次になると就職活動や卒業制作等で忙しくなることもあります。できるだけ3年次までに学部共通科目の卒業所要単位を修得することをおすすめします。
- Q.** 現在2年次生で、教職課程を取っていますが、1年次の教職科目の単位を修得できませんでした。2年次で再履修することはできますか。
- A.** 再履修してください。再履修する科目が他の科目と時間割で重複する場合は、他学科のクラスを履修しても問題ありません。ただし、2年次の必修科目と重複する場合は、必修科目を優先してください。また、3年次生が1・2年次の教職科目の単位を修得できなかった場合も同様です。
- Q.** 他学科の学科共通科目の選択科目から履修できる科目は、どこに記載されていますか。
- A.** 「時間割」に記載しています。

Web履修について

- Q.** アクティブ・アカデミーのパスワードを紛失した場合はどうしたらよいですか。
- A.** 杉並キャンパスは2号館地階の図書館カウンターへ、相模原キャンパスは図書館3階事務室（情報システム担当）まで申し出てください。
- Q.** 抽選登録するのを忘れた場合はどうしたらよいですか。
- A.** 抽選結果発表後、残席のある科目を先着順で履修登録できます。ただし、美術選択実技・美術選択演習、デザイン・工芸選択実技を登録し忘れた場合は教育支援センターに申し出てください。
- Q.** 反対校地の他学科提供科目はどのように履修登録するのですか。
- A.** 履修の手引 P.115を参照してください。

Q. 取りたい科目がポータルサイトの画面上に表示されません。

A. 次のことをまず確認してください。

- ・曜日制限は合っているか。
- ・過去に単位修得した科目ではないか。
- ・科目の年次指定で、自分の学年が対象になっているか。

上記にあてはまっていて表示されない場合は、システムエラーの可能性があるので、教育支援センターに連絡してください。

Q. アクティブ・アカデミーの「お知らせ・連絡事項・休講情報」は携帯電話への転送設定ができますか？

A. 可能です。設定することをおすすめします。詳細は履修の手引 P.139を参照してください（プロフィール変更）。

Web 出欠登録について

Q. 自分のユーザー IDとパスワードが分からないor忘れてしまった場合…

A. 「図書美術館グループ」の情報システム担当（図書館事務室）までお問い合わせください。

Q. 学内Wi-Fiに接続出来たが、出欠登録専用サイトにアクセスできない場合…

A. 出欠登録専用サイトのURLを打ち込む際に、下記誤入力をしている場合が考えられますので、よく確認をしながらURLを打ち込んでください。

⇒よくある誤入力…【URLの最初、httpsの「s」が抜けている】、【「.」が抜けている】、【URLの最後に「/」を入れ忘れている】等

Q. 出欠登録完了後、出欠登録画面に【出席】と表示されたのに、後日Active AcademyのMyInformation－修学ポートフォリオ「出欠情報」で確認すると、出席になっていなかった場合

A. このような場合は、至急教育支援センターの窓口へ来てください。

【重要】出欠登録後、該当科目に【出席】が表示されたら、なるべくその場でActive Academyの出欠情報に反映されているか確認しておいてください。（※念の為、登録完了が表示された画面をスクリーンショット等で保存しておく、窓口で事情が説明しやすいかと思えます。）

Q. Google meetまたはclassroom等に接続できない（授業に参加できない）

A. デバイスや回線の不具合によるものが多く、大学側・教員側ではサポートすることが出来ない場合が散見されます。学生の皆さんはこれまでの経験を活かし、以下のように受講する体制を整えてください。

- ・出欠登録画面は時間に余裕を持って画面を開いておく
- ・主に使用するPCの他に、予備としてスマートフォンやタブレットにmeetやclassroomアプリケーションをインストールしておき、PCが不安定の際は他のデバイスからも接続できる状態にする
- ・主に使用するWi-Fi回線の他に、携帯電話の通信（4G等）回線を利用する（スマートフォンにも出欠登録画面をブックマークしておく）
- ・可能であれば、テザリングサービス（スマートフォンをWi-Fiルーターの代わりとする）を使用できるようにしておく

Q. 授業に出席しているにも関わらず、ActiveAcademyの出欠登録を忘れてしまった場合

A. 担当教員または教育支援センターに申し出があっても、自身の不注意や通信環境による出欠の未登録（欠席）、登録遅れ（遅刻）については一切対応致しませんので、そのようなことがないように、くれぐれも出席登録を忘れないようにしてください。

- Q.** classroomのクラスコードが分からない場合…
- A.** 作成・運用は授業担当教員が行っているため、教育支援センターではクラスコードを把握していません。授業担当教員に確認してください。
- Q.** 課題や資料の配信は何を使用しているか。
- A.** Google classroom、Google forms、ActiveAcademy等の使用が考えられます。授業科目ごとに運用が異なりますので、課題の提出方法は、必ず担当教員の指示に従ってください。

その他

- Q.** 授業を行う教室はどこでわかりますか。
- A.** 時間割表に記載があります。なお、教室が変更される場合もありますので、掲示板でも確認してください。
- Q.** 授業概要（シラバス）を見たいのですが。
- A.** ポータルサイトのトップ画面に表示されている「シラバス」をクリックして、授業概要（シラバス）を検索してください（履修の手引 P.151を参照）。
- Q.** 成績証明書に不合格科目の成績も記載されますか。
- A.** 成績証明書には単位修得した科目の成績のみ記載されます。
- Q.** 親戚に不幸があったので、忌引きの手続きをしたいのですが。
- A.** 女子美には忌引きの制度はありません。ただし、追試験の理由には該当します（履修の手引 P.8, 13を参照）。
- Q.** 実技時間帯に履修したい科目があるのですが、できますか。
- A.** 実技時間帯に他の科目を履修することは認められません。ただし、卒業年次生で卒業に必要な科目である場合、研究室の許可があれば認められることもあります。
- Q.** 学期末試験に学生証を忘れました。
- A.** 教育支援センターの窓口で「受験許可書」を発行しますので、申し出てください。
- Q.** ケガのため、1ヶ月程入院することになりました。何か手続きは必要ですか。
- A.** 特に手続きはありません。なお、欠席していた期間の授業内容については、担当教員に確認をしてください。
- Q.** 自分の出席回数を知りたいのですが。
- A.** 出席回数は各自で記録して下さい。Webを利用して出席確認を行う授業は、ポータルサイト「修学ポートフォリオ」メニューから確認することができます。
- Q.** オフィスアワーとは何ですか。
- A.** 先生に自由に質問、相談できる時間帯です。利用の一覧表は4月にポータルサイトで配信されていますので、参考にしてください。

※ポータルサイトにリンクしている「履修に関するQ&A」も参考にしてください。
https://www.joshibi.net/aa/risyu_QA.pdf

2023 履修登録用時間割 下書き表

	2・4年次専門科目時間帯 (実技時間帯) <small>※立体アート専攻3年次含む</small>		1・3年次専門科目時間帯 (実技時間帯)		
前 期	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
月					
火					
水					
木					
金					
土					

後 期	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
月					
火					
水					
木					
金					
土					

集中 など					

「集中など」の欄には
「専門科目時間帯の実技・演習系授業」「集中授業」「教育実習」「博物館実習」等を記入してください。